

富士市埋蔵文化財調査報告 第77集

静岡県 富士市

沢東 A 遺跡 第 28 次

宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2023年3月

富士市教育委員会



3区完掘全景（北東から）






例言

- 1 本書は、静岡県富士市久沢 98-1 (4,677 m²) において実施した沢東 A 遺跡第 28 次調査地点の発掘調査にかかわる報告である。発掘調査は宅地造成に先立つ事前調査として、事業者（株式会社 駿河勸業開発）からの委託により富士市教育委員会が実施した。調査に関わる費用は、全額事業者が負担した。
- 2 発掘調査は、確認調査（1 次調査）を令和 3 年（2021 年）4 月 20 日から 4 月 23 日にかけて、本発掘調査（2 次調査）を令和 3 年（2021 年）9 月 27 日から 11 月 26 日にかけて実施した。
調査掘削面積は確認調査が 225.388 m²、本発掘調査が 745.642 m²である。
- 3 本報告書刊行に向けた整理作業は、令和 4 年（2022 年）4 月 1 日に開始し、本書の刊行をもって終了した。
- 4 本書の編集は藤村 翔（富士市教育委員会文化財課主査）・小島 利史・若林 美希（同文化財調査員）がおこなった。執筆は藤村・若林・古瀬 岳洋（同文化財調査員）が担当した。
- 5 現地調査における記録写真撮影は藤村、空撮は株式会社フジヤマによる。
整理作業における遺物写真は、遺物単体写真を佐藤 祐樹（富士市教育委員会文化財課主査）、集合写真を藤村が撮影した。
- 6 本書で報告した調査に関わる記録図面・出土遺物等の資料は、すべて富士市教育委員会で保管している。今後、富士山かぐや姫ミュージアム（富士市立博物館）に移管する予定でいる。
- 7 本書の作成にあたり、次の方々にご協力をご指導を賜りました。厚く御礼申し上げます。（敬称略、五十音順）
渥美 賢吾 池谷 初恵 大谷 宏治 小田 裕樹 小泉 祐紀 小崎 晋 篠原 和大 鈴木 敏則 前嶋 秀張
村田 弘之 森川 実 渡井 英誉



静岡県富士市の位置

凡 例

- 1 本書で示す座標は、平面直角座標第Ⅷ系を用いた国土座標、世界測地系（平成14年4月施行）を使用している。調査では、国土地理院による都市再生街区基本調査成果を用いた。
- 2 挿図の縮尺は、各図に添付したスケールで示す。写真図版の縮尺はすべて任意である。
- 3 土器の実測図では、断面を以下のように表現することで種類の違いを示した。
縄文土器・弥生土器・土師器  須恵器  灰釉陶器・陶器 
- 4 土層・遺物の色調は『標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議局監修）に準拠した。
- 5 遺構・遺物ともに、法量の（ ）は残存値、[]は推定値である。また、土器の残存率は図示中での残存率を示した。
- 6 出土遺物の評価については、主として次の文献に基づいて検討した。

弥生土器・土師器

佐藤祐樹 2021「東駿河における古墳時代の土器様相」『向坂鋼二先生米寿記念論集—地域と考古学Ⅱ』向坂鋼二先生米寿記念論集刊行会

鈴木敏則 1998「古墳時代土器編年の概要」『梶子北遺跡』遺物編（本文）（財浜松市文化協会）

鈴木敏則 2004「静岡県下の須恵器編年」『有玉古窯』浜松市教育委員会

藤村 翔 2021「駿河国富士郡域における土師器の変遷—飛鳥時代から平安時代前半期を対象に—」『向坂鋼二先生米寿記念論集—地域と考古学Ⅱ』向坂鋼二先生米寿記念論集刊行会

渡井英誉 1997「土器編年」馬飼野行雄・渡井編『滝戸遺跡』富士宮市文化財調査報告書 第23集 富士宮市教育委員会

渡井英誉 1996「東駿河における布留式併行期の様相（前）—土器編年の設定—」『静岡県考古学研究』No.28 静岡県考古学会

中世陶磁器

池谷初恵 2019「富士市内出土の中世陶磁器の様相」『富士市内遺跡発掘調査報告書—平成29年度—』富士市教育委員会

菊川町教育委員会編 1999『横地城跡—総合調査報告書—』

目 次

例 言

凡 例

目 次

第 1 章	調査の経緯と経過	
第 1 節	発掘作業の経緯と経過	1
第 2 節	整理作業の経緯と経過	2
第 3 節	調査の体制	3
第 4 節	調査の方法と概要	4
第 2 章	沢東 A 遺跡の概要	
第 1 節	地理的環境	7
第 2 節	歴史的環境	8
第 3 節	調査履歴	10
第 3 章	調査の成果	
第 1 節	確認調査	13
第 2 節	1 区	16
第 3 節	2 区	25
第 4 節	3 区	35
第 4 章	総 括	53

付表 遺構一覧表

出土遺物観察表

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1章 調査の経緯と経過

第1節 発掘作業の経緯と経過

第1図 沢東A遺跡第28次調査地点 位置図 …………… 1

第2節 整理作業の経緯と経過

第2図 本発掘調査 1区重機掘削の様子（北東から）…………… 2

第3図 本発掘調査 1区調査風景（北東から）…………… 2

第3節 調査の体制

第4図 本発掘調査 3区SZ2004（SD2022）完掘（北東から）…………… 3

第5図 本発掘調査 調査参加者 …………… 3

第4節 調査の方法と概要

第6図 確認調査 トレンチ完掘全景（南から）…………… 4

第7図 確認調査及び本発掘調査配置図 …………… 4

第8図 本発掘調査全体図 …………… 5

第9図 本発掘調査土層断面図（基本土層）…………… 6

第2章 沢東A遺跡の概要

第1節 地理的環境

第10図 周辺地形図 …………… 7

第11図 沢東A遺跡の位置…………… 7

第2節 歴史的環境

第12図 遺跡分布図 …………… 9

第3節 調査履歴

第13図 調査履歴図 …………… 11

第3章 調査の成果

第1節 確認調査

第14図 確認調査出土遺物 …………… 13

第15図 確認調査トレンチ配置図…………… 14

第16図 確認調査セクション図…………… 15

第2節 1区

第17図 1区全体図 …………… 16

第18図 1区溝状遺構① …………… 17

第19図 1区溝状遺構② …………… 18

第20図 1区溝状遺構③ …………… 19

第21図 FP2001 …………… 20

第22図 1区土坑 …………… 21

第23図 1区ピット …………… 22

第24図 1区遺構外遺物出土状況図…………… 23

第25図 1区出土遺物（遺構）…………… 23

第26図 1区出土遺物（遺構外）…………… 24

第3節 2区

第27図 2区全体図 …………… 25

第28図 2区溝状遺構① …………… 26

第29図 2区溝状遺構② …………… 27

第30図 2区溝状遺構③ …………… 28

第31図 2区溝状遺構④ …………… 29

第32図 2区土坑 …………… 30

第33図 2区ピット …………… 31

第34図 SX2001・SX2002 …………… 31

第35図 SX2003 …………… 31

第36図 SX2006 …………… 32

第37図 SX2004・SX2005 …………… 32

第38図 2区遺構外遺物出土状況図…………… 33

第39図 2区出土遺物（遺構/遺構外）…………… 34

第4節 3区

第40図 3区全体図 …………… 35

第41図 3区古墳群 …………… 36

第42図 SZ2001（SD2047）…………… 38

第43図 SZ2001（SD2047）遺物出土状況図…………… 39

第44図 確認調査12Tr SD1001土層（南から）…………… 39

第45図 SZ2002（SX2010）…………… 39

第46図 SZ2002（SX2010）遺物出土状況図…………… 40

第47図 SZ2003（SK2042）…………… 40

第48図 SZ2004（SD2022）…………… 41

第49図 SZ2004（SD2022）遺物出土状況図…………… 42

第50図 SZ2005（SD2051・SD2052）・SZ2006（SD2050）…………… 44

第51図 確認調査13Tr SD1002検出（西から）…………… 45

第52図 確認調査13Tr SD1002土層（南から）…………… 45

第53図 3区出土遺物（古墳）…………… 45

第54図 SD2045・SD2046 …………… 47

第55図 SD2048・SD2049 …………… 47

第56図 3区土坑 …………… 48

第57図 SX2007・SX2008 …………… 49

第58図 SX2009…………… 49

第59図 SX2011…………… 49

第60図 SX2012…………… 50

第61図 SX2013…………… 50

第62図 3区遺構外遺物出土状況図…………… 50

第63図 3区出土遺物（その他の遺構/遺構外）…………… 51

第4章 総括

第64図 古墳時代後期前半における沢東A遺跡の景観と特徴…………… 54

第65図 潤井川流域～愛鷹山南西麓における古式群集墳の類例 …… 55

第66図 駿河東部・伊豆地域における中小首長墳と
古式群集墳の秩序（5世紀末～6世紀中葉頃）…………… 55

挿表目次

第2章 沢東A遺跡の概要

第3節 調査履歴

第1表 沢東A遺跡 調査履歴一覧…………… 12

巻頭図版目次

巻頭図版 1

- 3区完掘全景（北東から）

巻頭図版 2

- 古墳出土遺物集合

写真図版目次

PL.1

1. 調査区完掘全景（北東から）

PL.2

1. 調査区完掘遠景（南から）
2. 調査区完掘遠景（北から）

PL.3

1. 調査区完掘全景（北東から）
2. 調査区完掘全景（北東から）

PL.4

1. 1区完掘全景（北東から）
2. 調査前全景（南から）
3. 1区西側 SD 群検出（北西から）
4. FP2001 検出（北から）
5. FP2001 セクション（南西から）

PL.5

1. 2区完掘全景（南東から）
2. 2区完掘西側（東から）

PL.6

1. SD2026 完掘（南西から）
2. SD2026FP01（東から）
3. SD2026 遺物（89）出土状況（東から）
4. SD2030 完掘（北東から）
5. SD2034 完掘（西から）
6. SD2034 遺物（93）出土状況（南西から）

PL.7

1. SD2039 遺物（96・97）出土状況（北東から）
2. SD2042 遺物（98）出土状況（南西から）
3. SD2043・SD2044 完掘（西から）
4. SD2044 遺物出土状況（北東から）
5. SK2029 遺物出土状況（北東から）
6. 2区遺構外遺物（109）出土状況（南から）
7. 2区遺構外遺物（122）出土状況（南西から）

PL.8

1. 3区完掘全景（北東から）
2. 3区完掘東側（北西から）

PL.9

1. 3区完掘東側（北から）
2. 3区完掘西側（北東から）

PL.10

1. 3区完掘西側（東から）
2. 3区完掘西側（南東から）
3. 3区遺構検出全景（北西から）

PL.11

1. 3区遺構検出全景（北から）
2. SZ2001・SZ2002 検出（北から）

PL.12

1. SZ2001・SZ2002（北から）
2. SZ2001・SZ2002（南東から）

PL.13

1. SZ2001 完掘（北東から）
2. SZ2001・SZ2002 完掘（北東から）

PL.14

1. SZ2001 セクション（北東から）
2. SZ2001 遺物（奥が 135）出土状況（西から）
3. SZ2002 完掘（北西から）
4. SZ2003 完掘（北から）
5. SZ2003 遺物（138）出土状況（北西から）

PL.15

1. SZ2004 完掘（東から）

PL.16

1. SZ2004 完掘（北東から）
2. SZ2004（北西から）

PL.17

1. SZ2004 セクション（東から）
2. SZ2004 セクション（南西から）
3. SZ2004 セクション（南西から）
4. SZ2004 セクション（南西から）
5. SZ2004 遺物（139・143）出土状況（北から）
6. SZ2004 遺物出土状況（南東から）
7. SZ2004 調査風景（西から）

PL.18

1. SZ2004 遺物（139・140・141・143）出土状況（北から）
2. SZ2004 遺物（140）出土状況（北から）
3. SZ2004 遺物（141）出土状況（南東から）
4. SZ2004 遺物（139・143）出土状況（北西から）
5. SZ2004 遺物（143）出土状況（北から）

PL.19

1. SZ2005・SZ2006 完掘（北から）
2. SD2045・SX2012 完掘（北西から）
3. SD2048・SD2049 完掘（北東から）
4. 3区遺構外遺物（185）出土状況（北から）
5. 3区遺構外遺物（198）出土状況（北西から）

PL.20

1. SX2009 セクション（東から）
2. SX2009 完掘（南東から）
3. SX2011 検出（南東から）
4. SX2011 セクション（南東から）
5. SX2011 遺物（174）出土状況（南東から）

PL.21

1. 3区 オルソ画像

PL.22

出土遺物集合

PL.23

確認調査出土遺物

本調査1区 溝状遺構出土遺物

本調査1区 遺構外出土遺物

PL.24

本調査2区 遺構外出土遺物

本調査3区 溝状遺構出土遺物

PL.25

本調査3区 古墳出土遺物

PL.26

本調査3区 古墳出土遺物

本調査3区 不明遺構出土遺物

本調査3区 遺構外出土遺物

第1章 調査の経緯と経過

第1節 発掘作業の経緯と経過

1 確認調査（1次調査）

調査の経緯 富士市久沢 98-1 (4,677 m²) の土地所有者は、株式会社駿河勧業開発（以下、事業者）を通じて、当該地の不動産売買を計画した。しかし、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「沢東 A 遺跡」に該当していることから、富士市教育委員会の補助執行機関である富士市市民部文化振興課と埋蔵文化財の取り扱いについて協議をおこなうこととなった。その結果、土地所有者は令和3年（2021年）2月1日、富士市教育委員会教育長宛（文化振興課）に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」・「発掘調査承諾書」を提出した。

調査の経過 令和3年（2021年）4月16日、文化振興課は当該地における確認調査を計画し、文化財保護法第99条に基づく「発掘調査について」を静岡県知事宛に提出した（富市文発第55号）。確認調査は令和3年4月20日から同年4月23日まで実施している。調査の結果、地表下0.2～0.6mにおいて、調査区のはほぼ全体にわたって遺物包含層が遺存することが明らかになった。また、調査では土器や陶磁器からなるコンテナ1箱分の遺物が出土したため、埋蔵物の発見届及び出土品保管証を富士警察署長・静岡県知事にそれぞれ提出した（令和3年4月28日付富市文発第85号）。令和3年5月17日、出土遺物は静岡県知事により埋蔵文化財の認定を受けている（文財第425号）。令和3年5月12日、文化振興課は土地所有者ならびに静岡県知事宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第102号）を提出し、土地所有者へ今後土木工事を行う前に埋蔵文化財の保護に向けた協議が必要となる旨を伝えた。

2 本発掘調査（2次調査）

調査の経緯 その後、事業者は当該地における宅地造成工事を計画したので、文化振興課との間で文化財の保護に向けての協議を重ねた。しかし、道路

部分については本調査が回避できないこととなり、令和3年（2021年）6月30日、事業者は文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出書」を静岡県知事宛に提出した。この届出に対して、令和3年8月6日、静岡県知事から「土木工事等発掘指示通知書」が通知され（文財第1087号の2）、本発掘調査を実施することとなった。それを受けて、令和3年9月1日、事業者、富士市、富士市教育委員会の三者間で「令和3年度 沢東 A 遺跡第28次調査地点における文化財調査に関する協定書」を締結した。これに基づき、令和3年9月16日、事業者（委託者）と富士市長（受託者）の二者間で「令和3年度 沢東 A 遺跡第28次調査地点発掘作業に関わる業務委託契約書」を締結した。本発掘調査（2次調査）は富士市教育委員会（担当課：市民部文化振興課）が直接担当し、重機掘削業務および人力掘削業務などは事業者からの提供により実施することとなった。



第1図 沢東 A 遺跡第28次調査地点 位置図

調査の経過 令和3年(2021年)9月6日、文化振興課は当該地における本発掘調査を計画し、文化財保護法第99条に基づく「発掘調査について」を静岡県知事宛に提出した(富市文発第550号)。本発掘調査は道路建設予定地(950㎡)から隣接する既設道路や水路に影響がある箇所を除いた範囲を調査区(745.642㎡)とし、令和3年9月27日から同年11月26日まで実施している。調査の結果、古墳時代の古墳群のほか、弥生時代から奈良・平安時代の溝・土坑などを検出・完掘した。また、調査では土器や金属製品、石製品からなるコンテナ7箱分の遺物が

出土するため、埋蔵物の発見届及び出土品保管証を富士警察署長・静岡県知事にそれぞれ提出した(令和3年12月1日付富市文発第770号)。令和3年12月15日、出土遺物は静岡県知事により埋蔵文化財の認定を受けている(文財第1997号)。

令和3年11月26日、文化振興課は事業者の本発掘調査の完了について報告し(富市文発第742号)、令和4年1月7日、事業者ならびに静岡県知事宛に「発掘調査結果概要」(富市文発第875号)を提出した。その後、業務委託金の精算をもって、発掘作業に関する業務委託契約が終了した。

第2節 整理作業の経緯と経過

本発掘調査の終了後、令和3年9月1日に事業者、富士市、富士市教育委員会の三者間で締結した「令和3年度 沢東A遺跡第28次調査地点における文化財調査に関する協定書」に基づき、令和4年4月1日、整理作業に関わる業務委託契約が事業者と富士市長の二者間で締結された。

その後、出土遺物の洗浄、注記、接合検討、図化、写真撮影、遺構の記録図面及び写真の整理・編集、報告文の執筆、報告書の編集といった整理作業を行った。令和5年3月17日、本書を刊行し、業務委託金の精算をもって、整理作業に関わる業務委託契約が終了した。
(藤村 翔)



第2図 本発掘調査 1区重機掘削の様子(北東から)



第3図 本発掘調査 1区調査風景(北東から)

第3節 調査の体制

本書で報告する沢東 A 遺跡第 28 次調査地点に関する一連の調査は、以下の体制で実施した。

令和 3 年度（1・2 次調査）

〔調査主体〕

富士市教育委員会	教 育 長	森田嘉幸
〔担当機関〕		
富士市役所市民部	部 長	有川一博
文化振興課	課 長	久保田伸彦
文化財担当	統括主幹	植松良夫
	参 事 補	石川武男
調査担当者	主 査	佐藤祐樹
	主 査	藤村 翔
	文化財調査員	小島利史
	文化財調査員	若林美希
	発掘調査作業員	渡辺美規子

令和 4 年度（整理作業）

〔調査主体〕

富士市教育委員会	教 育 長	森田嘉幸
	教育次長	江村輝彦
文化財課	課 長	久保田伸彦
文化財活用担当	統括主幹	石川武男
	主 幹	瀧浪和美
調査担当者	主 査	佐藤祐樹
	主 査	藤村 翔
	文化財調査員	小島利史
	文化財調査員	若林美希
	文化財調査員	古瀬岳洋
整理作業員	文化財整理員	井上尚子
	文化財整理員	金田純子
	文化財整理員	小田貴子
	文化財整理員	伊藤純子
	報告書事務補助	渡辺美規子



第 4 図 本発掘調査 3 区 SZ2004 (SD2022) 完掘 (北東から)



第 5 図 本発掘調査 調査参加者

第4節 調査の方法と概要

1 確認調査（1次調査）

確認調査は令和3年4月20日から4月23日にかけて実施した。調査では、敷地内13箇所にトレンチを設定し、重機による表土除去の後、人力による遺構の精査および遺物の発見に努めた。

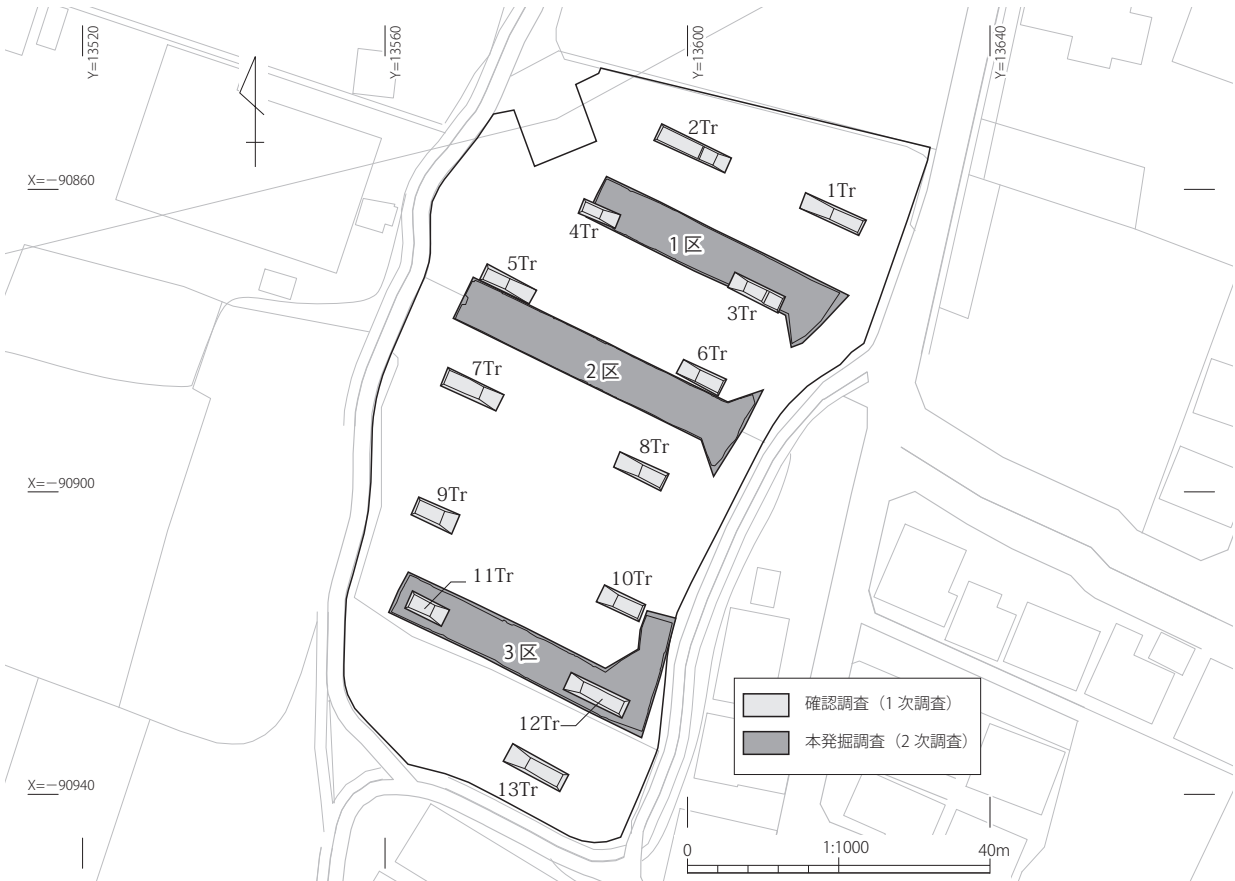


第6図 確認調査 トレンチ完掘全景（南から）

2 本発掘調査（2次調査）

本発掘調査は令和3年9月27日から11月26日にかけて実施した。調査区は北から1区、2区、3区と呼称し、北から順に掘削を行った。

調査は遺構検出に適したIV層（にぶい黄褐色土層）上面を遺構確認面として、重機（バックホウ）により表土から掘り下げていった。II層（III層起源の酸化鉄層）やIII層（黒褐色土層）も遺物が出土することは承知していたが、極めて締まりが強く、人力での掘削は困難を極めた。そのため、工期の都合上やむを得ず、遺物検出にも細心の注意を払い、出土地点の記録も同時併行で採りながら、重機によって土を薄く剥ぐような掘削を行った。IV層上面では人力による遺構精査をおこなった結果、3つの工区であわせて古墳6基、溝状遺構47条、炉1基、土坑28基、ピット14基、不明遺構12基を検出し、すべての遺構を完掘した。（藤村 翔）

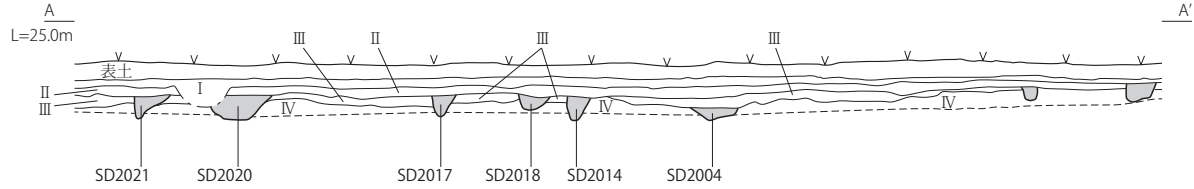


第7図 確認調査及び本発掘調査配置図

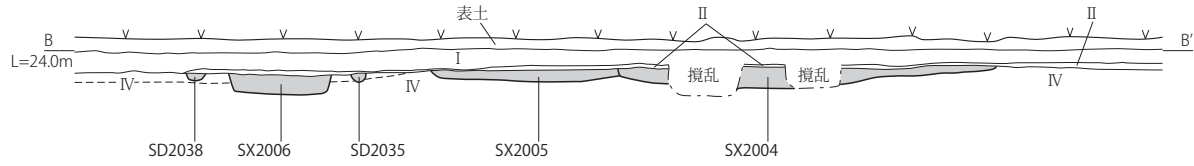


第8図 本発掘調査全体図

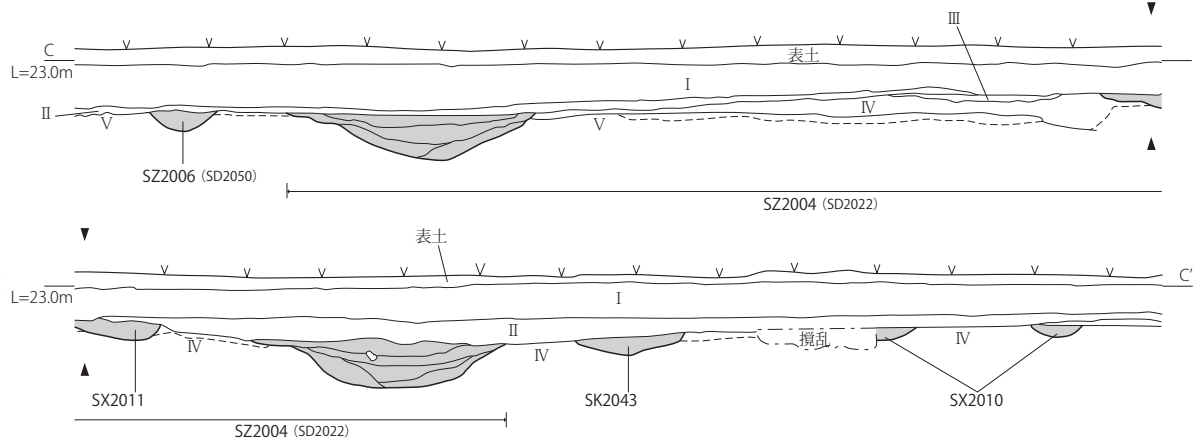
1区東西セクション北壁



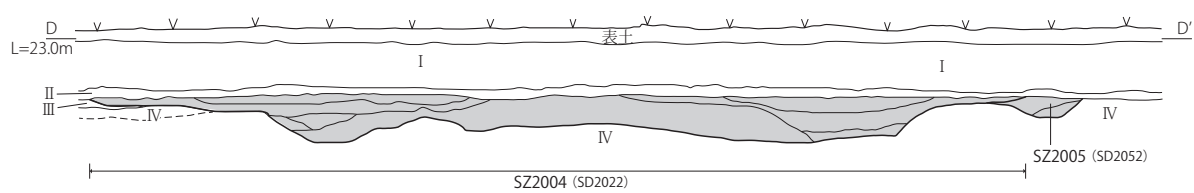
2区東西セクション北壁



3区東西セクション北壁

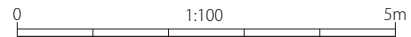


3区東西セクション南壁



基本土層

I	明褐色土 (7.5YR5/8)	しまり強、粘性なし。	近代耕作土
II	褐色酸化鉄土 (7.5YR4/3)	しまり極強、粘性なし。黄褐色スコリア粒子多量。褐色円礫少量。(I・III層が近代水田により酸化)	遺物包含層
III	黒褐色土 (10YR3/2)	しまり強、粘性なし。黄褐色スコリア粒子多量。	遺物包含層
IV	にぶい黄褐色土 (10YR4/3)	しまり強、粘性なし。黄褐色スコリア粒子少量。	
V	黄褐色土 (10YR5/6)	しまり極強、粘性なし。褐色円礫多量。	



第9図 本発掘調査土層断面図(基本土層)

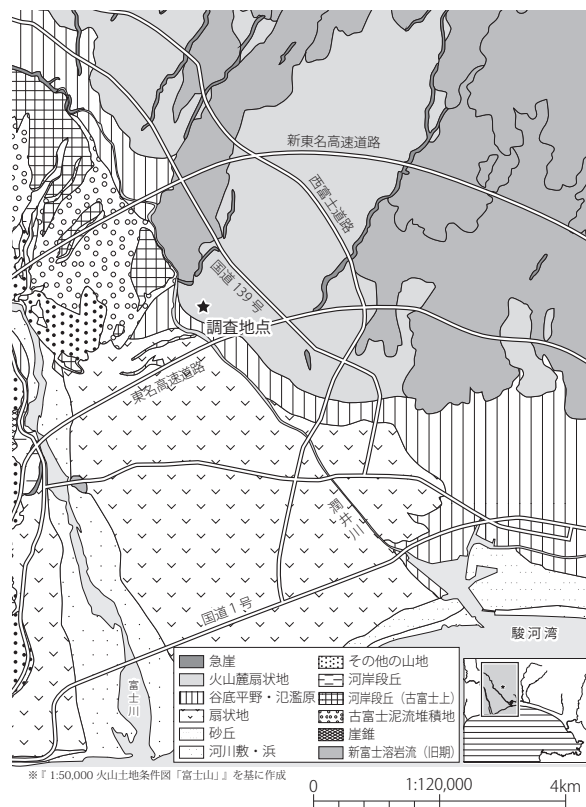
第2章 沢東 A 遺跡の概要

第1節 地理的環境

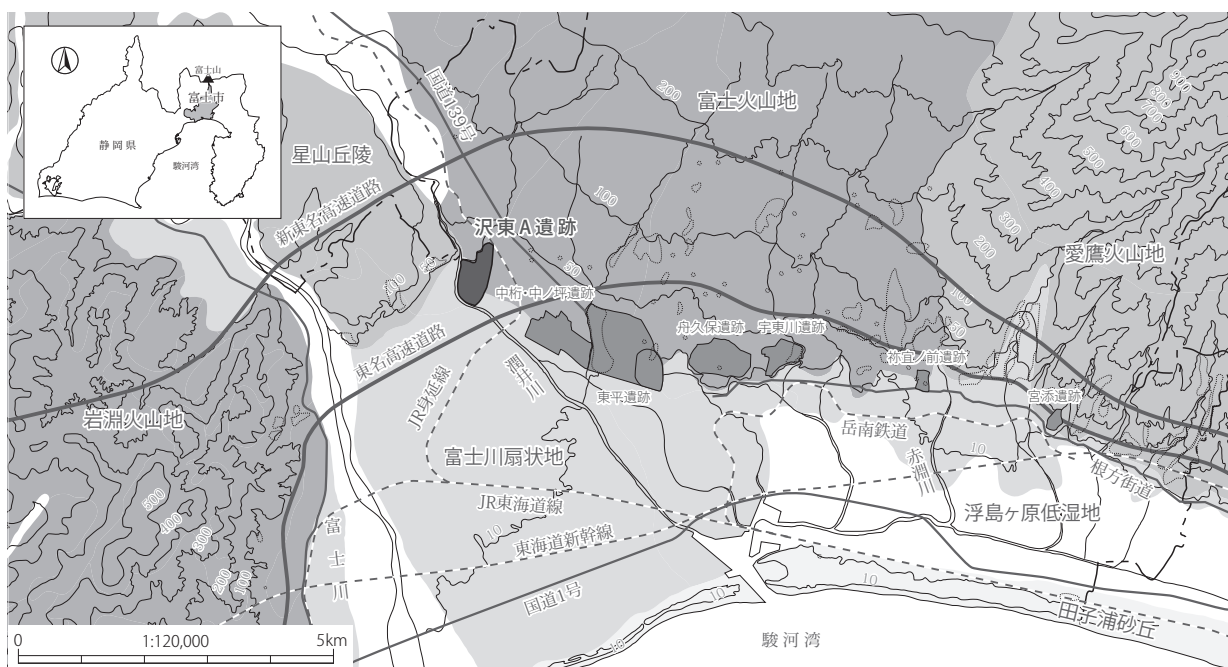
富士市は静岡県の東部に位置し、その地理的環境を概観すると、駿河湾を南に臨み、北には富士山がそびえ、山裾を南西に広げている。西には岩本山を有する星山丘陵が、東には休火山である愛鷹山が存在する。西方には北から流下した富士川が駿河湾に注ぎ、富士山西麓から流れる潤井川、愛鷹山に源流をもつ須津川や赤淵川など、多数の河川が流れる（第10・11図）。

こうした環境にある富士市域の地形は、富士山や愛鷹山の新旧火山活動により形成された丘陵地、富士川や潤井川が運搬した土砂の堆積により形成された沖積平野、河川の放出砂礫が駿河湾の沿岸流や波浪によって運搬され形成された田子浦砂丘（砂礫洲）、砂丘の内側につくられた湖沼に沖積層が堆積して発達した浮島ヶ原低湿地など、変化に富んだ様相をみせる。

地形の基盤のひとつである富士山の噴火活動は、小御岳火山の噴火（数十万年前）に始まり、古富士火



第10図 周辺地形図



第11図 沢東 A 遺跡の位置

山（8万年～1万6千年前）、新富士火山（1万4千年前～現在）と大きく3期に分けられる。不透水性の古富士泥流の上に、透水性の新富士火山溶岩流が広がるため、新富士火山溶岩流の末端には数多くの湧水が存在する。また、浮島ヶ原低湿地は稲作の適地として、古代より、肥沃な生産基盤であったとみられる。

第2節 歴史的環境

沢東A遺跡は、駿河湾から富士宮市域へと通じる水路である潤井川と、東西を結ぶ陸路が交差する場所に立地する、古墳時代中期から奈良・平安時代に営まれた集落跡である。

潤井川西岸に立地する高德坊遺跡では、弥生時代後期の土器と竪穴建物8軒が検出されている。この土器には遠江（静岡県西部）の影響が認められ、地域間交渉が活発になってきたことを示している（富士市教育委員会2012a）。

しかし、潤井川東岸地域で人の営みが確認されるのは古墳時代前期からである。川窪遺跡第1地区で大廓Ⅲ式期の土器を伴う溝状遺構が検出されており、方形周溝墓である可能性が考えられている（富士市教育委員会2008）。明確な遺構は検出されていないが、沢東A遺跡第5次調査地点でも大廓式土器が出土している（富士市教育委員会2012b）。

集落の姿が認められるのは古墳時代中期後半（5世紀後半）からである。中桁・中ノ坪遺跡第1地区（富士市教育委員会2004）や沢東A遺跡第1次・第3次調査地点、東平遺跡第28地区（富士市教育委員会2001）で竪穴建物が検出されている。これらの地点はいずれも潤井川、凡夫川やその氾濫原の近くに位置する。

その後、沢東A遺跡と中桁・中ノ坪遺跡では6世紀以降も連綿と集落が営まれ続けるが、東平遺跡においては6世紀代が集落の空白期となる。

6世紀初頭、東平遺跡の南西部に伊勢塚古墳（TK47～MT15型式併行期）が築かれる。伊勢塚古墳は墳丘径54mを測る二段築成の円墳で、潤井川東岸地域を開発した集団の最初の首長墓と位置づけられている。伊勢塚古墳を嚆矢として、この地に築かれる古

本書で報告する沢東A遺跡は、古墳時代から律令期の集落跡である。潤井川と凡夫川が合流する地点の東岸、大淵扇状地西側先端部の緩やかな丘陵上の標高20～40mに位置する。潤井川が氾濫すれば、その影響が及んだであろうが、そこに集落を営み続ける意味がある土地であったと考えられる。

墳を伝法古墳群と総称している。伊勢塚古墳に続いて、中原第4号墳（TK43型式併行期）、横沢古墳（TK209型式併行期）が築かれる。中原第4号墳は東駿河地域で最も早く横穴式石室を取り入れた古墳とされる。その副葬品には、装身具・武器・馬具・土器に加えて農工具や鍛冶具・生産用具などが多数含まれており、被葬者には、ヤマト王権と軍事的に結びつき、渡来系集団とも関わりをもち、鉄器生産・加工などの手工業技術をもってこの地域の開発を進めた集団を統率する指導者が想定されている（富士市教育委員会2016）。

東平遺跡では6世紀末頃から再び集落が認められるようになり、7世紀代は旧富士川氾濫原近くや、和田川の水源地近くで建物数が増加する。中桁・中ノ坪遺跡においても6～7世紀の集落は旧富士川氾濫原近くに営まれる。沢東A遺跡では、6世紀末から7世紀後半にかけて建物数が一挙に増加し、集落の最盛期を迎える。

伝法古墳群としては、国久保古墳（TK217/飛鳥Ⅰ）、中村上第1号墳（同）、東平第1号墳（TK217/飛鳥Ⅱ）などが集落より北側の広範囲に相次いで築かれる。国久保古墳からは雁木玉や鉄鐸が出土し、東平第1号墳には高句麗の武器を祖形とするとみられる丁字形利器や3振の大刀・馬具が副葬されるなど、被葬者には中原第4号墳以来の渡来系かつ軍事的な指導者という性格が引き継がれていると考えられる（富士市教育委員会2011・2018）。

8世紀になると、東平遺跡に突如として大規模な集落が築かれる。沢東A遺跡の北東に立地する沢東B遺跡でも、竪穴建物4軒、掘立柱建物4棟が



- | | |
|----------|--------------|
| 1 沢東A遺跡 | 17 中原遺跡 |
| 2 川坂遺跡 | 18 中桁・中ノ坪遺跡 |
| 3 天間沢遺跡 | 19 東平遺跡 |
| 4 天間代山遺跡 | 20 三日市廃寺跡 |
| 5 清水久保遺跡 | 21 水戸島遺跡 |
| 6 林泉寺岩跡 | A 滝戸原古墳群 |
| 7 入山瀬城跡 | B 鎌研古墳群 |
| 8 高德坊遺跡 | C 溝古墳群 |
| 9 念信園遺跡 | D 道下古墳群 |
| 10 貫井遺跡 | E 伝法1古墳群 |
| 11 沢東B遺跡 | F 土手内・中原1古墳群 |
| 12 川窪遺跡 | ア 横沢古墳 |
| 13 厚原遺跡 | イ 中原第3号墳 |
| 14 溝上遺跡 | ウ 中原第4号墳 |
| 15 傘木A遺跡 | エ 東平第1号墳 |
| 16 傘木B遺跡 | オ 伊勢塚古墳 |

遺跡の範囲
 古墳群の範囲

0 1:30000 1km

第12図 遺跡分布図

検出されている（富士市教育委員会 1998）。沢東 A 遺跡では北寄りの第 2 次・第 16 次調査地点に集落が認められる。中桁・中ノ坪遺跡や、東平遺跡の東に位置する滝下遺跡、国久保遺跡においても、この時期の集落が検出されている。全体に集落域が北側の広範囲に広がったことが見てとれる。この大規模な集落化は、律令制に基づく中央政権の地方支配によって計画的になされたものと考えられている。中でも、約 250 軒の竪穴建物とともに多くの掘立柱建物が整然と並び建っていた東平遺跡第 2・3・9 地区周辺（富士市教育委員会 1981・1992）が駿河国富士郡郡家の中核であると位置づけられている。

8 世紀前半には東平遺跡の大規模集落の西と東に墓域が移動し、西平第 1～5 号墳などが密集して築かれるが、8 世紀後半には古墳は築かれなくなる。

9 世紀前半には建物数が急激に減少し、9 世紀後半から 10 世紀前半には集落域も縮小する様子を見せる。東平遺跡では群家中核と見られた地区から集落が消え、中桁・中ノ坪遺跡でも、遺跡北側の広範囲に拡大していた集落域が潤井川近くに縮小するようである。その後、10 世紀後半以降の集落の姿は確認されていない。

沢東 A 遺跡の集落も 7 世紀に最盛期を迎えた後、9 世紀までは縮小しながら存続するが、10 世紀には継続しないようである。

第 3 節 調査履歴

沢東 A 遺跡は、昭和 46 年に行われた採土工事の際に、カマドとみられる焼土塊と数点の礫、古墳時代後期初頭に位置づけられる土器群が出土した（A 地点）ことにより発見された遺跡である。

その後、これまでに隣接地を含め、32 回の試掘・確認調査と、7 回の本発掘調査が行われている（令和 4 年 12 月現在、第 13 図、第 1 表）。

これまでの調査成果を概観すると、古墳時代の集落跡が第 1 次・第 3 次・第 4 次・第 13 次調査地点で確認され、第 5 次調査地点では明確な集落の姿は確認できないものの、性格不明の溝状遺構とともに、

川窪遺跡では古墳時代前期以降の集落の様子は明らかとなっていないが、第 1 地区で 11 世紀前半（百代寺窯式期）に位置づけられる竪穴建物が 1 軒検出されている。

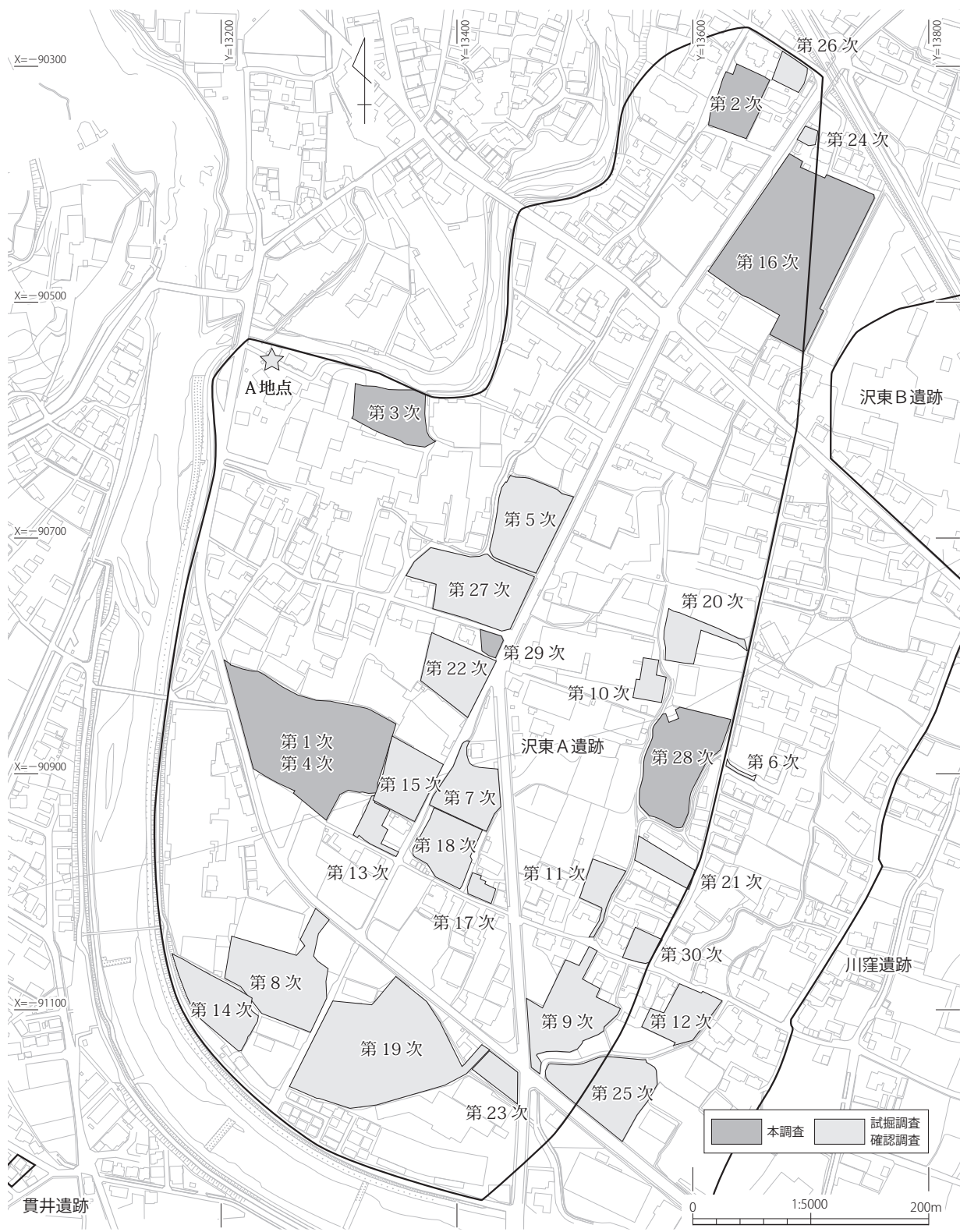
参考文献 ※沢東 A 遺跡に関する調査報告書は第 1 表に示す
 静岡県埋蔵文化財センター 2013『中桁・中ノ坪遺跡』静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第 24 集
 富士市教育委員会 1981『西富士道路（富士地区）・岳南広域都市計画道路田子浦臨港線埋蔵文化財発掘調査報告書』富士市教育委員会 1992『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書 第 3 集 東平遺跡第 3 次調査』富士市教育委員会 1998『沢東 B 遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書』富士市教育委員会 2001『東平遺跡 第 28 地区発掘調査報告書』富士市教育委員会 2004『中桁遺跡』富士市教育委員会 2007『中桁・中ノ坪遺跡 第 2 地区』富士市教育委員会 2008『平成 17・18 年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』富士市教育委員会 2011『平成 13 年度 富士市内遺跡・伝法 国久保古墳 埋蔵文化財発掘調査報告書』富士市教育委員会 2012a『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書』富士市埋蔵文化財調査報告 第 51 集
 富士市教育委員会 2012b『富士市内遺跡発掘調査報告書 -平成 11・12 年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第 53 集
 富士市教育委員会 2016『伝法 中原古墳群』富士市埋蔵文化財調査報告 第 59 集
 富士市教育委員会 2018『伝法 東平第 1 号墳』富士市埋蔵文化財調査報告 第 64 集

古墳時代前期（大廓式期）の S 字甕や壺が出土している。また、第 3 次調査地点では、子持勾玉や石製模造品などの祭祀遺物を伴う祭祀遺構（配石遺構・祭祀遺物埋納土坑）が発見されており、水辺の集落が行う祭祀の姿が想定される。

律令期の集落跡は第 1 次・第 2 次・第 16 次調査地点で確認されている。

本書で報告する第 28 次調査地点の調査では、本遺跡内に古墳時代後期前半の古墳が存在することが初めて明らかとなった。

（若林 美希）



第13図 調査履歴図

第1表 沢東A遺跡 調査履歴一覧

調査地点名	(地区名)	次	調査年度	調査種類	調査の契機	調査開始日	調査終了日	時代	遺構	遺物	報告書
A 地点			S46		採土工事			古墳時代後期	カマド	土師器	A・L
第1次調査地点 第4次調査地点		1次	S63	試掘調査	貸倉庫建設	19881205	19881220	古墳後期 ～奈良	竪穴建物 32 軒 祭祀遺構 1 基 溝状遺構 8 条 土坑 20 基	土師器・須恵器	L
第1次調査地点	(I・II地区)	2次	H03	本調査	遊技場建設	19910520	19910930	古墳後期 ～奈良	竪穴建物 27 軒 溝状遺構 2 条 掘立柱建物 3 棟 井戸・集石遺構	土師器・須恵器・陶器 ヘマタイト入り小壺	B・L
第2次調査地点	(III地区)	1次 2次	H04 H05	試掘調査 本調査	宅地造成	19930210 19930405	19930219 19930614	奈良 中世・近世	竪穴建物 9 軒 土坑・ピット	土師器・須恵器 かわらけ・銭貨	C
第3次調査地点	(IV地区)	1次 2次	H06 H06	試掘調査 本調査	資材置場造成	19940420 19940916	19940512 19950107	古墳	竪穴建物 19 軒 掘立柱建物 1 棟 祭祀・配石遺構 溝状遺構・土坑	土師器・須恵器 子持勾玉・石製模造品 ガラス小玉・砥石 土製紡錘車	D
第4次調査地点	(V地区)	2次	H07	本調査	貸倉庫建設	19950418	19951217	古墳中期 ～末期	竪穴建物 44 軒 掘立柱建物 6 棟	土師器・須恵器・砥石	E
第5次調査地点		1次	H12	試掘調査	工場建設	20000412	20000421	古墳初頭 ～平安	溝状遺構	土師器・須恵器	F
第6次調査地点	(隣接地)	1次	H12	試掘調査	宅地造成	20010208		古墳前期	なし	土師器	F
第7次調査地点		1次	H15	試掘調査	貸倉庫建設	20040306	20040315	古墳	竪穴建物?	土師器・須恵器	G
第8次調査地点		1次	H16	試掘調査	工場建設	20040806	20040818		なし	なし	H
第9次調査地点		1次	H18	試掘調査	店舗建設	20061221	20061222		なし	なし	I
第10次調査地点		1次	H19	試掘調査	倉庫建設	20071025			なし	なし	G
第10次調査地点		2次	H26	確認調査	工場新築	20141202			なし	なし	M
第11次調査地点		1次	H19	試掘調査	共同住宅建設	20080317			なし	なし	G
第12次調査地点	(包蔵地外)	1次	H21	試掘調査	集合住宅建設	20091119		中世・近世	水田	陶器	J
第13次調査地点		1次	H24	試掘調査	集合住宅新築	20120806	20120809	古墳	竪穴建物	土師器・須恵器	K
第14次調査地点		1次	H26	確認調査	宅地造成	20150119			なし	なし	M
第15次調査地点		1次	H27	確認調査	工場新築	20150602	20150608	古墳・奈良・ 平安	竪穴建物・土坑 ピット・溝	土師器・須恵器	M
第16次調査地点		1次 2次	H27 H27	確認調査 本調査	工場新築	20150610 20150804	20150615 20150925	奈良	竪穴建物・土坑 ピット・溝	土師器・須恵器・鉄器	M
第17次調査地点		1次	H27	確認調査	集合住宅新築	20160301			なし	灰釉陶器・土師器	M
第18次調査地点		1次	H28	確認調査	集合住宅新築	20160518	20160520	奈良・平安	ピット	土師器	N
第18次調査地点		2次	H28	確認調査	集合住宅新築	20160628			なし	なし	N
第19次調査地点		1次 2次	H28 H28	確認調査 確認調査	工場新築	20161025 20161208	20161026		なし なし	なし なし	N N
第20次調査地点		1次	H29	確認調査	集合住宅新築	20180206		古墳・奈良・ 平安	不明遺構	土師器	O
第21次調査地点		1次	H31	確認調査	貸倉庫新築	20190425			なし	なし	P
第22次調査地点		1次	H31	確認調査	貸倉庫建設	20191002	20191003		なし	なし	P
第23次調査地点		1次	H31	確認調査	住宅展示場建設	20200212			なし	なし	P
第24次調査地点		1次	R02	確認調査	個人住宅建設	20200820			なし	なし	Q
第25次調査地点		1次	R02	確認調査	駐車場造成	20201006			なし	なし	Q
第26次調査地点		1次	R02	確認調査	宅地造成	20201209	20201216	奈良・平安	不明遺構	土師器	Q
第27次調査地点		1次	R02	確認調査	機械塔新設	20210227			なし	なし	Q
第28次調査地点		1次 2次	R03 R03	確認調査 本発掘	不動産売買 宅地造成	20210420 20210927	20210423 2021126	弥生・古墳・ 平安・中世	古墳・溝状遺構 土坑・ピット・ 炉	弥生土器・土師器 須恵器・鉄製品・砥石 石製品・青磁	本書
第29次調査地点		1次 2次	R04 R04	確認調査 本発掘	事務所新築	20220707 20221011	20220708 20221013	弥生・古墳	溝状遺構 土坑・ピット	弥生土器・土師器	
第30次調査地点		1次	R04	確認調査	集合住宅建設	20221206			なし	なし	

報告書 ※全て富士市教育委員会による編集・発行である。

- A 『富士市の埋蔵文化財』(1986)
- B 『沢東A遺跡 埋蔵文化財発掘調査概報』(1992)
- C 『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書第4集 沢東A遺跡第2次調査』(1995)
- D 『沢東A遺跡 富士不燃建材(株)工場増設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(1995)
- E 『沢東A遺跡・第V地区 第4次調査発掘調査報告書』(1997)
- F 『富士市内遺跡発掘調査報告書 -平成11・12年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第53集(2012)
- G 『平成15・19年度富士市内遺跡発掘調査報告書』(2009)
- H 『平成16年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』(2006)
- I 『平成17・18年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』(2008)
- J 『平成21年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』(2011)
- K 『富士市内遺跡発掘調査報告書 -平成24・25年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第57集(2015)
- L 『沢東A遺跡第1次』富士市埋蔵文化財調査報告 第56集(2014)
- M 『富士市内遺跡発掘調査報告書 -平成26・27年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第60集(2017)
- N 『富士市内遺跡発掘調査報告書 -平成26・27年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第60集(2017)
- O 『富士市内遺跡発掘調査報告書 -平成29年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第66集(2019)
- P 『富士市内遺跡発掘調査報告書 -令和元年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第70集(2021)
- Q 『富士市内遺跡発掘調査報告書 -令和2年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第73集(2022)

第3章 調査の成果

第1節 確認調査

1 調査区の概要

確認調査では、敷地内13箇所にトレンチを設定し、調査を実施した。その結果、地表下0.2～0.6mにおいて、調査区のほぼ全体にわたって遺物包含層（I～V層）が遺存することが明らかになった。2・7Trでは弥生時代後期から古墳時代前期のものとみられる堅穴建物が検出されたほか、溝・土坑・ピットなどの存在も確認することができた。12・13Trで検出された2条の溝（SD1001・1002）は、トレンチ壁面における検出幅が2.5～2.7m、深さ0.3mを測るものである。確認調査時には判断が付かなかったものの、第4節で後述するように、本発掘調査を経てこれらの溝が古墳の周溝であることが判明した（本発掘調査SZ2001・2007）。

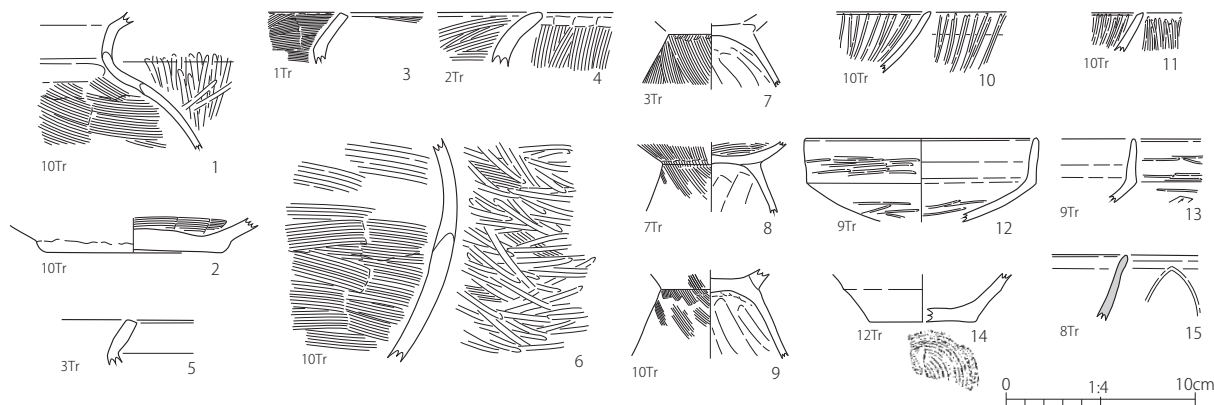
遺物包含層は、特に調査区西側において層序が前後するものもあり、堆積過程の詳細については検討を要する。調査区の西側は谷地形となっており、現在も小河川が流れていることを勘案すれば、過去の河川の氾濫等によって複雑に形成された扇状地堆積物上に、遺跡が営まれたことが推測される。

2 出土遺物（第14図）

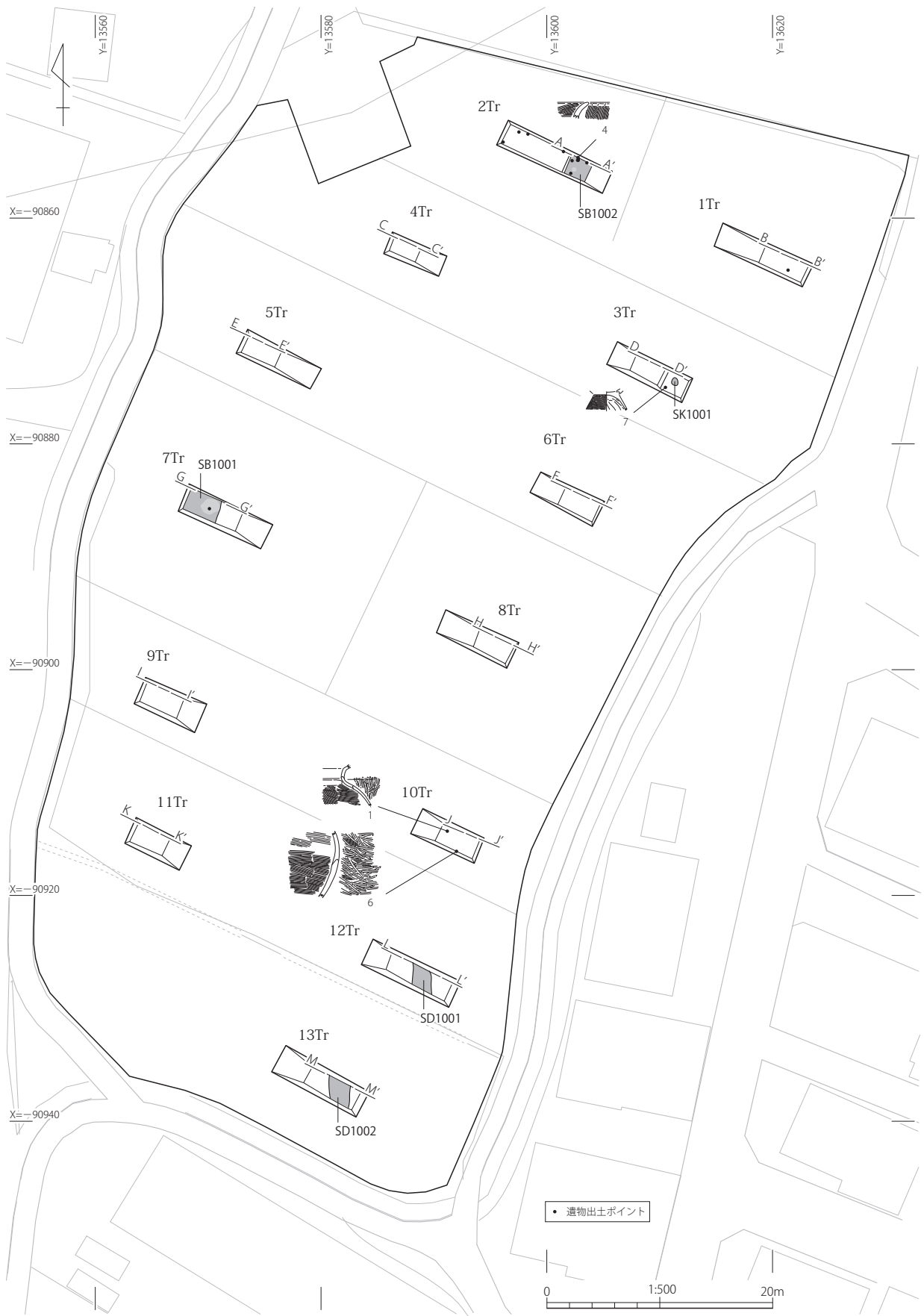
弥生土器 1～4はいずれも弥生土器とみられる。1は壺の口縁部～肩部で、外面にヘラミガキを施す。2は土師器の可能性もある壺の底部で、摩耗が著しいが、木葉痕があったとみられる。3・4は（台付）甕の口縁部である。3は口唇部に面を有するものであるが、4は口唇部を丸く収めるもので、外面に横方向の断続的なヘラナデを施して仕上げている。いずれも弥生時代後期（雌鹿塚式）に帰属する。

土師器 5～14は土師器である。5は小型壺の口縁部、6は壺の体部である。7～9はS字甕の底部～台部である。10・11は高坏の口縁部で、内外ともにタテヘラミガキを施す。5～11は弥生時代終末期～古墳時代前期（大廓式）に帰属する。12・13は須恵器坏蓋を模倣した形態の坏である。12は内外面に極細のヨコヘラミガキを施す。13は底部をヘラケズリによって整形する。12・13は古墳時代中期後半～後期（安久式）に帰属する。14は底部糸切未調整の坏であり、平安時代（富士VII、10世紀前半以降）に帰属するものである。

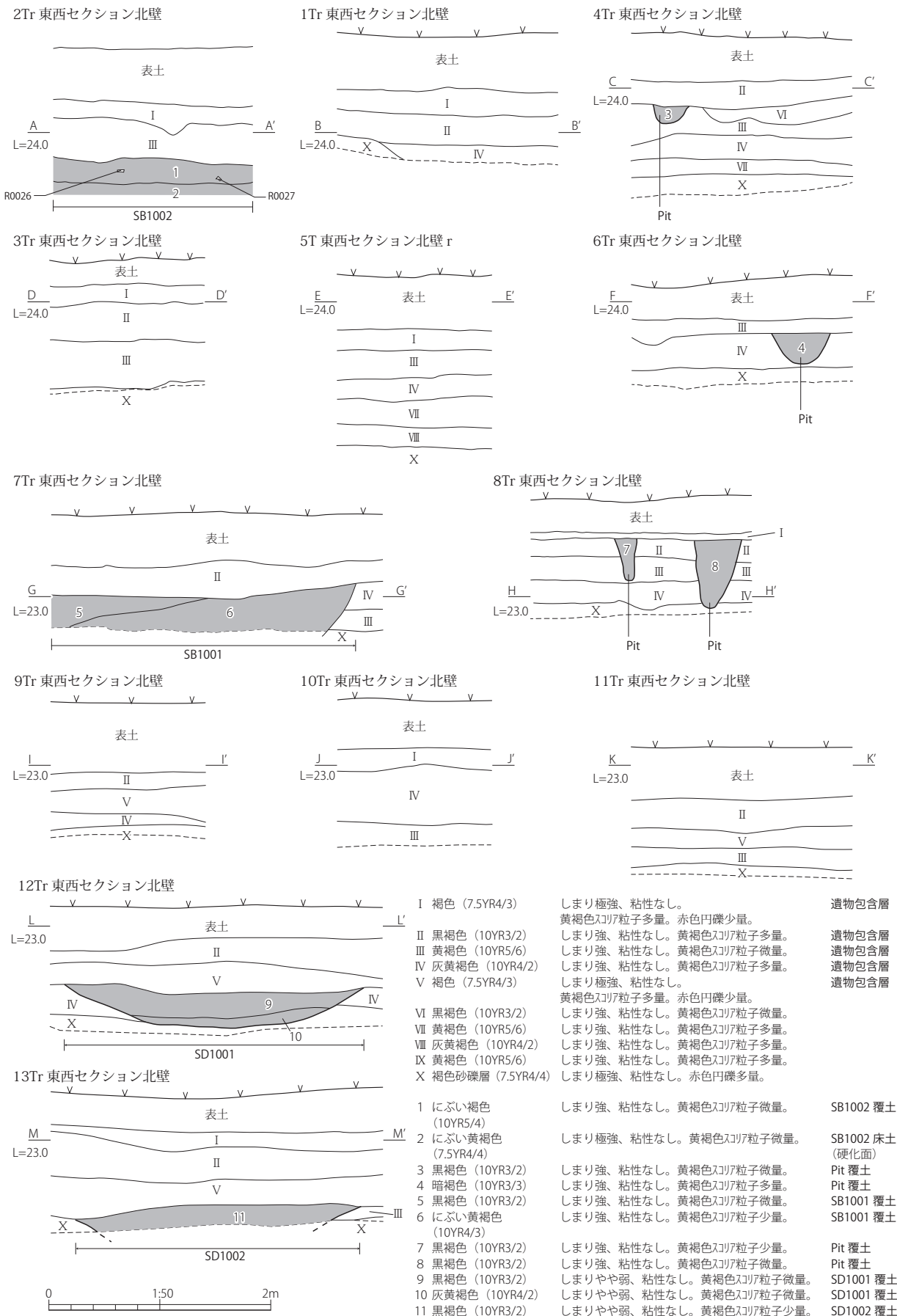
青磁 15は龍泉窯系の青磁碗で、外面に蓮弁文を施す。中世前期（13世紀後半）〔龍泉窯系青磁碗B1類〕に帰属するとみられる^{（註1）}。（藤村 翔）



第14図 確認調査出土遺物



第15図 確認調査トレンチ配置図



第16図 確認調査セクション図

第2節 1区

1 調査区の概要

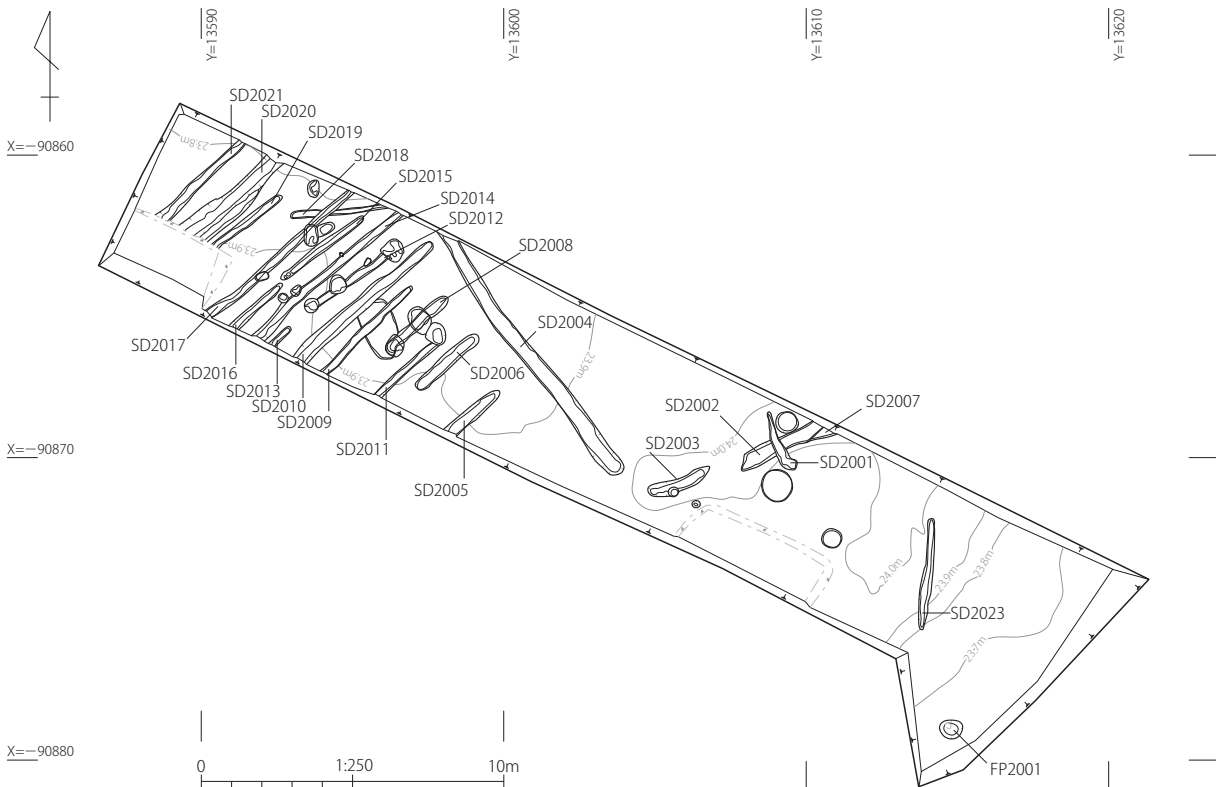
1区は、今回の調査地の北側に長さ約36m、幅約6mの範囲で設定した本発掘調査区である。北東から南西にむかって次第に低くなる地形であることから、調査区の西側の方が遺構の残りが良いのに対し、東側は近代の耕作に伴う削平の影響もあり、遺構は疎らであった。

検出された遺構は、溝状遺構22条（SD2001～2021・2023）、炉1基（FP2001）、土坑・ピット20基（SK2001～Pit2020）であり、すべて基本土層のⅢ層またはⅣ層から切り込んで形成されている（第9図）。後述するように、溝状遺構の多くは方位を揃え、幅狭な形状で互いに近接して形成されていることから、耕作（畝作）に伴う畝間溝と考えられる。

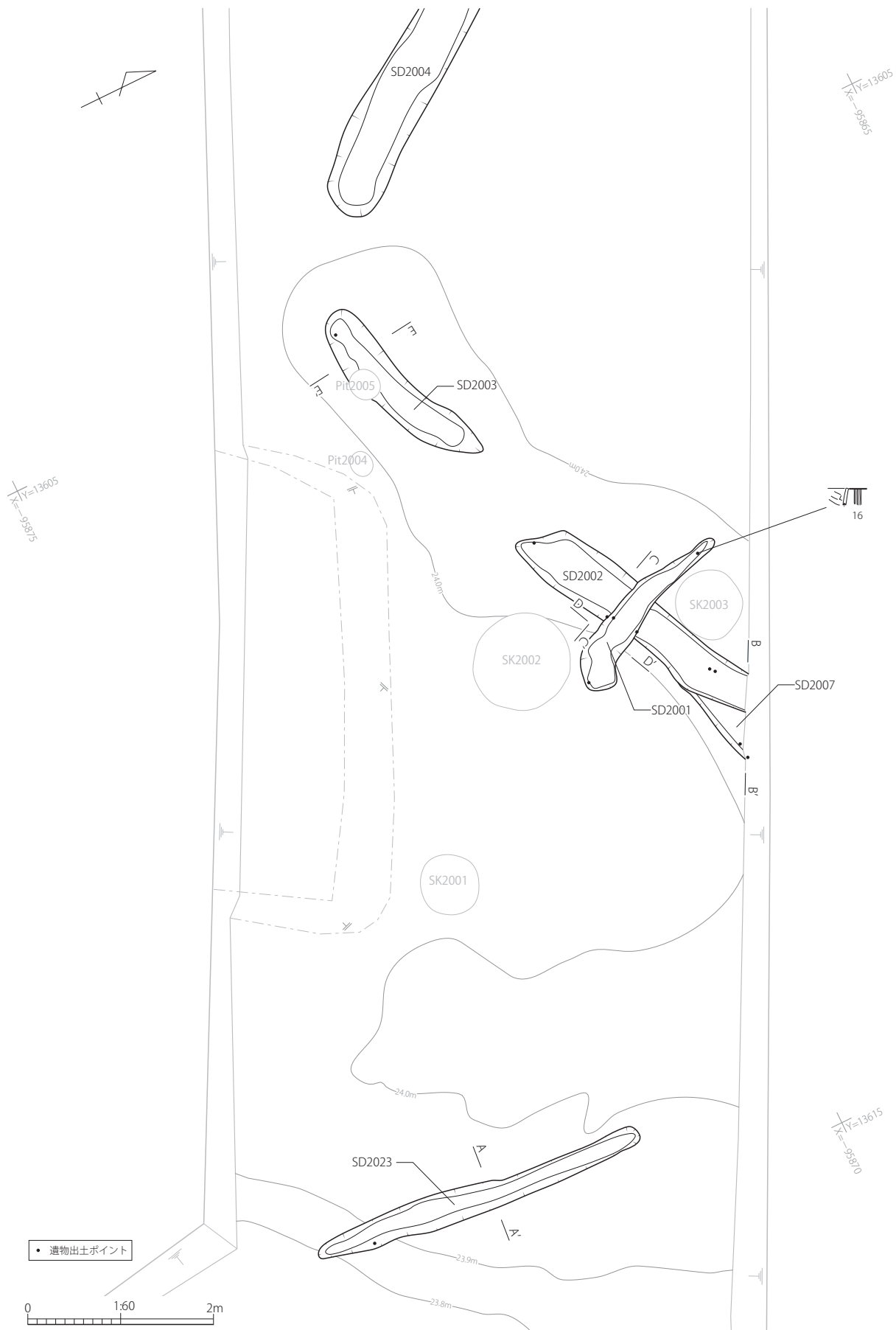
2 溝状遺構

溝状遺構は22条（SD2001～2021・2023）を検出・調査した。遺構の規模や方位等は巻末の遺構一覧表に示している。西側のSD2005、2006、2008～2017、2019～2021はいずれも方位がN-45～50°-E前後、検出幅も30cm前後に揃っており、同種の機能が想定される。方位を揃えた幅狭な溝が近接・密集して形成されているとみれば、一連の耕作（畝作）に伴う畝間溝の可能性が高いと判断できる。それらと直角方向に延びるSD2004についても、やや幅広な形状を重視すれば、耕作地の区画や排水を目的とした溝の可能性はあるだろう。

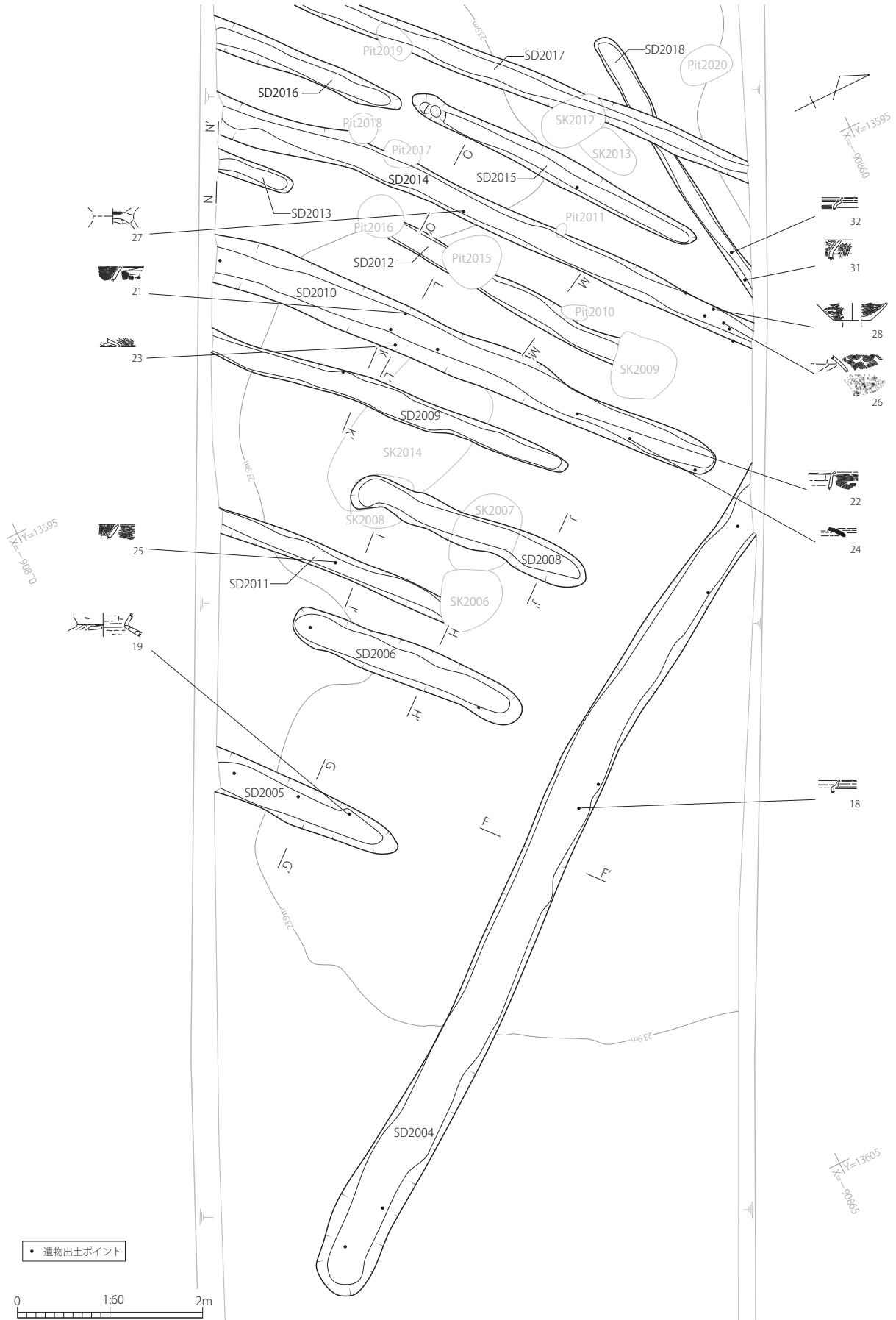
覆土から出土した土器の年代観から、調査区周辺は弥生時代後期から古墳時代前期にかけて営まれた耕作地であったと考えておきたい。



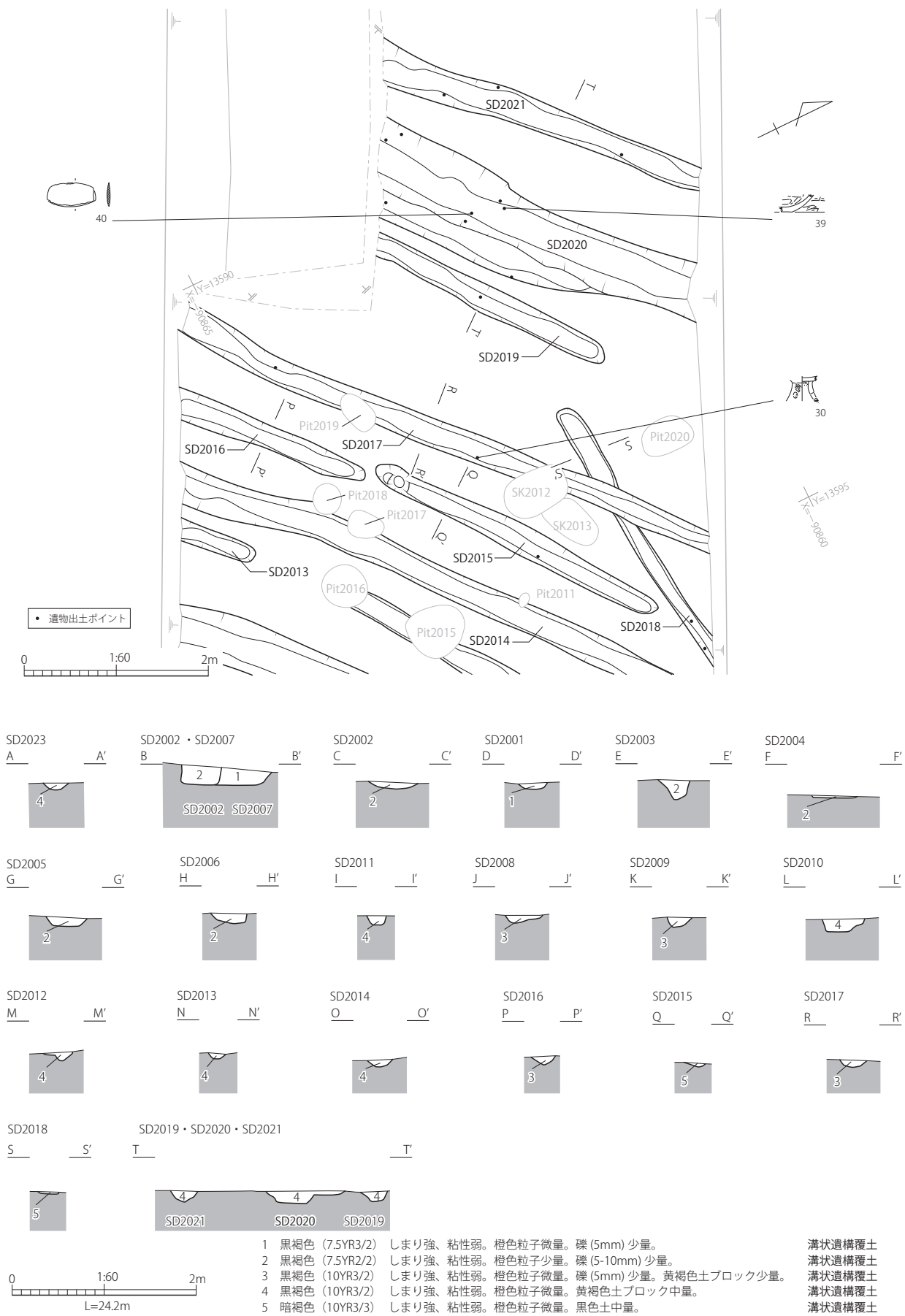
第17図 1区全体図



第18図 1区溝状遺構①

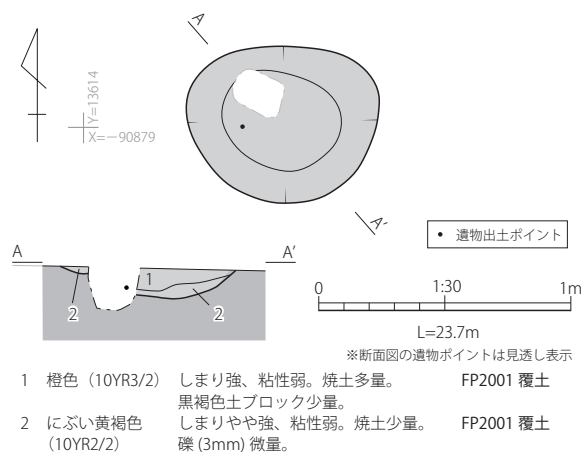


第19図 1区溝状遺構②



第20図 1区溝状遺構③

出土遺物（第25図） SD2001では弥生土器の複合口縁壺の口縁部（16）が出土した。外面に縦位の沈線を施す。SD2004では弥生土器壺の口縁部（17）、土師器S字甕の口縁部（18）が出土した。17は口縁部上面に竹管文を施す。SD2005では弥生土器壺の口縁部～肩部（19）が出土した。SD2006では土師器S字甕の口縁部（20）が出土した。SD2010では弥生土器（台付）甕の口縁部（21）、土師器鉢の口縁部（22）、同高坏の脚部（23）、須恵器坏蓋（24）が出土した。SD2011では土師器小型壺の口縁部（25）が出土した。SD2014では弥生土器壺（26）、土師器台付甕（27）、同高坏（28・29）が出土した。26は当該地周辺の資料では珍しく、肩部外面に幅広の波状文を施すものである。胎土や文様の特徴から、弥生時代後期の菊川系土器（楯描文文化）の影響を受けて富士山麓で製作されたものとみられる^{（註2）}。SD2017では土師器高坏の脚部（30）が出土した。脚部には三方に円形の透かしを施す。SD2018では弥生土器壺（31）、土師器S字甕（32）、同鉢（33）が出土した。32はやや受口状の口縁部形態を呈する。SD2019では土師器坏が出土した。SD2020では土師器壺（35・36）、同小型壺（37）、同坏（38・39）、不明鉄製品（40）が出土した。40は図示した上下の辺の厚みが細くなっているが、刃部を意図したものかどうか判然としない。SD2021では土師器坏（41）が出土した。



第21図 FP2001

帰属時期の傾向としては、弥生土器の壺・（台付）甕類が弥生時代後期（雌鹿塚式）、土師器の壺類やS字甕・台付甕、高坏などが弥生時代終末期～古墳時代前期（大廓式）、土師器坏や須恵器坏蓋は古墳時代中期後半～後期（安久式）におおよそ帰属するが、未報告資料も含めた出土土器全体の傾向としては、弥生時代後期から古墳時代前期の土器片が多数を占めており、器壁の摩滅も顕著である。1区で多数検出された溝状遺構を耕作（畠作）に伴う畝間溝とみれば、遺物量の多い弥生時代後期から古墳時代前期にかけての時期に帰属する蓋然性が高い。近接する集落から1区周辺の耕作地へ、多数の土器片が流れ込んだ状況が推測される。

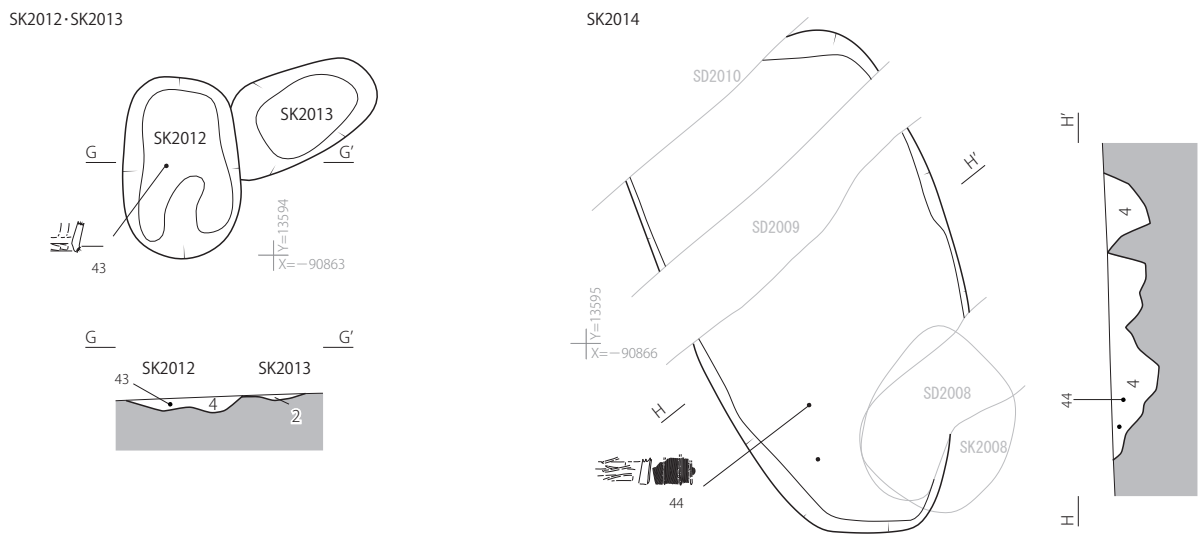
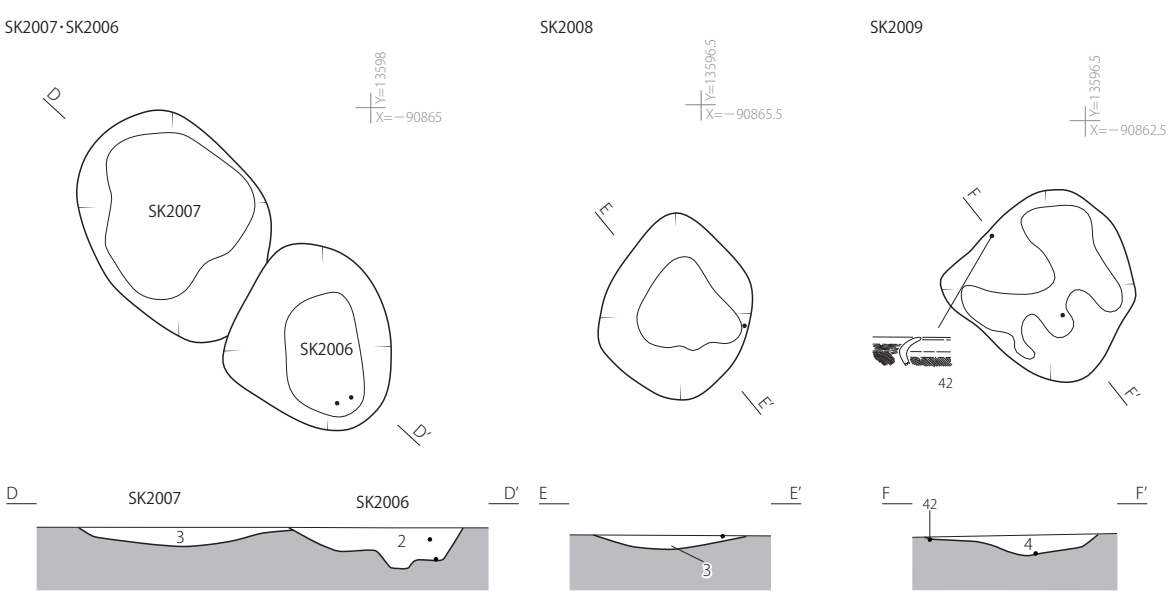
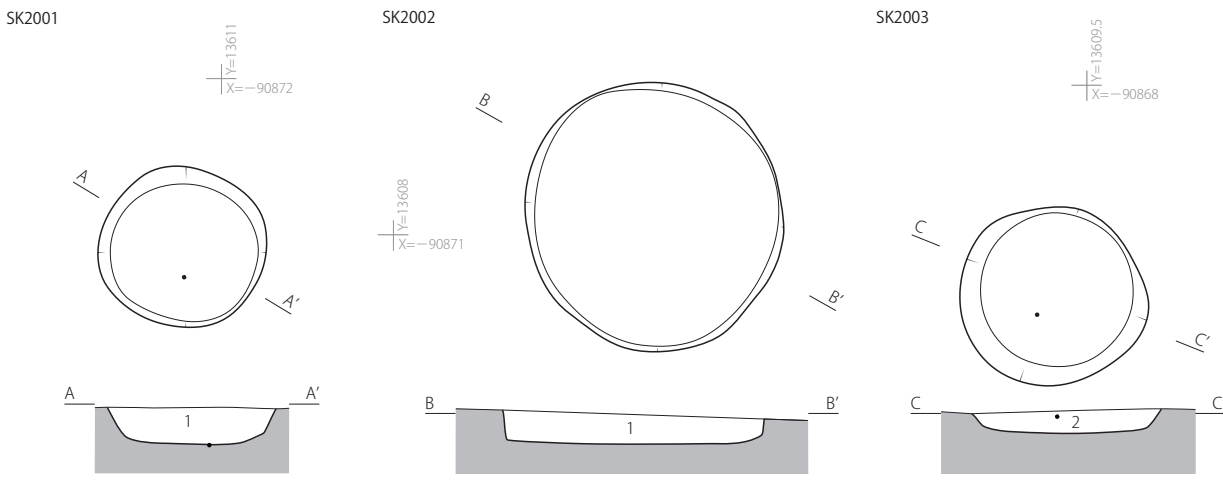
3 炉

炉は1基を検出・調査した。FP2001は平面形が楕円形で、長軸70cm、短軸67cm、深さ12cmを測る。断面形は浅い丸底状を呈する。焼土は覆土の上層に多く含まれている。なお、遺構中央北西寄りに近代の攪乱が及んでいる。覆土中より遺物が検出されたものの、図化には至らなかった。

4 土坑・ピット

土坑10基、ピット10基を検出・調査した（SK2001～Pit2020）。土坑とピットには連続する番号を付与している。溝状遺構と重複する土坑・ピットは、全て溝状遺構を切って形成されている。遺構の規模等は巻末の遺構一覧表に示す。いずれも配置等に規則性は見いだせず、掘立柱建物などの遺構の存在を積極的に推定することはできなかった。

出土遺物（第25図） SK2009で土師器甕（42）、SK2012で土師器壺（43）、SK2014で弥生土器の複合口縁壺（44）が出土した。44は外面に縦位の棒状浮文を貼付け、縁辺をヘラナデによって押さええている。弥生時代後期（雌鹿塚式）に帰属するとみられる。



- | | |
|---|------|
| 1 黒褐色 (10YR3/2) しまり強、粘性弱。橙色粒子少量。礫 (2-3mm) 少量。 | 土坑覆土 |
| 2 黒褐色 (10YR2/2) しまりやや強、粘性弱。橙色粒子微量。 | 土坑覆土 |
| 3 黒褐色 (10YR2/3) しまり強、粘性弱。橙色粒子微量。黄褐色土ブロック少量。 | 土坑覆土 |
| 4 黒褐色 (10YR3/2) しまり強、粘性やや弱。黄褐色土ブロック中量。 | 土坑覆土 |
- 遺物出土ポイント
- 0 1:30 1m
L=24.0m
※断面図の遺物ポイントは見透し表示

第22図 1区土坑

5 遺構外出土遺物（第26図）

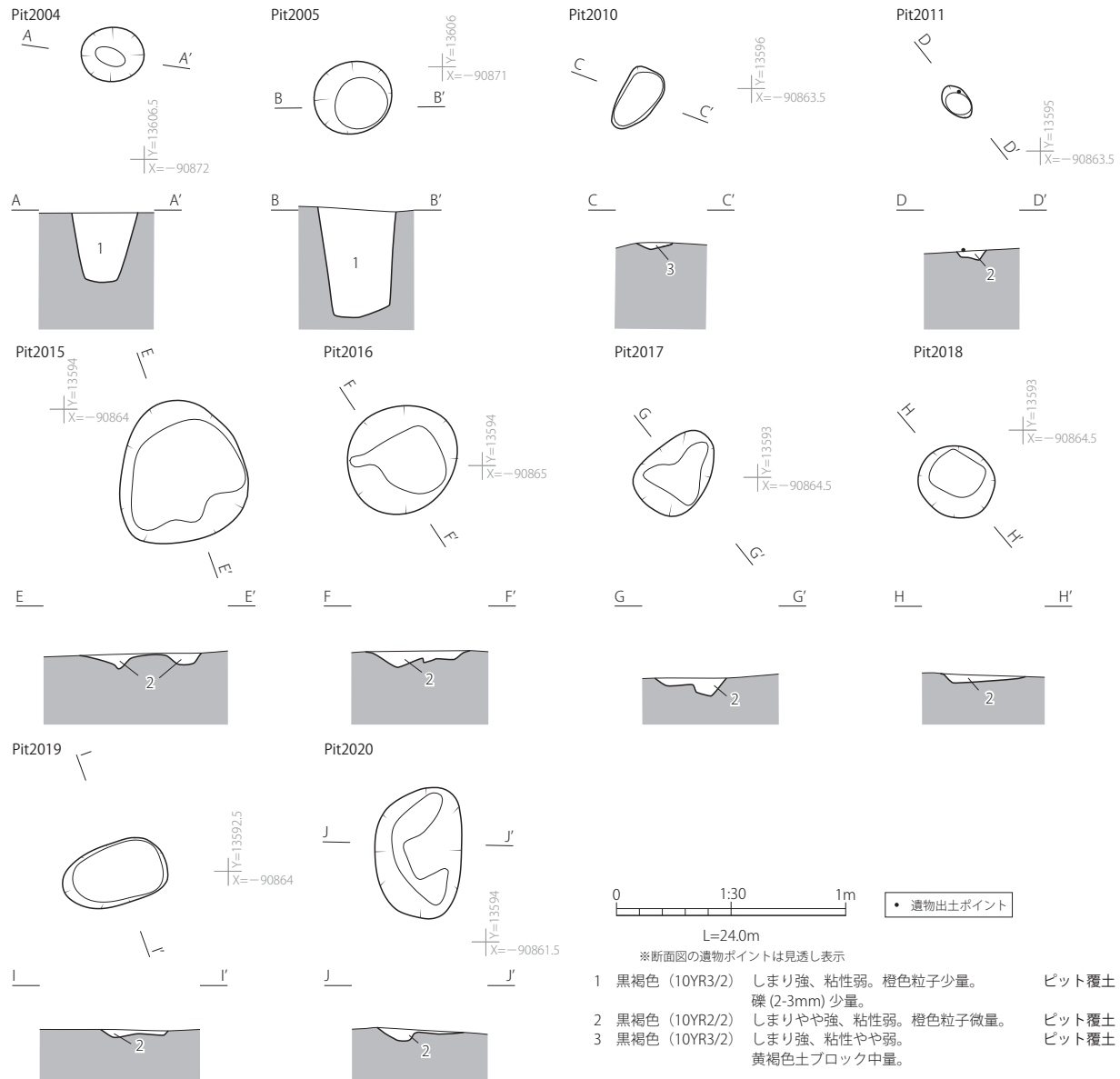
弥生土器 45～53は弥生土器である。45～50が壺で、45は口縁部内面、46・47は肩部に縄文を施す。46は縄文施文後に円形浮文を貼付けている。51～53は（台付）甕の口縁部で、いずれも単純口縁の形態を呈する。51は口唇部に刻み目を施す。いずれも弥生時代後期（雌鹿塚式）に帰属する。

土師器 54～77は土師器である。54～58が壺で、54は単純口縁、55・56は複合口縁となる。57は肩部縄文帯に円形浮文を施す。58は体部である。59～60は小型壺である。59は内湾する口縁部形態のものであり、外面には僅かに赤彩が残る。61～71は甕である。61～64はS字甕で、いずれも在地的

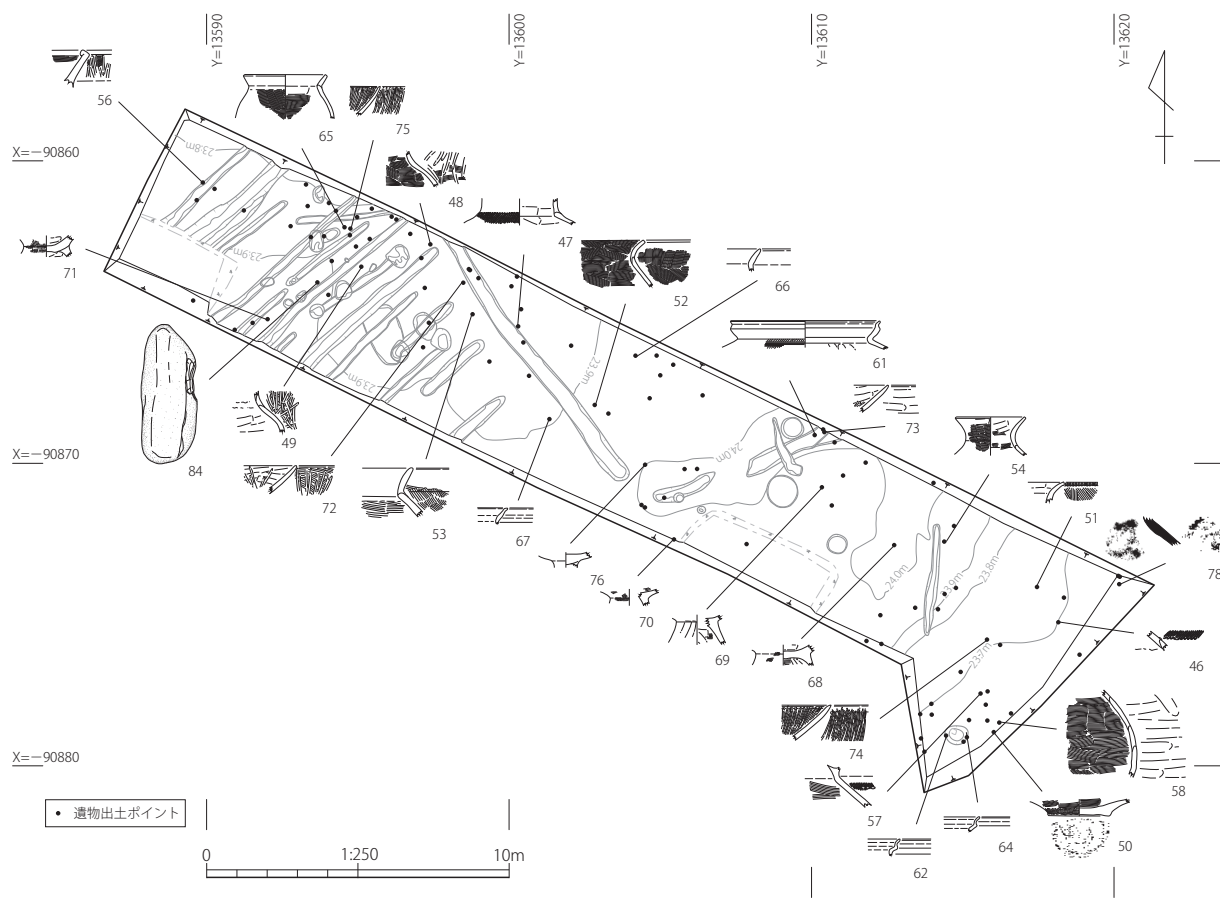
変容が進んだ段階のものである。65～67は、くの字形の口縁部形態のものである。68～71は台付甕の底部～台部である。72～76は高坏である。72～75は口縁部で、74・75は内外面ともに丁寧なタテヘラミガキを施す。

以上の土器はいずれも弥生時代終末期～古墳時代前期（大廓式）に帰属する。77は坏で、内湾する口縁部形態の坏である。古墳時代中期後半～後期（安久式）に帰属する。

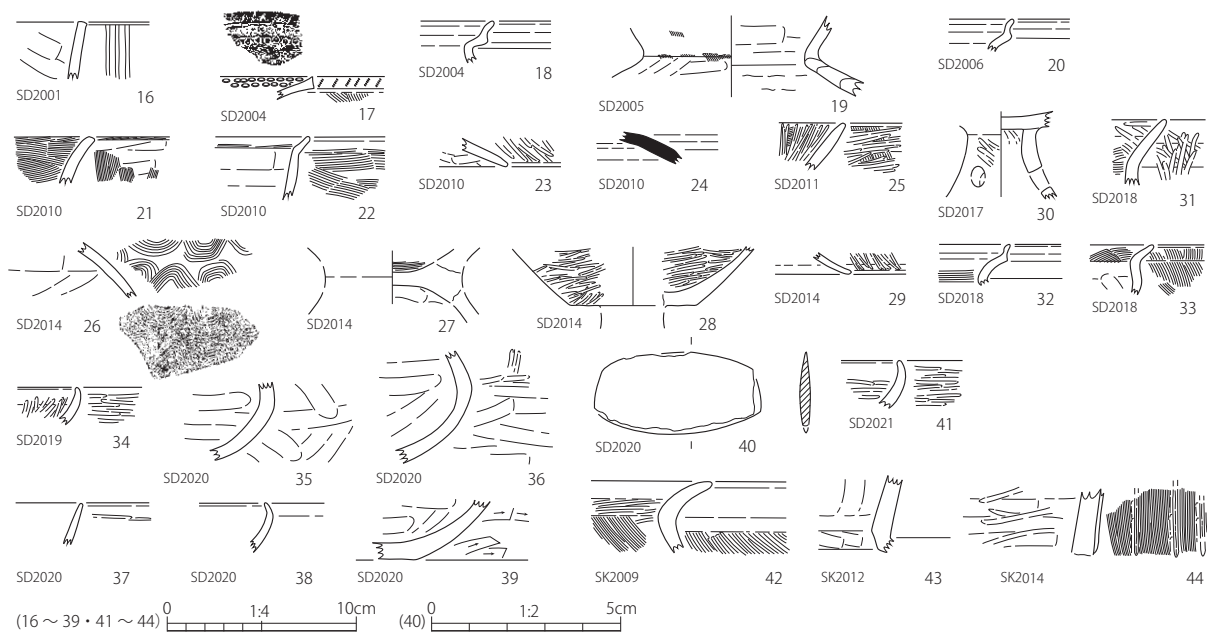
須恵器 78～81は須恵器である。78～80が甕で、いずれも肩～体部片である。81は坏蓋とみられ、頂部に回転ヘラケズリを施す。甕は古墳時代後期～奈良時代、81は古墳時代後期に帰属する。（藤村 翔）



第23図 1区ピット



第24図 1区遺構外遺物出土状況図



第25図 1区出土遺物（遺構）

石製品・石器 82は提砥と考えられ、石材は凝灰岩^(註3)である。上下端部は欠損している。4面とも磨面が発達しており、それぞれの面が湾曲する様相を呈す。正面に浅く細長い溝が観察でき、上面においても同様の溝が見られたことから、上部の破損前は紐などを通す孔があったと考えられる。83は砥石で、石材は緑色岩である。正裏面ともに使用痕が

確認できるが、正面の使用が特に顕著であり、強い光沢と長い線条痕を伴い器形も若干湾曲させている。使用痕の特徴から古墳時代の砥石と見られる。84は敲石であり、石材は砂岩である。側面の一部分に集中的な剥離と敲打痕が見られ、打撃に伴うものとみられる。時期は不明である。

(古瀬 岳洋)



第26図 1区出土遺物(遺構外)

第3節 2区

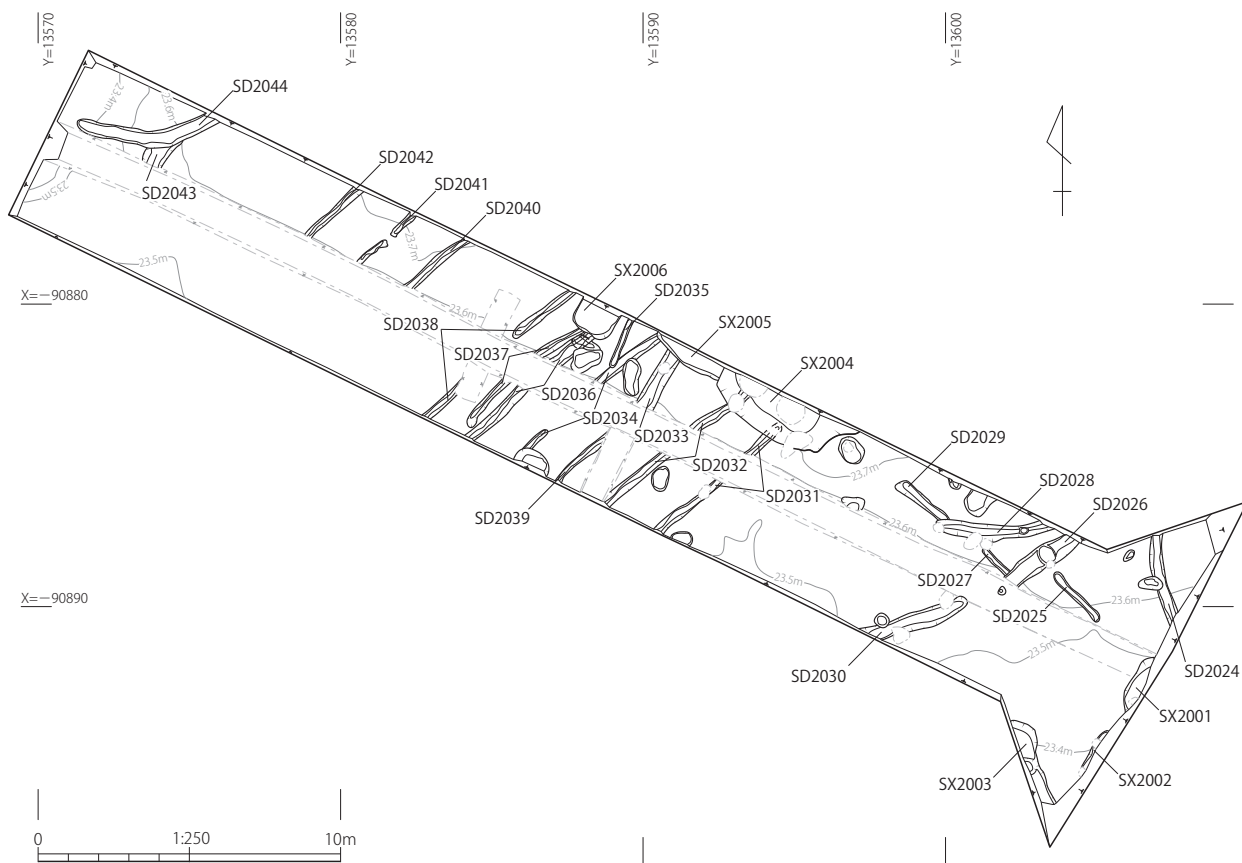
1 調査区の概要

2区は、今回の調査地の中ほどに長さ約41m、幅約6mの範囲で設定した本発掘調査区である。2区では基本土層のⅢ層が全く残っておらず、近代の耕作によって全体的に削平を受けた状況であった。

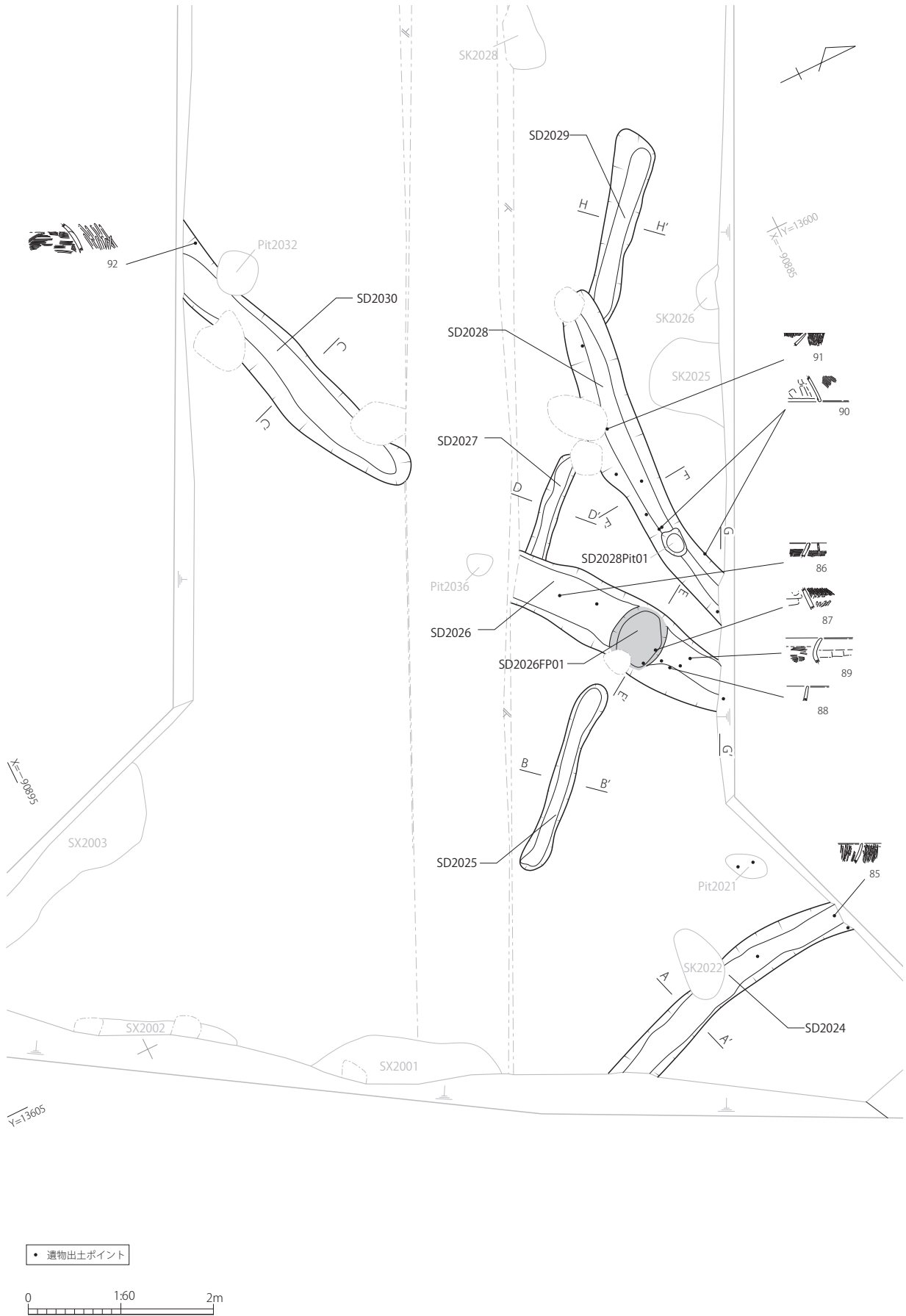
検出された遺構は、溝状遺構21条（SD2024～2044）、土坑・ピット14基（Pit2021～Pit2036）、不明遺構6基（SX2001～2006）であり、現状ではすべて基本土層のⅣ層から切り込んだ状況で検出された（第9図）。溝状遺構の多くは1区で検出された溝状遺構と方位を揃えており、幅狭な形状も共通することから、これらも耕作（畝作）に伴う畝間溝と考えられる。

2 溝状遺構

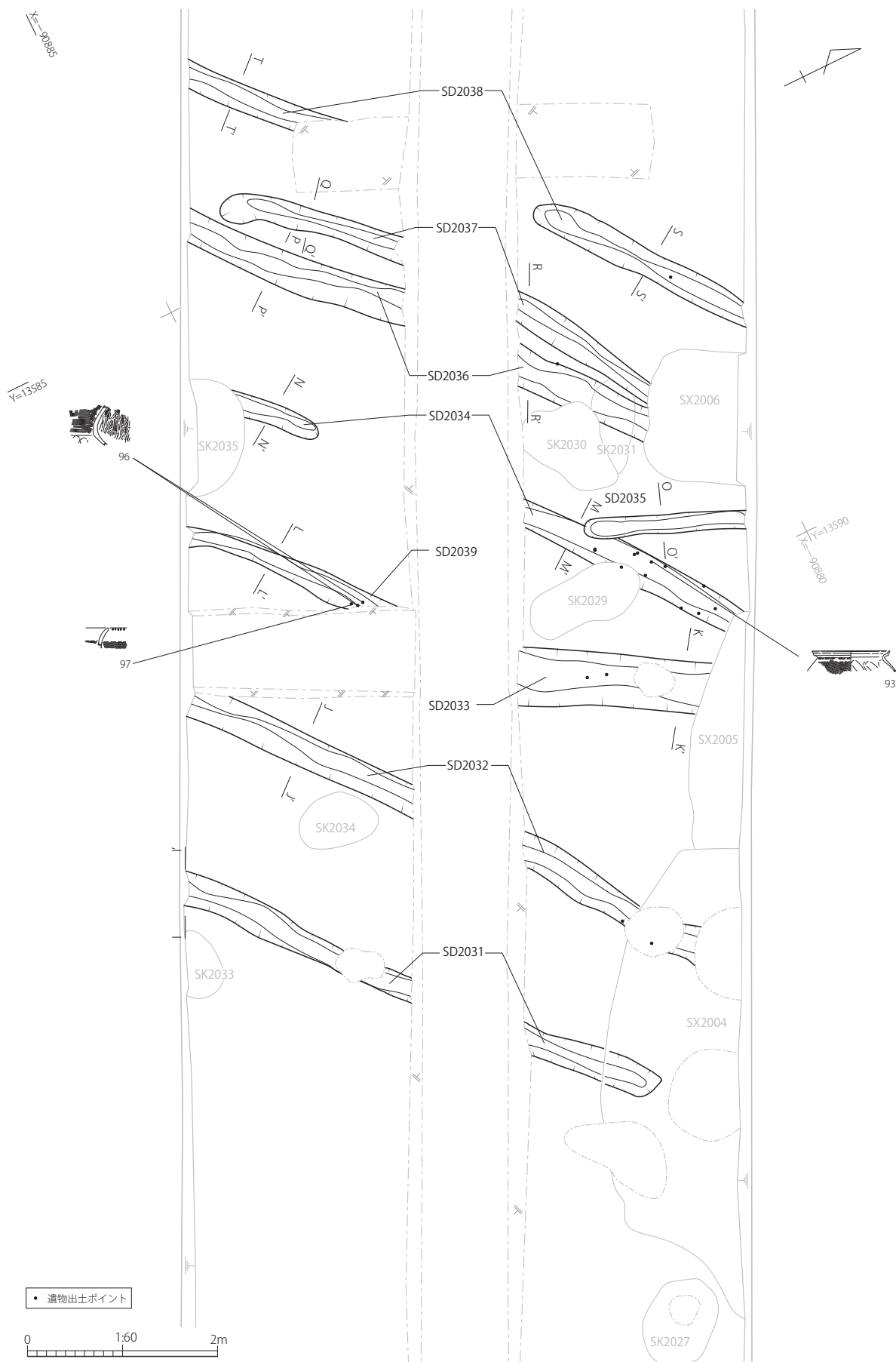
溝状遺構は21条（SD2024～2044）を検出・調査した。遺構の規模や方位等は巻末の遺構一覧表に示している。中央部周辺のSD2031、2032、2034、2036～2042はいずれも方位がN-45～50°-E前後、検出幅も30cm前後に揃っており、1区と同様の一連の耕作（畝作）に伴う畝間溝の可能性が高いと判断できる。それらと直角方向に延びるSD2025・2029についても、耕作地の区画や排水を目的とした溝の可能性はあるだろう。覆土から出土した土器の年代観から、調査区周辺は1区と同様に弥生時代後期から古墳時代前期にかけて営まれた耕作地であったと考えられる。



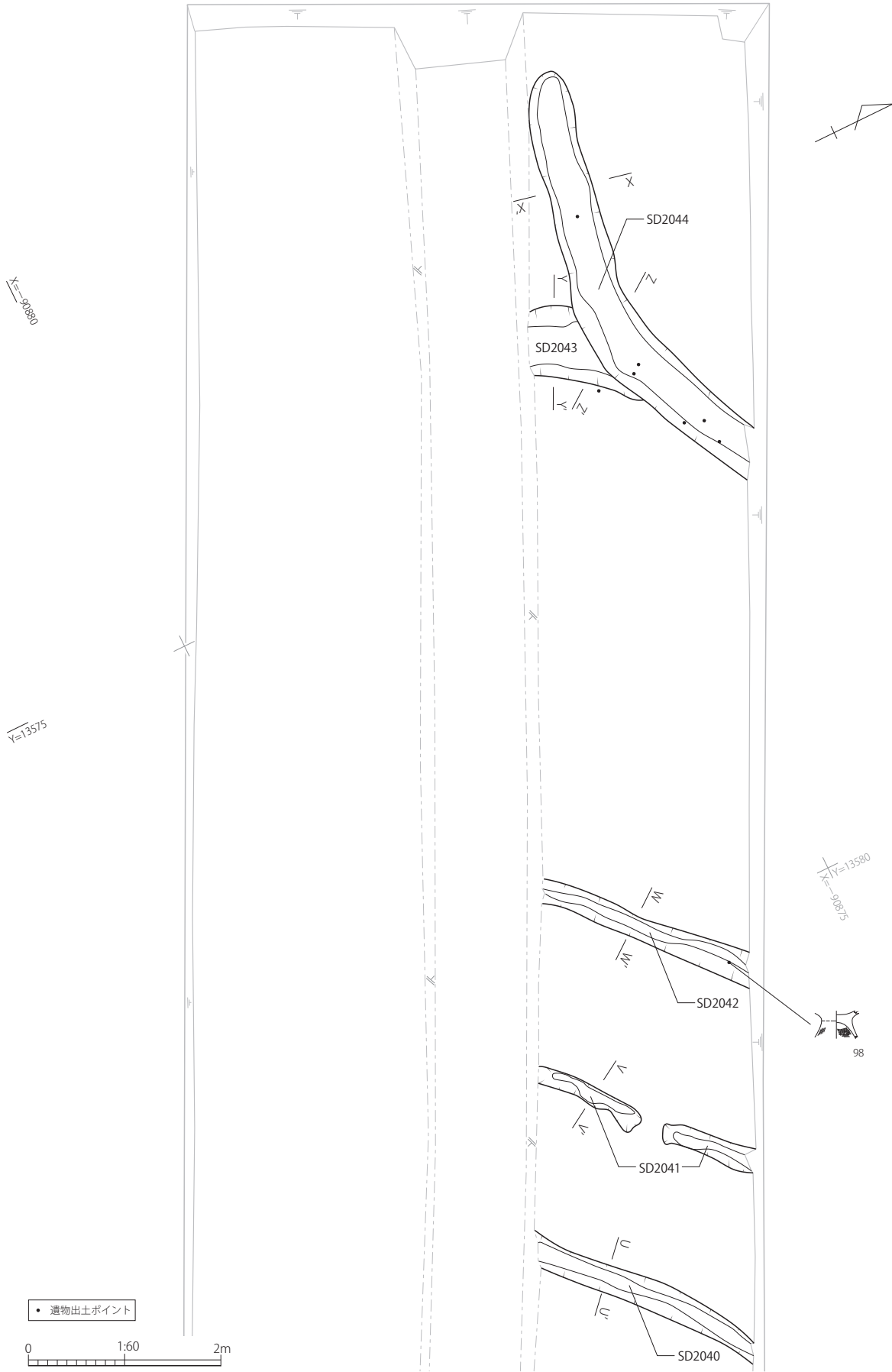
第27図 2区全体図



第28図 2区溝状遺構①



第29図 2区溝状遺構②



第30図 2区溝状遺構③

なお、調査区の西側に位置するSD2026も上記の畝間溝と方位を同じくするが、溝底部に焼土を伴う土坑(SD2026FP01)が検出された。他の溝状遺構に比べて土器片の出土も多いが、他の畝間溝と同じ性質とみてよいか判然としなかった。そのほか、緩やかな弧を描く形状のSD2024・2028・2044などについては、一部が畝間溝やそれに直交する溝を切っており、耕作地以後の土地利用に関わる遺構の可能性が高い。

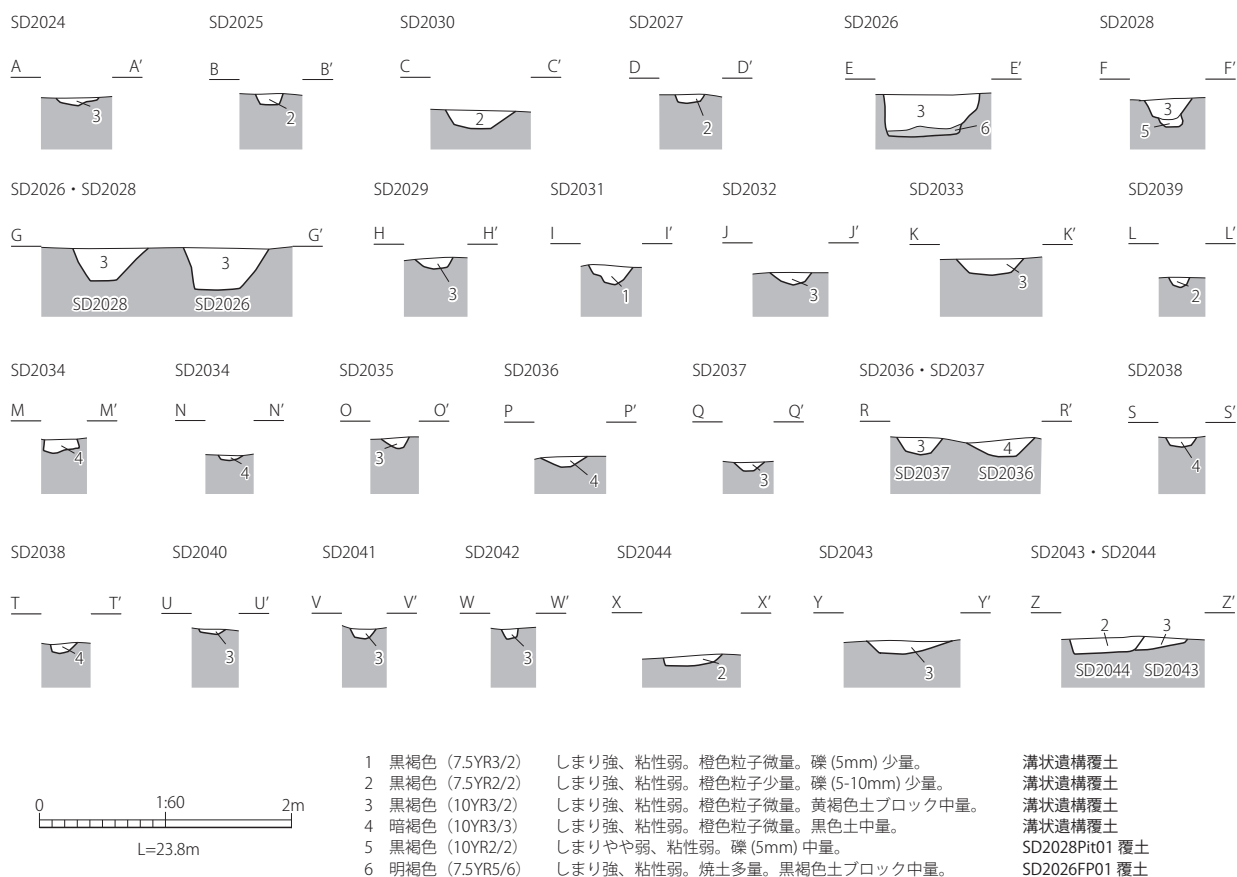
出土遺物(第39図) SD2024では土師器の高坏の口縁部(85)が出土した。口唇部はヨコナデ後にタテヘラミガキを施す。SD2026では土師器壺の口縁部(86)、同肩部(87)、小型壺の口縁部(88)、(台付)甕の口縁部(89)が出土した。86は口縁部外面に棒状貼付文を施している。SD2028では土師器S字甕の台部(90)、同坏とみられる口縁部(91)が出土した。SD2030では弥生土器壺の肩部(92)が出土した。SD2034では土師器S字甕の口縁部(93)が出土した。頸部の屈曲は緩やかで、口縁部～頸部は内外面とも

にヨコナデで整形するものである。SD2037では弥生土器壺の口縁部(94)が出土した。SD2038では土師器鉢の口縁部(95)が出土した。SD2039では弥生土器壺の頸部(96)、同(台付)甕の口縁部(97)が出土した。97は口唇部の刺突文内に原体の木目が認められる。SD2042では弥生土器または土師器台付甕の台部(98)が出土した。

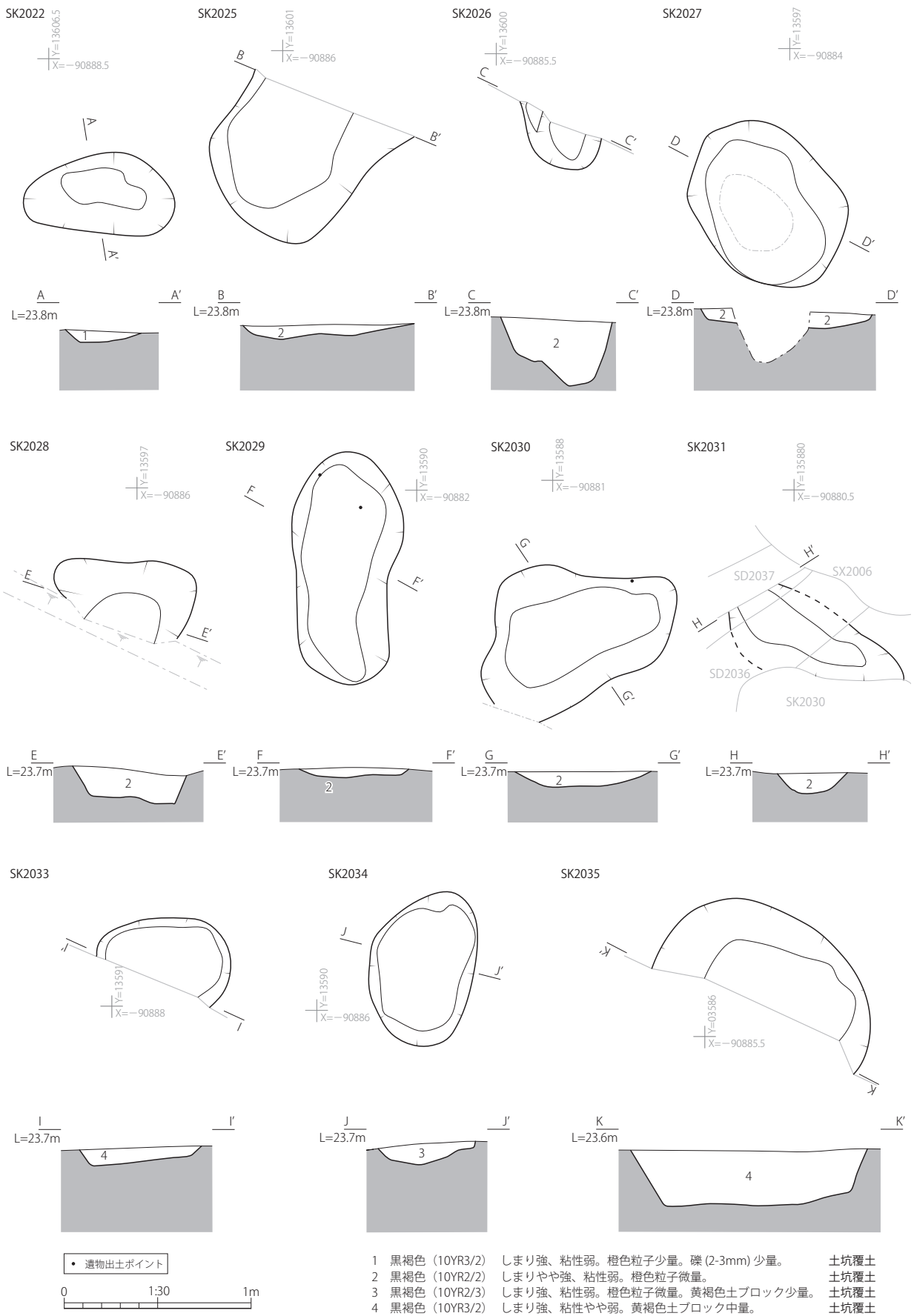
帰属時期の傾向としては、弥生土器の壺・(台付)甕類が弥生時代後期(雌鹿塚式)、土師器の壺類やS字甕・台付甕、高坏などが弥生時代終末期～古墳時代前期(大廓式)に帰属するとみられる。

3 土坑・ピット

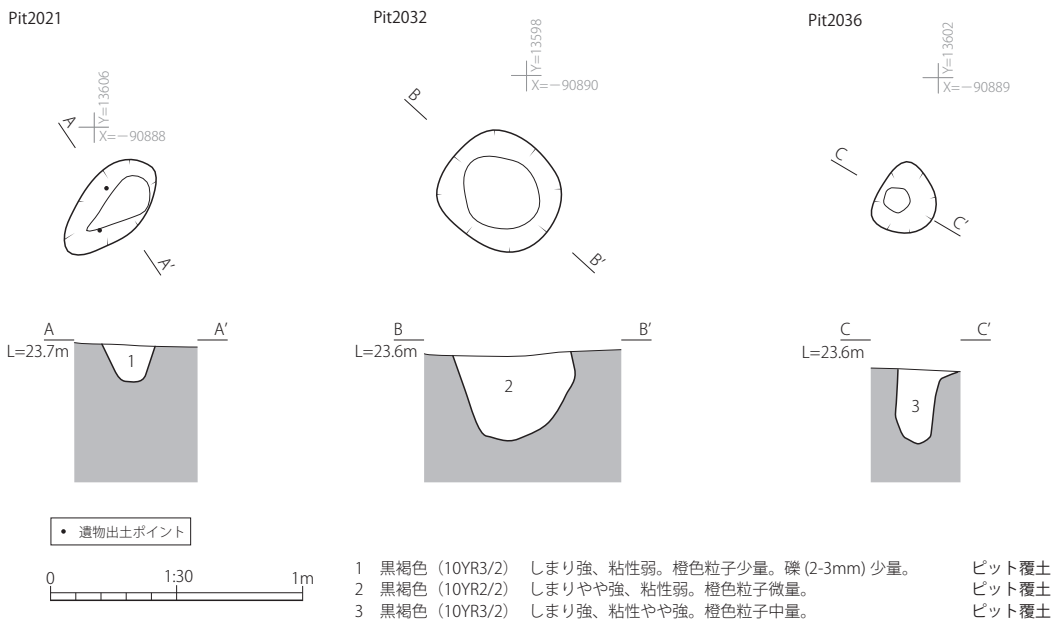
土坑11基、ピット3基を検出・調査した(Pit2021～Pit2036)。土坑とピットには連続する番号を付与している。溝状遺構と重複する土坑・ピットは、1区と同様に全て溝状遺構を切って形成されている。遺構の規模等は巻末の遺構一覧表に示す。いずれも配置等に規則性は見いだせず、掘立柱建物などの遺構の存在を積極的に推定することはできなかった。



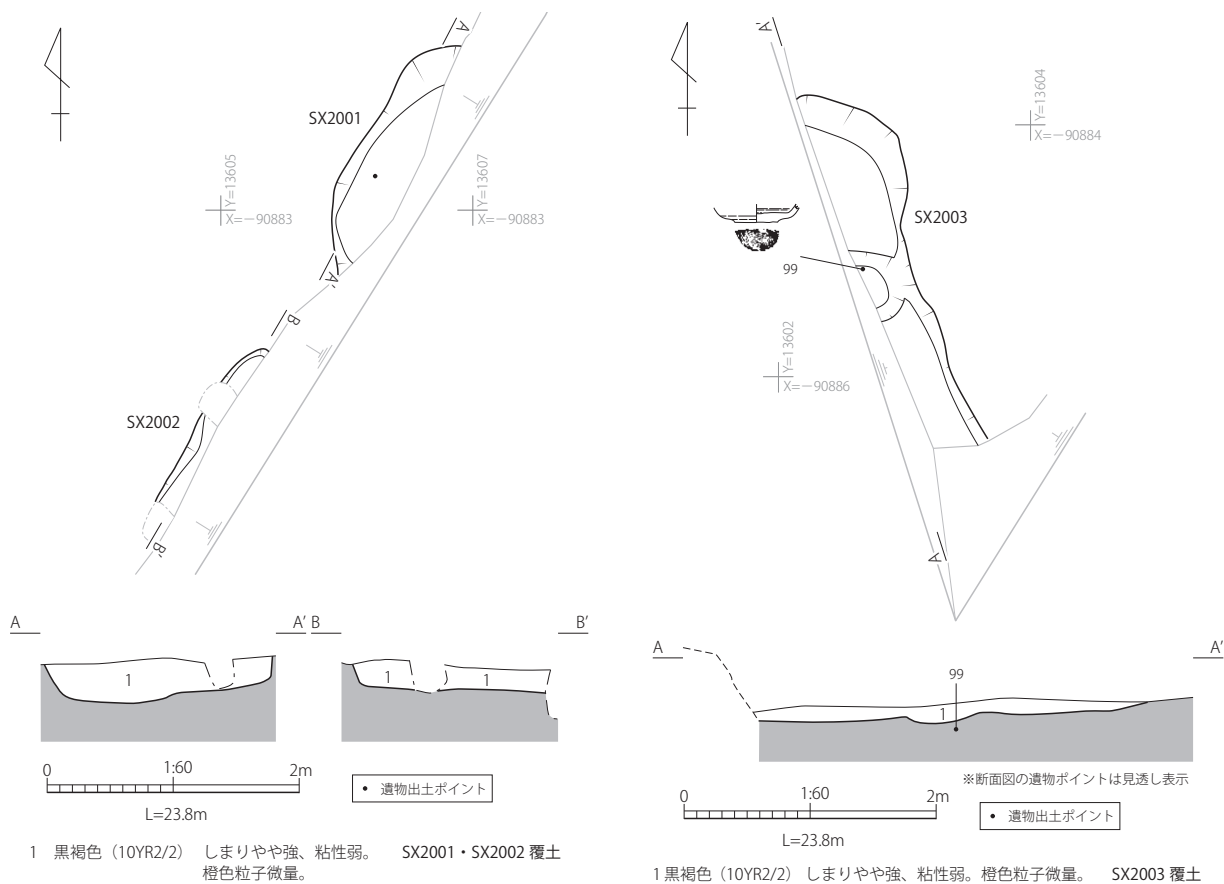
第31図 2区溝状遺構④



第32図 2区土坑



第33図 2区ピット



第34図 SX2001・SX2002

第35図 SX2003

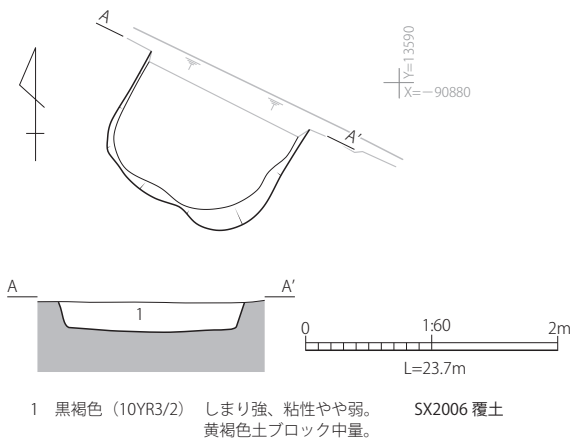
4 不明遺構

不明遺構は6基を検出・調査した(SX2001～2006)。遺構の規模等は巻末の遺構一覧表に示す。いずれも調査区東側の壁際で検出されており、近代の耕作による削平の影響も大きく、形状・機能ともに判然としない。SX2003は内部に浅い掘り込みがあり、その中から平安時代以降の土師器坏(第39図

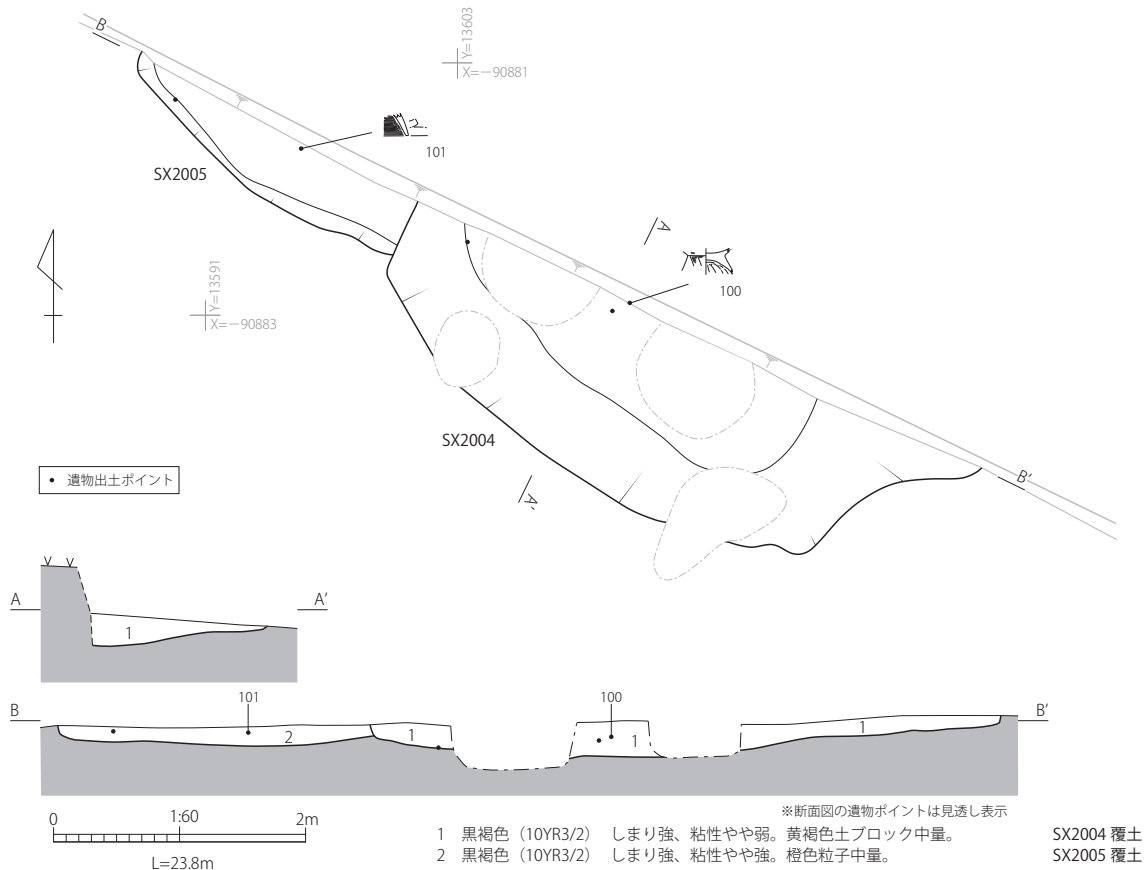
99)が出土したほか、上面でも平安時代末頃～鎌倉時代の土師器坏(かわらけ、第39図129)が出土している。また、13世紀後半の龍泉窯系青磁碗(第14図15)が出土した確認調査8Trも、SX2003に近接する。粘土や焼土は検出されていないものの、東側の高所に古代末から中世前期頃の集落が存在し、調査区壁際で竪穴建物等の一部を検出している可能性もある。

出土遺物(第39図) SX2003で土師器坏(99)が出土した。底部は糸切未調整で、厚みがある。平安時代(富士VII、10世紀前半以降)に帰属するものとみられる。SX2004では土師器S字甕の台部(100)が出土した。台部内面はヘラナデによって平滑に仕上げている。

一方、SX2005で出土した土師器台付甕の台部(101)は、内面にハケメが残る。100・101は弥生時代終末期～古墳時代前期(大塚式)に帰属する。



第36図 SX2006



第37図 SX2004・SX2005

5 遺構外出土遺物

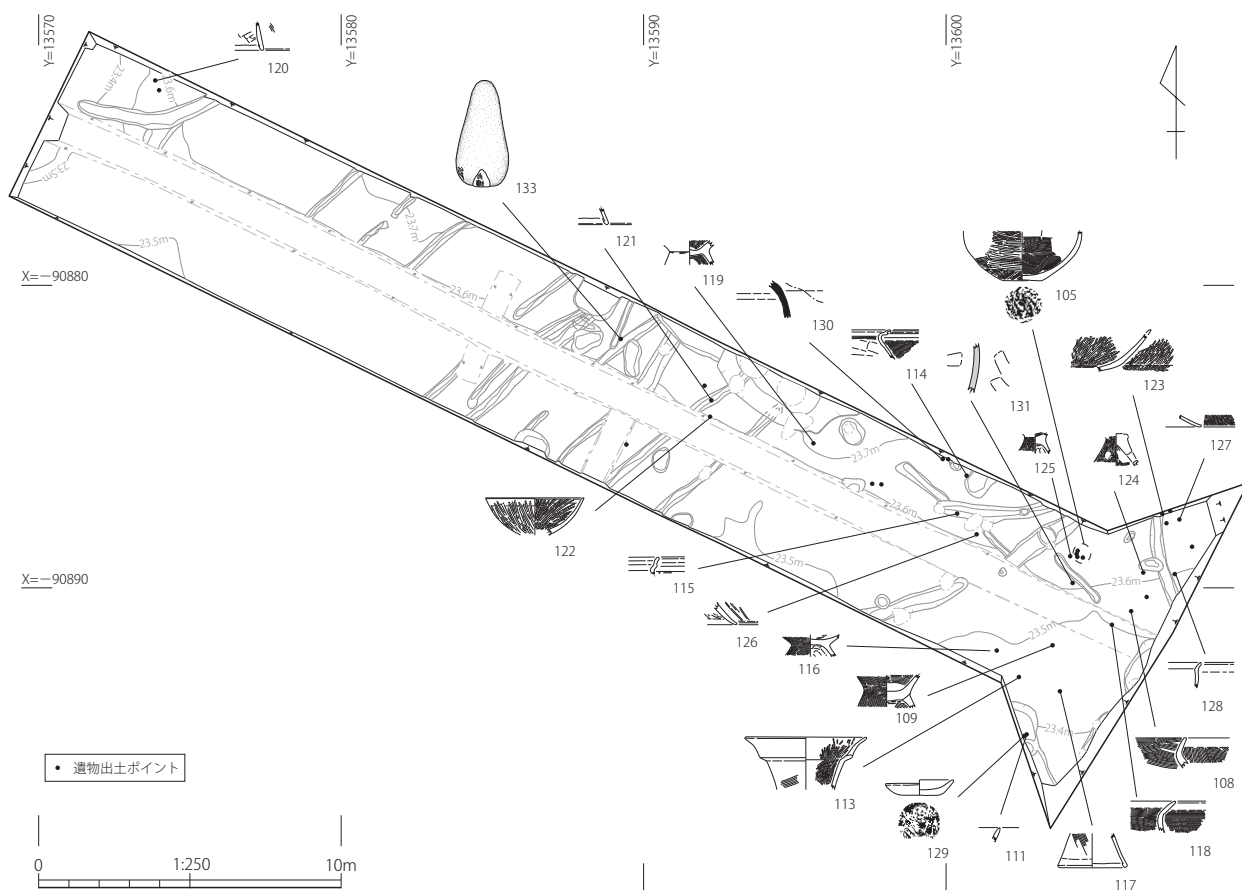
弥生土器 102～109は弥生土器である。102～105が壺で、105は底面に木葉痕はみられず、細かなハケメを施す。体部外面はハケ調整後に丁寧なヘラミガキを施して平滑に仕上げている。106は小型壺の口縁部である。107・108は(台付)甕の口縁部で、109は台付甕の底部～台部である。いずれも弥生時代後期(雌鹿塚式)に帰属するとみられる。

土師器 110～129は土師器である。110～113が壺類で、110～111は直口縁、113は二重口縁、112は小型壺(埴)である。113の二重口縁壺は、直線的に開く頸部に緩やかに外反する口縁部形態を有するもので、外面は摩耗により不明なもの、内面は細かいヘラミガキを施す。114～121は甕で、114・115がS字甕である。114のS字甕は頸部内面のヨコハケ、肩部外面のヨコハケといった故地の特徴を部分的に残すものの、口縁部の屈曲は不明瞭であり、胎土からも在地系とみてよい。118は口縁部が外反し、撫で肩を呈する甕の口縁部とみられる。

116・117・119～121は台付甕の台部であり、116・117はS字甕とみられる。

122～127は高坏である。122は復原口径12.9cmを測る小型高坏で、椀形の坏部には内外面に密なタテヘラミガキを施す。口唇部内面はヨコナデにより面を有する。124の脚部は、三方に円形の透孔を穿つが、いずれも孔の下方を欠損する。128は鉢の口縁部である。129はロクロ成形の坏(かわらけ)で、小型のコースター状を呈する。底部は平底で、糸切未調整である。胎土はよく精製されているものの、脆く軟質である。小型で口縁部の立ち上がりが大きく開かない形態を重視すれば、平安時代末から鎌倉時代(12～13世紀頃)に帰属するものと考えたい。

須恵器・陶器 130は須恵器の壺または瓶類の肩部である。上方に自然釉が付着する。古墳時代後期～平安時代に帰属するとみられる。131は常滑産陶器の甕の体部である。鎌倉～室町時代(14～15世紀頃)に帰属するとみられる(註4)。132は常滑産陶器の片



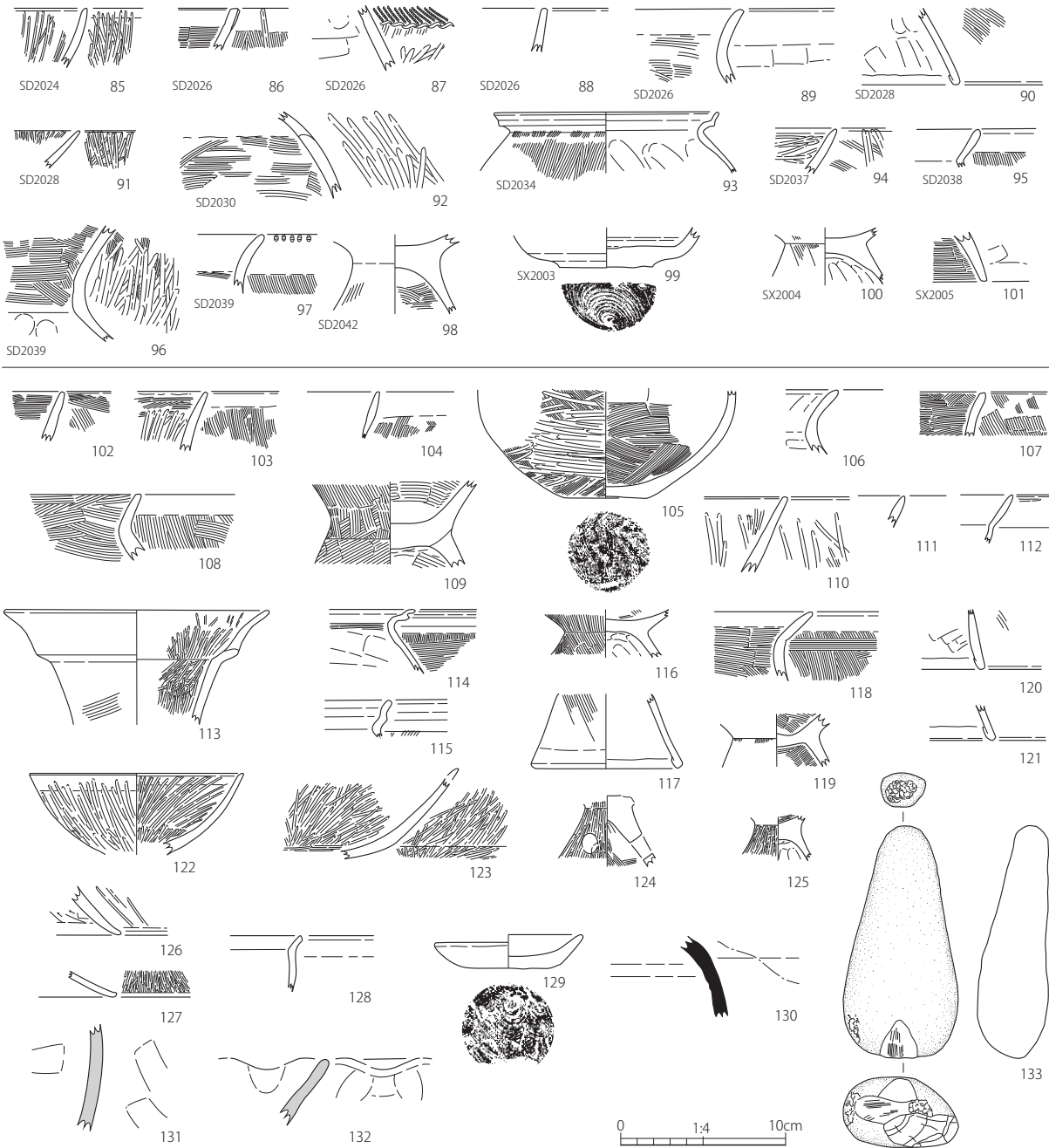
第38図 2区遺構外遺物出土状況図

口鉢の口縁部である。片口部はユビ押さえによって作り出しているとみられるが、外面は図示した左側が欠損する。鎌倉時代（13世紀前半頃）に帰属するとみられる。（藤村 翔）

石器 133は石杵とみられる石器であり、石材は砂岩である。正面下端に三角形の使用痕が見られ

るほか、上端面に敲打痕、下端面に磨面と敲打痕が観察できる。下部面の使用頻度が高いと見られ、特に磨りの行為が顕著である。三角形の磨痕が特徴的であり、木の実の殻割り行為による使用痕の可能性もある。弥生時代に帰属するとみられる。

（古瀬 岳洋）



第39図 2区出土遺物（遺構/遺構外）

第4節 3区

1 調査区の概要

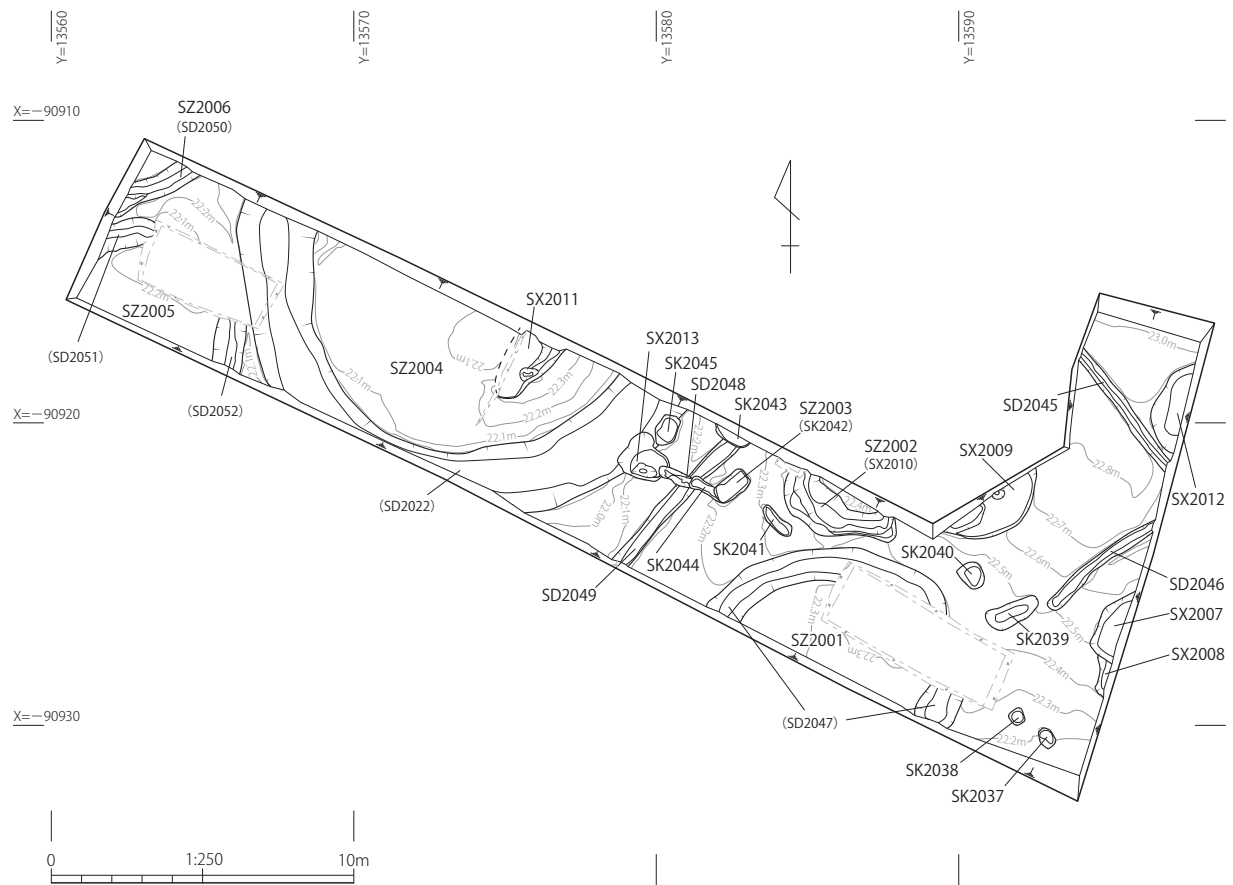
3区は、今回の調査地の南側に東西長約37.5m、南北長16.5m、幅約6mの範囲でL字形に設定した本発掘調査区である。3区では基本土層のⅢ層が部分的にしか残っておらず、近代の耕作による影響が全体的に及んでいたものの、遺構の遺存状況は概ね良好であった。

検出された遺構は、古墳6基（確認調査を含めると7基、SZ2001～2007）、古墳関連遺構を除いた溝状遺構4条（SD2045・2046・2048・2049）、土坑8基（SK2037～2041・2043～2045）、不明遺構6基（SX2008・2009・2011～2013）であり、現状では基本土層のⅣ層またはⅤ層から切り込んだ状態で確認された（第9図）。

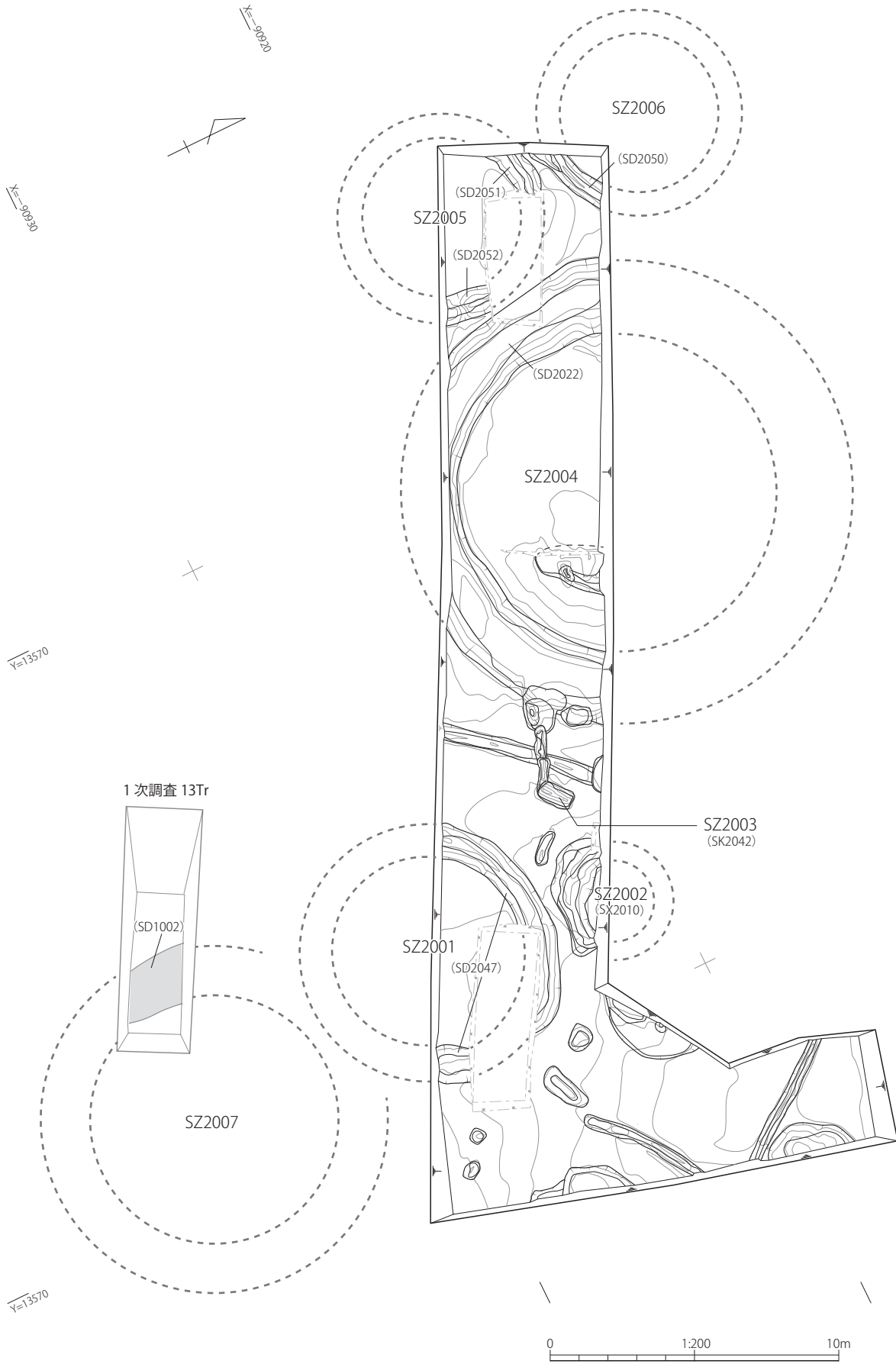
検出された古墳のうち、周溝のあるものはいずれも円墳で互いに近接して立地し、墳径は2.8m～

11.0mと全体的に小規模ながらも大小の古墳で構成される点に特色がある。墳丘をもたない土坑墓も存在することから、墳丘の有無やその規模が被葬者の政治・経済力や性格を示している可能性は高い。墓域は調査区外まで広がるとみられ、沢東A遺跡では初の発見となる、古墳時代後期前半（安久Ⅱ～Ⅲ式、TK47～MT15型式併行期）の古墳群が3区周辺に未だ埋没しているとみてよい。

溝状遺構の多くは1・2区で検出された溝状遺構と方位を揃えており、幅狭な形状も共通することから、これらも弥生時代後期から古墳時代前期（雌鹿塚式～大廓式）の耕作（畝作）に伴う畝間溝や区画溝の可能性が考えられる。不明遺構も、出土遺物から当該時期に帰属するものが含まれるようである。



第40図 3区全体図



第41図 3区古墳群

2 古墳群

古墳は3区で6基、確認調査で1基、計7基を検出・調査しており、本項でまとめて報告する（SZ2001～2007）。現地調査時には周溝を伴う SZ2001・2002・2004～2007 は遺構名として SD 番号を付与し、墓坑のみを検出した SZ2003 は SK 番号を付与したため、出土遺物の台帳や注記類も SD・SK・SX 番号で管理していた。そうした状況から、煩雑ではあるが本報告では SZ 番号とともに SD・SK・SX 番号も併記することで、管理上の混乱を避けたい。

SZ2001 (SD2047)

墳丘 墳丘は近代の耕作の影響によって盛土は確認できないものの、周溝内縁の上端で墳径 6.5 m を測る円墳である。

埋葬施設 埋葬施設の痕跡は確認できないが、当地域の横穴式石室墳がいずれも墓坑を周溝よりも深く掘り込む形式をとることが多いことを考慮すれば、盛土上面から墓坑を掘り込む堅穴系の埋葬施設であった可能性が高い。

周溝 周溝（SD2047）は円形で、確認調査 12Tr でも溝（SD1001）が同位置で検出されていることから、調査区内では全周していたとみてよい。周溝断面形は西側では底面が狭い丸底状であるが、中央部では底面が広い平底状を呈する。周溝幅は最大 1.3m、最小 1.0 m、深さは最大 0.37 m を測る。

周溝中央部の底面から土師器の小型壺（ミニチュア壺、第 53 図 135）が立った状態で出土しており、古墳に伴う遺物とみられる。そのほか、同じく底面から土師器片（未図化）、覆土上位から土師器甕片（第 53 図 134）が出土した。

出土遺物 周溝内出土の土師器 2 点を図示した（第 53 図）。134 は甕の口縁部である。内面は指押さえ後にヨコハケ、外面はナデ調整で仕上げる。135 は周溝底面から出土した小型壺で、口縁部が欠損する。体部外面は下部をヘラケズリ後に上部に細かいハケメを施す。底部は平底で、木葉痕などはない。いわゆる手捏ねのミニチュア壺とみられる。ともに帰属時期は判別し難いが、他の古墳出土土器の傾向から、古墳時代後期前半（安久Ⅱ～Ⅲ式、TK47～MT15 型式併行期）に収まると考えてよい。

SZ2002 (SX2010)

墳丘 墳丘は近代の耕作の影響によって盛土は確認できないものの、検出された周溝内縁の上端で墳径 2.2 m、復原墳径 2.8m を測る円墳とみられる。

埋葬施設 墳丘部の大半が調査区外となるため、埋葬施設の形状は不明である。近接する他の古墳の状況から、堅穴系の埋葬施設であった可能性が高い。

周溝 周溝（SX2010）は歪な円形を呈するが、調査区内では全周している。周溝断面形は底面が狭い丸底状である。周溝幅は最大 1.5m、最小 0.6 m、深さは最大 0.35 m を測る。

遺物は中央部やや西寄りの周溝内縁肩部付近から、土師器 2 点分の破片（第 53 図 136・137）がまわって出土した。いずれも残存率が 50～80% 程度であることから、墳丘周辺で破砕された土器が、原位置に近い状態で遺存したとみられる。

出土遺物 土師器 2 点を図示した（第 53 図）。136・137 は坏であり、分量・形態ともに類似する。136 はやや上げ底気味の底部から、内湾しながら口縁部にいたる形態であり、内外面ともに丁寧なヘラミガキを施す。137 は木葉痕の残る狭い平底の底部から、内湾しながら口縁部にいたる形態であり、内外面ともに 136 よりはやや粗いヘラミガキを施す。帰属時期は、ともに古墳時代後期前半（安久Ⅱ～Ⅲ式、TK47～MT15 型式併行期）に収まるものである。

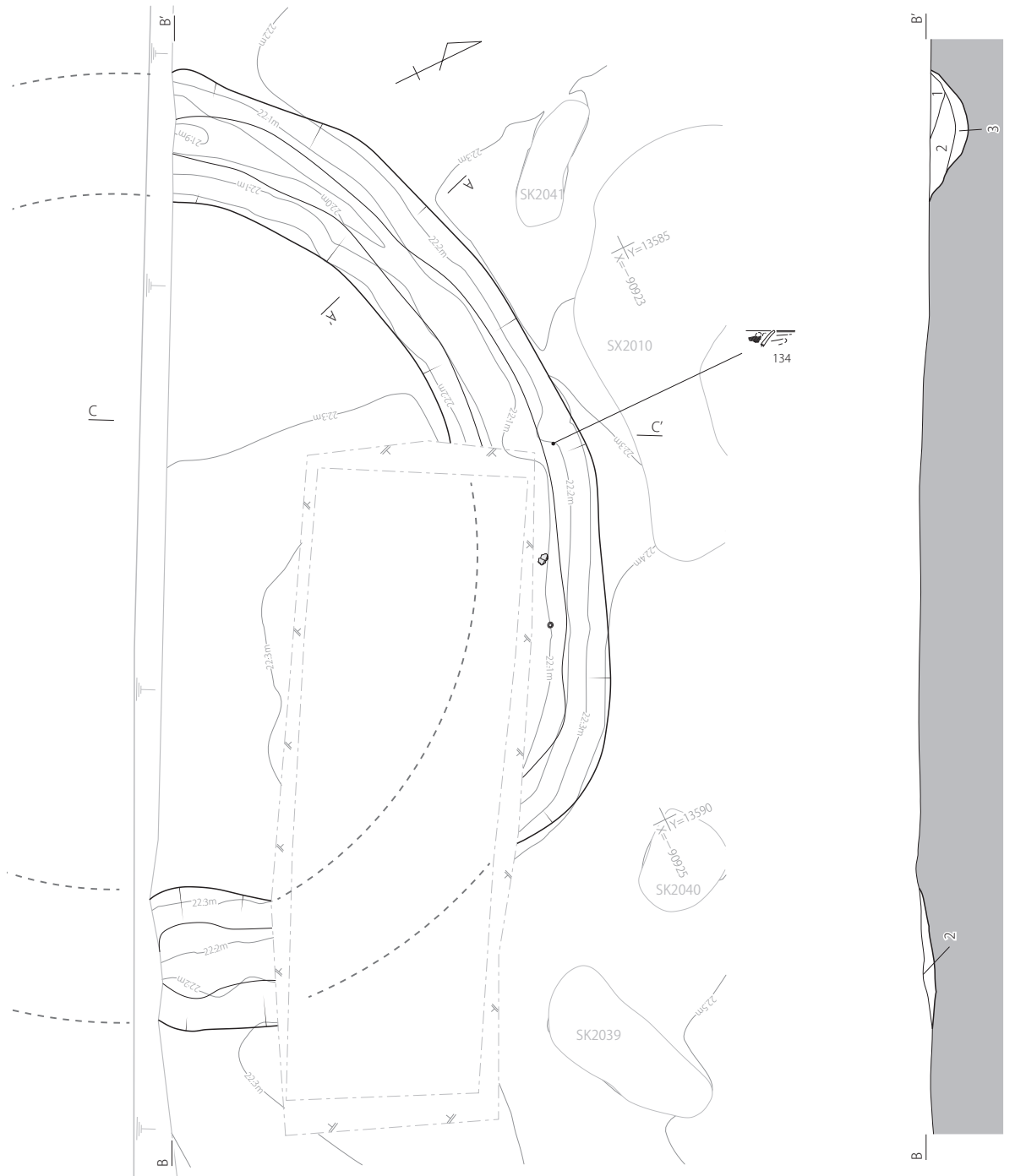
SZ2003 (SK2042)

重複関係 (古) SD2049 → SD2048 →

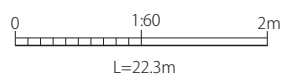
SK2044 → SZ2003 (新)

墳丘 墳丘は近代の耕作の影響によって盛土の確認ができなかった可能性はあるものの、他の古墳と異なり周溝が確認できない点から、明瞭な墳丘をもたない墓であったと考えられる。

埋葬施設 埋葬施設は、単純に土を掘り下げて形成した墓坑の底面に遺体を埋置する土坑墓である。墓坑は平面形が隅丸方形、断面形が平底（長方形）であり、長軸 1.27 m、短軸 0.71 m、深さ 0.39 m を測る。墓坑埋土は黄褐色土をブロック状に含む土を主体としており、単純に掘削時に生じた土で埋め戻されたとみてよい。覆土中や底面において特に有機質などは検出されなかった。



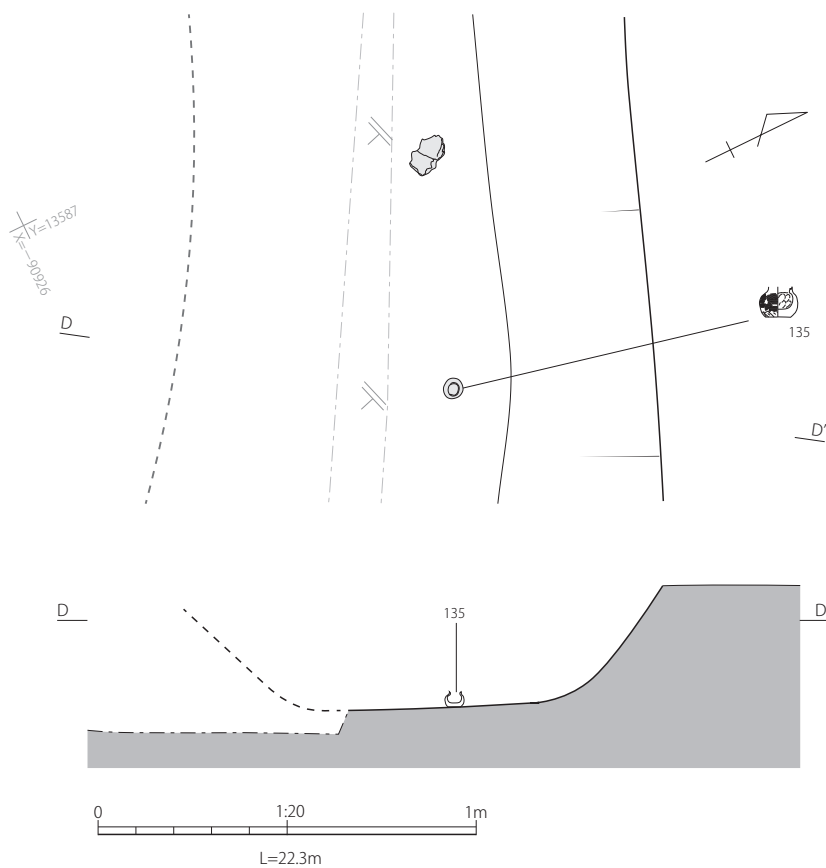
● 遺物出土ポイント



- | | | |
|-----------------|--|-----------|
| 1 黒褐色 (10YR3/2) | しまりやや強、粘性やや強。橙色粒子少量。 | SD2047 覆土 |
| 2 黒褐色 (10YR2/2) | しまりやや弱、粘性やや弱。橙色粒子少量。礫 (5-10mm) 微量。 | SD2047 覆土 |
| 3 暗褐色 (10YR3/3) | しまり強、粘性やや強。橙色粒子少量。黄褐色土ブロック中量。礫 (5mm) 少量。 | SD2047 覆土 |

※断面図の遺物ポイントは見透し表示

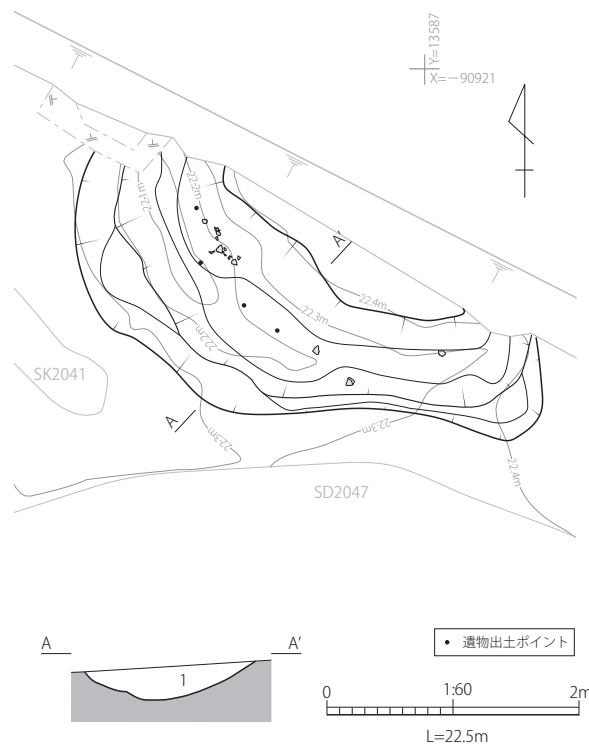
第42図 SZ2001 (SD2047)



第43図 SZ2001 (SD2047) 遺物出土状況図

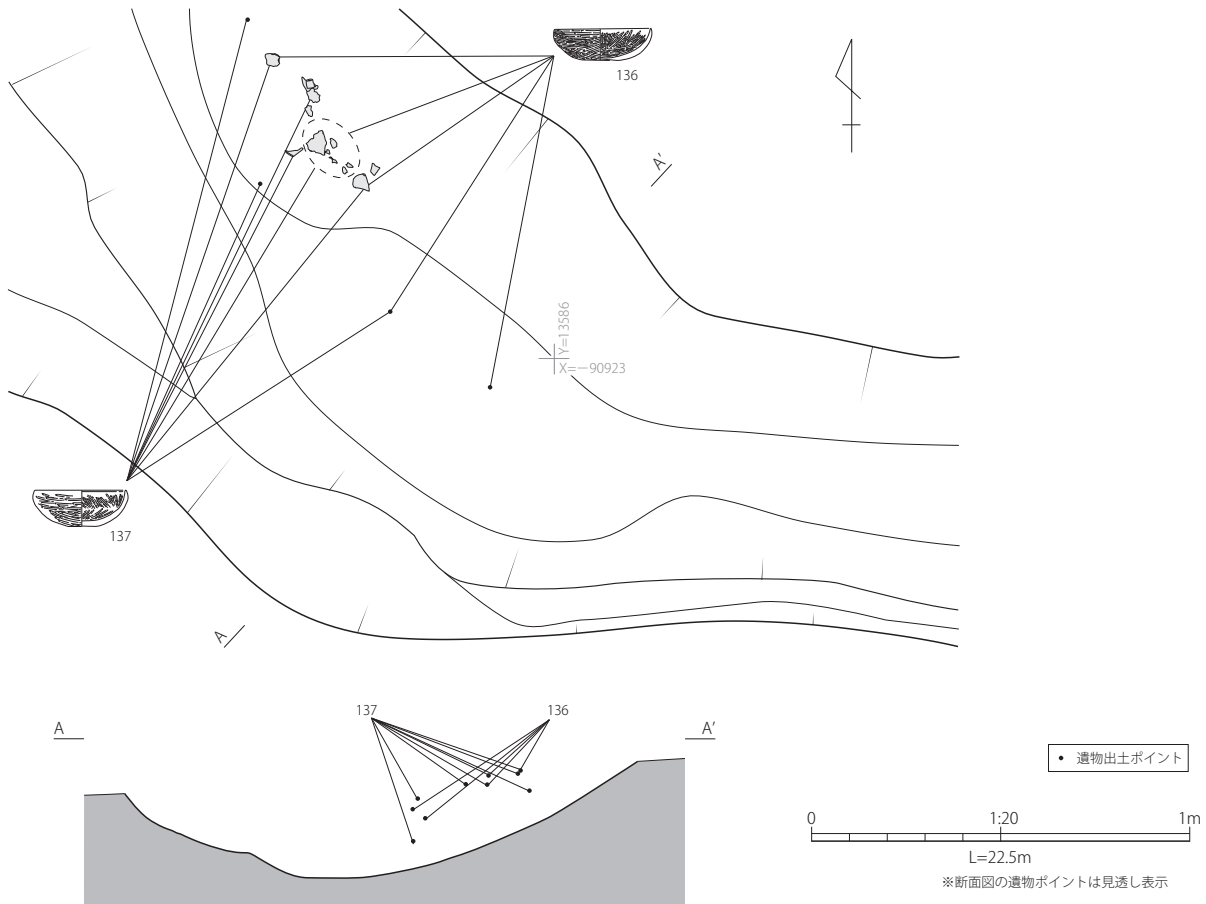


第44図 確認調査 12Tr SD1001 土層 (南から)

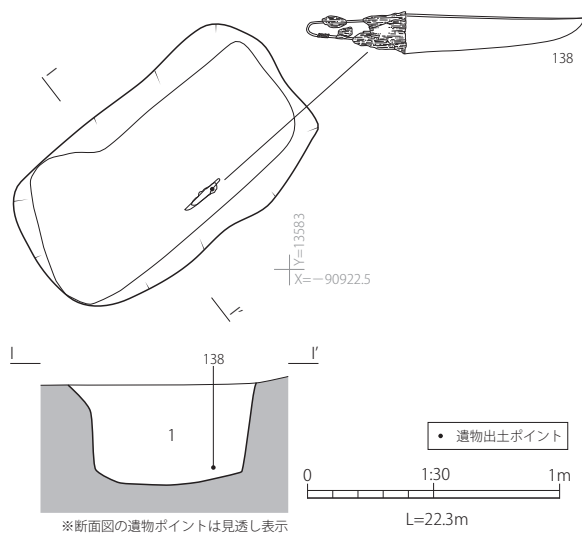


1 暗褐色 (10YR3/3) しまりやや強、粘性弱。橙色粒子中量。 SX2010 覆土

第45図 SZ2002 (SX2010)



第 46 図 SZ2002 (SX2010) 遺物出土状況図

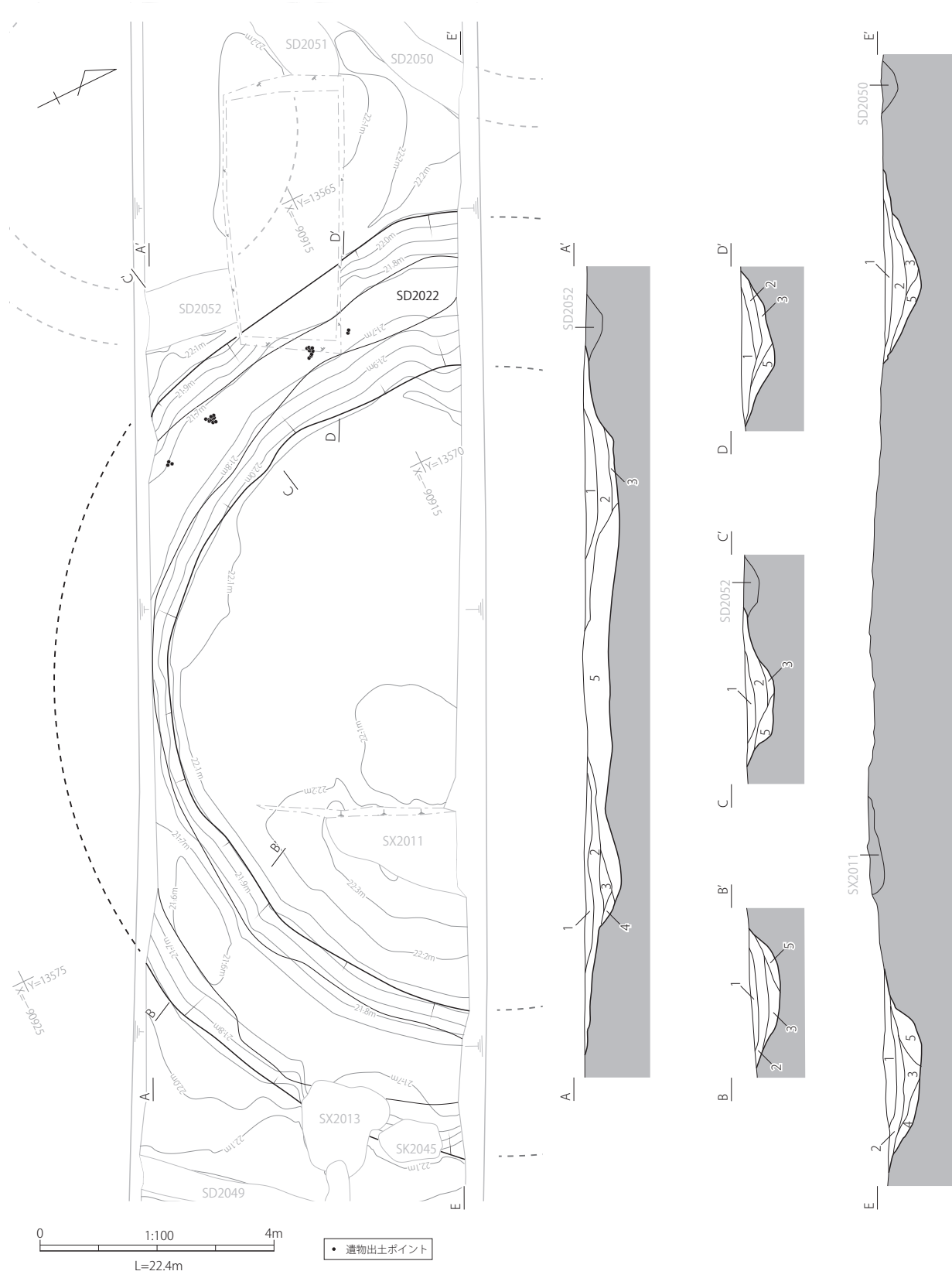


1 黒褐色 (10YR2/3) しまり強、粘性弱。橙色粒子微量。 SZ2003 覆土
黄褐色土ブロック少量。

第 47 図 SZ2003 (SK2042)

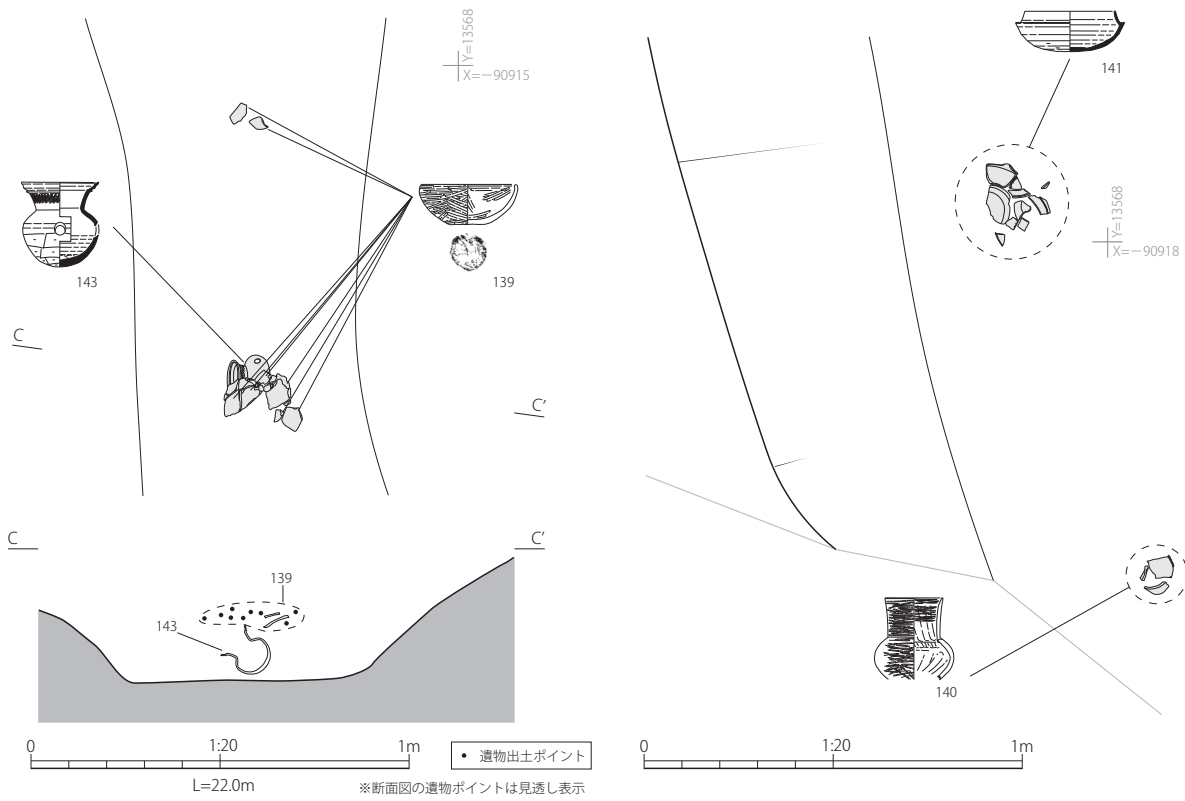
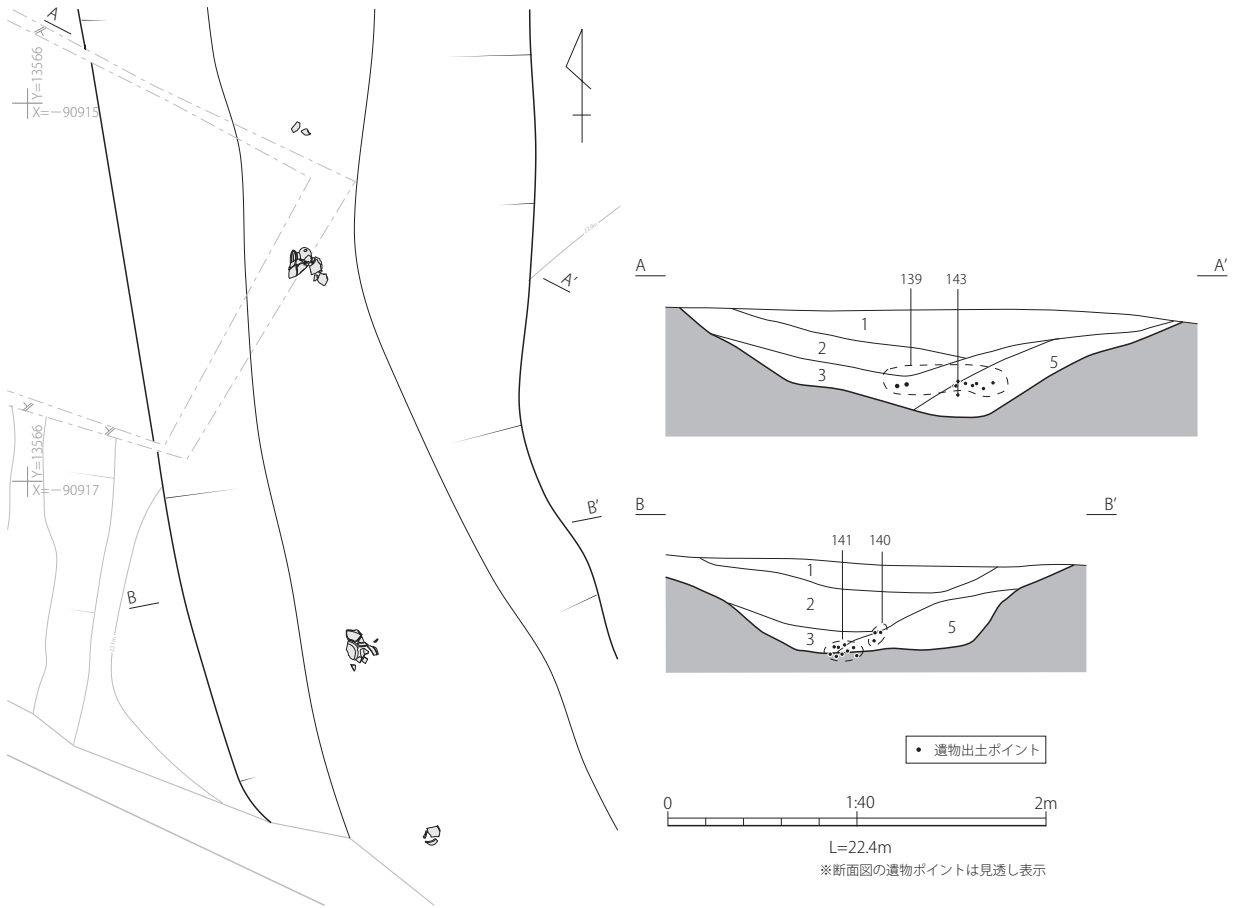
墓坑底面より、鉄製刀子 1 点 (第 53 図 138) が出土した。刀子は軸を墓坑の長軸と揃えて、切先を南西、刃部を南東側に向けて置かれており、被葬者への副葬品と判断できる。このほか覆土中から土師器の小片が出土しているが、いずれも古墳時代前期以前のものであり、流れ込みとみられる。

出土遺物 墓坑内出土の刀子 1 点を図示した。138 は全長 18.4cm、刃部長 12.0cm を測る鉄製刀子である。関は刃部側が撫で関、棟側が角関の不均衡両関で、茎は茎尻に向かい中細となり、栗尻である。関から茎にかけて木柄の一部が残るほか、茎尻付近には樹皮等による下巻きが遺存する。刃部はふくらの張る幅広な形状であり、明瞭な研ぎ減りは見られないほか、表面に布目等も残っていない。木柄に装着し、抜き身もしくは極薄い布等で巻かれた状態で副葬されたとみられる。



- | | | |
|--------------------|--|-----------|
| 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) | しまりやや強、粘性なし。黄褐色スコリア (1 ~ 5mm) 中量。礫 (1 ~ 5cm) 微量。 | SD2022 覆土 |
| 2 黒褐色 (10YR3/2) | しまりやや強、粘性なし。黄褐色スコリア (1 ~ 5mm) 少量。礫 (1 ~ 5cm) 微量。 | SD2022 覆土 |
| 3 灰黄褐色 (10YR4/2) | しまりやや強、粘性なし。黄褐色スコリア (1 ~ 5mm) 微量。礫 (1 ~ 5cm) 微量。 | SD2022 覆土 |
| 4 暗褐色 (10YR3/3) | しまりやや強、粘性なし。黄褐色スコリア (1 ~ 5mm) 微量。礫 (1 ~ 5cm) 微量。 | SD2022 覆土 |
| 5 暗褐色 (10YR3/3) | しまりやや強、粘性なし。黄褐色スコリア (1 ~ 5mm) 微量。礫 (1 ~ 5cm) 多量。 | SD2022 覆土 |

第48図 S22004 (SD2022)



第 49 図 SZ2004 (SD2022) 遺物出土状況図

SZ2004 (SD2022)

重複関係 (古) SX2011 → SZ2004 → SK2045 (新)、
(古) SZ2005 → SZ2004 → SX2013 → SD2048 (新)

墳丘 墳丘は近代の耕作の影響によって盛土は確認できないものの、周溝内縁の上端で墳径 11.0 mを測る円墳である。

埋葬施設 埋葬施設の痕跡は確認できないが、当地域の横穴式石室墳がいずれも墓坑を周溝よりも深く掘り込む形式をとることが多いことを考慮すれば、盛土上面から浅い墓坑を掘り込む竪穴系の埋葬施設であった可能性が高い。なお墳丘内に位置する SX2011 は、後述するように SZ2004 の墳丘盛土造成以前に形成された古墳時代前期の遺構である。

周溝 周溝 (SD2022) は円形で、調査区内では全周している。周溝断面形は東～南側では底面が広い平底状であるが、北西側では底面が狭い丸底状を呈する。周溝幅は最大 2.6m、最小 2.1 m、深さは最大 0.6 mを測る。周溝の立ち上がりは、特に南東側において内縁側が比較的急なのに対し、外縁側は緩やかに立ち上がる。覆土はまず墳丘側からの崩落土 (5層) が堆積し、その後はレンズ状に堆積していった状況が看取できる。

周溝西側の底面付近から須恵器の坏身 (第 53 図 141) や甕 (同 143)、土師器の坏 (同 139)、小型壺 (140) が出土している。143 の須恵器甕は完形品で、口縁部をやや西側に傾けた状態で出土しており、その上部には 139 の土師器坏の破片の大半が被さっていた。その 2 m程南側では 141 の須恵器坏身が破碎した状態で、さらに約 1 m南側では 140 の土師器小型壺の口縁部～体部片が出土している。墳丘上で使用した土器を、最終的に周溝へ投げ入れるなどして多くは破碎したようであるが、甕は割り切れなかったためか、完形で出土するにいったようである。甕内の土は、肉眼観察の限りでは特に混入物等は見当たらなかった。

出土遺物 周溝内出土の土師器 2 点、須恵器 3 点を図示した (第 53 図)。139 は土師器坏であり、木葉痕の残る狭い平底の底部から、内湾しながら口縁部にいたる形態を呈する。内外面ともにヘラミガキを施す。140 は小型壺であり、丸みのある体部に垂直に立ち上がる口縁部が取り付く形態を呈する。外

面全体から内面の口縁部上半まで丁寧なヘラミガキを施すことで光沢を出している。帰属時期は、ともに古墳時代後期前半 (安久Ⅱ～Ⅲ式、TK47～MT15 型式併行期) に収まるものである。

141 は須恵器坏身で、口径 12.0cm、最大径 14.4cm を測る。口縁部はやや内傾して立ち上がり、口唇部は丸く収める形態を呈する。底部外面の回転ヘラケズリは、体部中ほどまで施す。法量や口縁部の特徴からは、古墳時代後期前半 (遠江Ⅱ期、MT15 型式併行期) とみられる。142 は須恵器の壺または瓶類の口縁部片である。口唇部の端部の作りはシャープで、断面色調は酸化焰気味焼成により暗赤褐色を呈する。帰属時期は判別し難いが、他の土器と同様に古墳時代後期前半とみて違和感はない。143 は須恵器甕であり、口頸部高が体部高よりも短く、太い頸部形態を呈する。口唇部は内面に段を有し、頸部突帯ともにシャープな作りである。頸部上半部には密な波状文を施す。体部下半は手持ちヘラケズリにより、歪ながら丸みをもつ形態に仕上げている。底部内面に複数の指または棒による圧痕があることから、立てた指等に逆位にした甕を被せてヘラケズリを施していた可能性がある。帰属時期は古墳時代後期前半 (遠江Ⅰ期末葉、TK47 型式併行期) とみられる^(註5)。

SZ2005 (SD2051・2052)

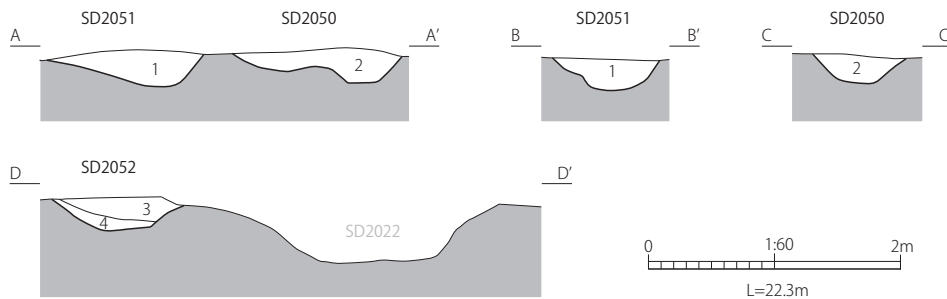
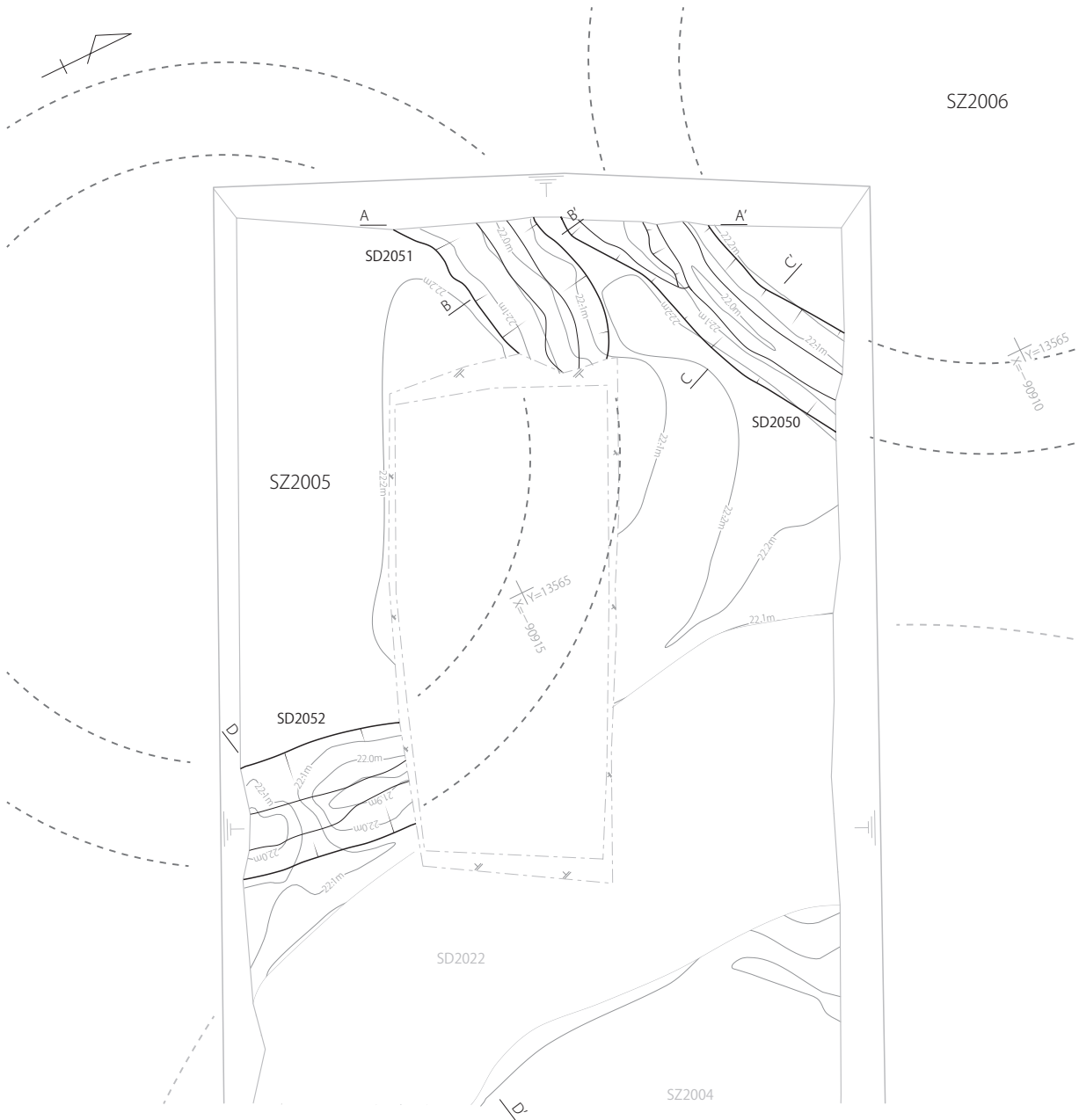
重複関係 (古) SZ2005 → SZ2004 (新)

墳丘 墳丘は近代の耕作の影響によって盛土は確認できないものの、検出された周溝内縁の上端で墳径 5.1 m、復原墳径 5.5m を測る円墳とみられる。

埋葬施設 埋葬施設の痕跡は確認できないが、当地域の横穴式石室墳がいずれも墓坑を周溝よりも深く掘り込む形式をとることが多いことを考慮すれば、盛土上面から浅い墓坑を掘り込む竪穴系の埋葬施設であった可能性が高い。

周溝 周溝 (SD2051・2052) は円形で、中央部を確認調査 11Tr によって削平されている。周溝断面形は東側では底面が広い平底状であるが、西側では底面が狭い丸底状を呈する。周溝幅は 1.0m、深さは 0.29 mを測る。

出土遺物 図示できる遺物は出土しなかった。



- | | | |
|------------------|--------------------------------------|-----------|
| 1 黒褐色 (10YR3/2) | しまり強、粘性弱。橙色粒子微量。黄褐色土ブロック少量。礫(5mm)微量。 | SD2051 覆土 |
| 2 黒褐色 (7.5YR2/2) | しまり強、粘性弱。橙色粒子少量。礫(5-10mm)少量。 | SD2050 覆土 |
| 3 黒褐色 (10YR3/2) | しまりやや強、粘性なし。黄褐色スコリア(1~3mm)少量。 | SD2052 覆土 |
| 4 暗褐色 (10YR3/3) | しまりやや強、粘性なし。礫(1~5cm)微量。 | SD2052 覆土 |

第 50 図 SZ2005 (SD2051・SD2052)・SZ2006 (SD2050)

SZ2006 (SD2050)

墳丘 墳丘は近代の耕作の影響によって盛土は確認できないものの、検出された周溝内縁の上端で復原墳径 5.5m を測る円墳とみられる。

埋葬施設 埋葬施設の痕跡は確認できないが、当地域の横穴式石室墳がいずれも墓坑を周溝よりも深く掘り込む形式をとることが多いことを考慮すれば、盛土上面から浅い墓坑を掘り込む竪穴系の埋葬施設であった可能性が高い。

周溝 周溝 (SD2050) は円形とみられる。周溝断面形は底面が狭い丸底状を呈する。周溝幅は 0.8m、深さは 0.25 m を測る。

出土遺物 図示できる遺物は出土しなかった。

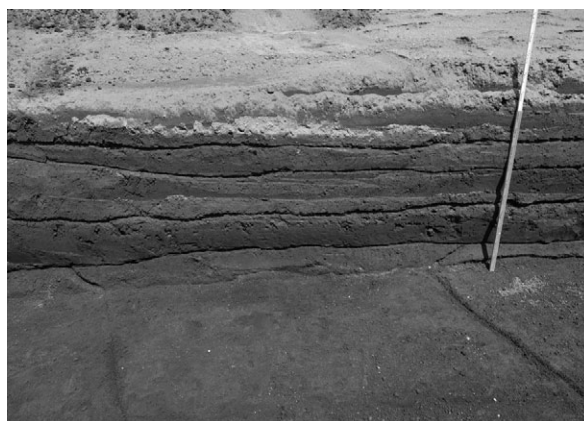


第 51 図 確認調査 13Tr SD1002 検出 (西から)

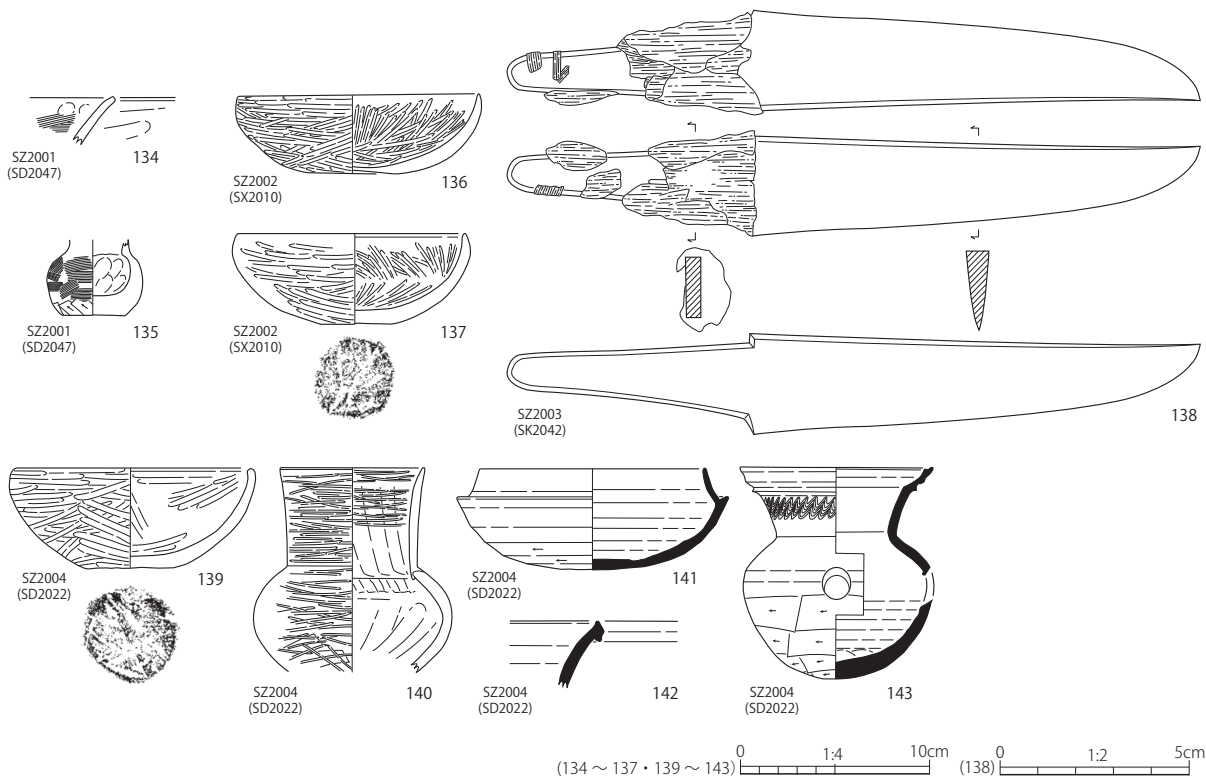
SZ2007 (確認調査 SD1002)

確認調査で検出された溝 SD1002 についても、その規模や形状から円墳の周溝として捉えられる。

周溝幅は最大 2.0m、深さ 0.2m 以上を測る。限られた調査範囲の知見からの推定ではあるが、周溝内縁の上端で復原墳径 8.6m を測る円墳とみられる。図示できる遺物は出土しなかった。



第 52 図 確認調査 13Tr SD1002 土層 (南から)



第 53 図 3 区出土遺物 (古墳)

溝状遺構

古墳関連遺構を除いた溝状遺構として、4条(SD2045・2046・2048・2049)を検出・調査した。遺構の規模や方位等は巻末の遺構一覧表に示している。SD2045・2046・2049は方位、検出幅ともに、1・2区でみられた耕作(畠作)に伴う畝間溝やそれに直交する区画溝と類似しており、同様の機能を想定できそうである。

覆土から出土した土器の年代観から、3区周辺も1・2区と同様に弥生時代後期から古墳時代前期にかけて営まれた耕作地であったと考えられる。

出土遺物(第63図) SD2022では流れ込みの遺物として、弥生土器の複合口縁広口壺の口縁部(144・145)が出土した。144・145ともに複合部に縦位の沈線による装飾を施し、複合部下端は突出させている。144は肩部に縄文帯があり、その間に円形浮文を貼付けている。SD2045では、弥生土器の壺の頸部～肩部片(146)、土師器の高坏の脚部片(147)、土師器甕の口縁部片(148)、砥石(149)が出土した。147は外面に赤彩が残る。149の砥石の石材は砂岩である。器体の半分以上が欠損しているが、原形は細長いものであったと考えられる。正面に磨面の発達が見られる。SD2046では、土師器の高坏(150)が出土している。坏部外面から口唇部内面にかけてはヘラナゲ、坏部内面はヘラミガキを施す。SD2047では流れ込みの遺物として、弥生土器の壺の底部(151)、弥生土器または土師器の壺の底部片(152)、土師器S字甕の口縁部～肩部片(153)が出土した。153は口縁部の屈曲が鈍く分厚い作りであるが、肩部にヨコハケを施す。

帰属時期の傾向として、弥生土器の壺が弥生時代後期(雌鹿塚式)、土師器のS字甕、高坏は弥生時代終末期～古墳時代前期(大廓式)に帰属する。

土坑・ピット

古墳関連遺構を除いた土坑として、8基(SK2037～2041・2043～2045)を検出・調査した。遺構の規模等は巻末の遺構一覧表に示す。いずれも配置等に規則性は見いだせなかった。

出土遺物(第63図) SK2037では土師器の坏の口縁部片(154)が出土した。古墳出土のものと同

様、内湾して立ち上がる形態の坏である。SK2039では弥生土器の壺の口縁部片(155)が出土した。SK2042では弥生土器の壺の口縁部片(156)、土師器のS字甕の口縁部片(157)、土師器の壺の体部片(158)が出土した。SK2044では土師器の甕または壺の底部片(159)、土師器の坏の口縁部片(160)が出土した。160も古墳出土の坏と同形態のものである。

帰属時期の傾向として、弥生土器の壺が弥生時代後期(雌鹿塚式)、土師器のS字甕は弥生時代終末期～古墳時代前期(大廓式)に帰属する。土師器の坏は古墳時代中期後半～後期(安久式)に帰属するものであり、古墳からの流れ込みの可能性もある。

不明遺構

古墳関連遺構を除いた不明遺構として、6基(SX2007～2009・2011～2013)を検出・調査した。遺構の規模等は巻末の遺構一覧表に示す。

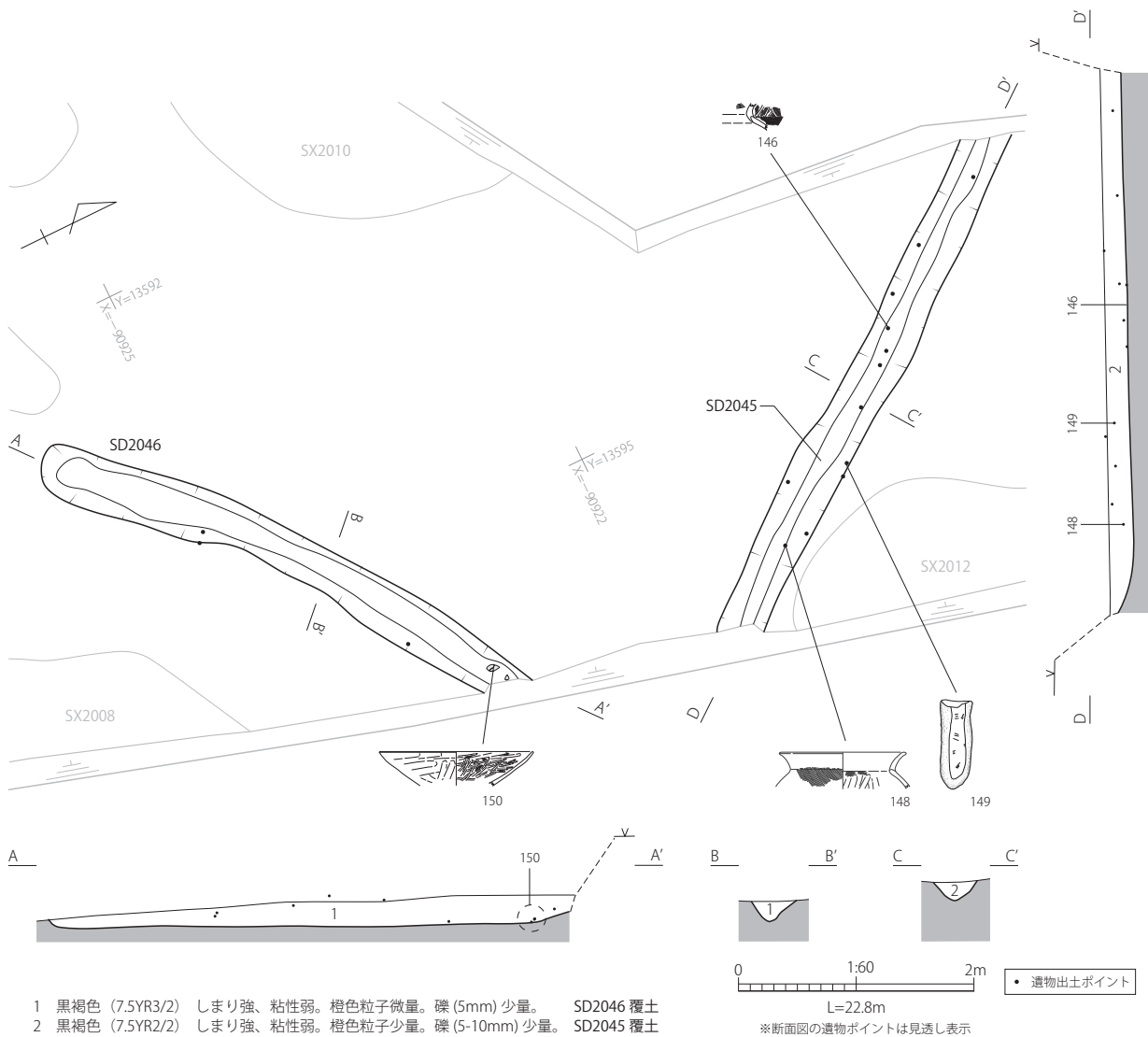
SX2009は浅い窪地状の遺構であり、古墳時代前期(大廓式後半期)の土器片が比較的集中して出土した。内部には浅いピット状や土坑状の掘り込みもあり、当該期の堅穴建物の一部の可能性もある。

SX2011はSZ2004の墳丘内にて検出された、浅く幅広な溝状の遺構である。底面からは、古墳時代前期(大廓IV式)の広口壺の口縁部～肩部分(174)が、逆位で置かれたような状態で検出されている。図示した口縁部～頸部はほぼ完形であり、土器の直上まで近代耕作による削平が及んでいたことも考慮すれば、原位置を保った遺物とみられる。古墳時代前期にSX2011が基盤層を掘り込んで営まれた後、後期になってその直上にSZ2004が墳丘盛土を造成したと考えられる。

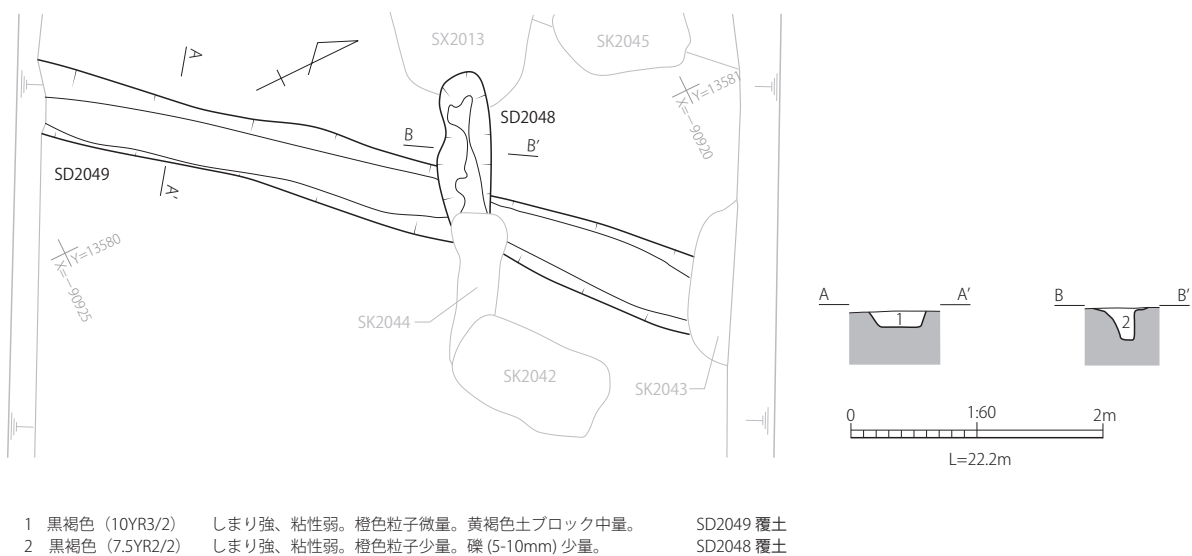
出土遺物(第63図) SX2007では弥生土器の壺の口縁部片(161)、土師器の壺の底部(162)が出土した。

SX2008では土師器の高坏の坏部片(163)が出土した。163は、外面はヘラケズリ後にタテヘラミガキ、内面は放射状のヘラミガキを施す。

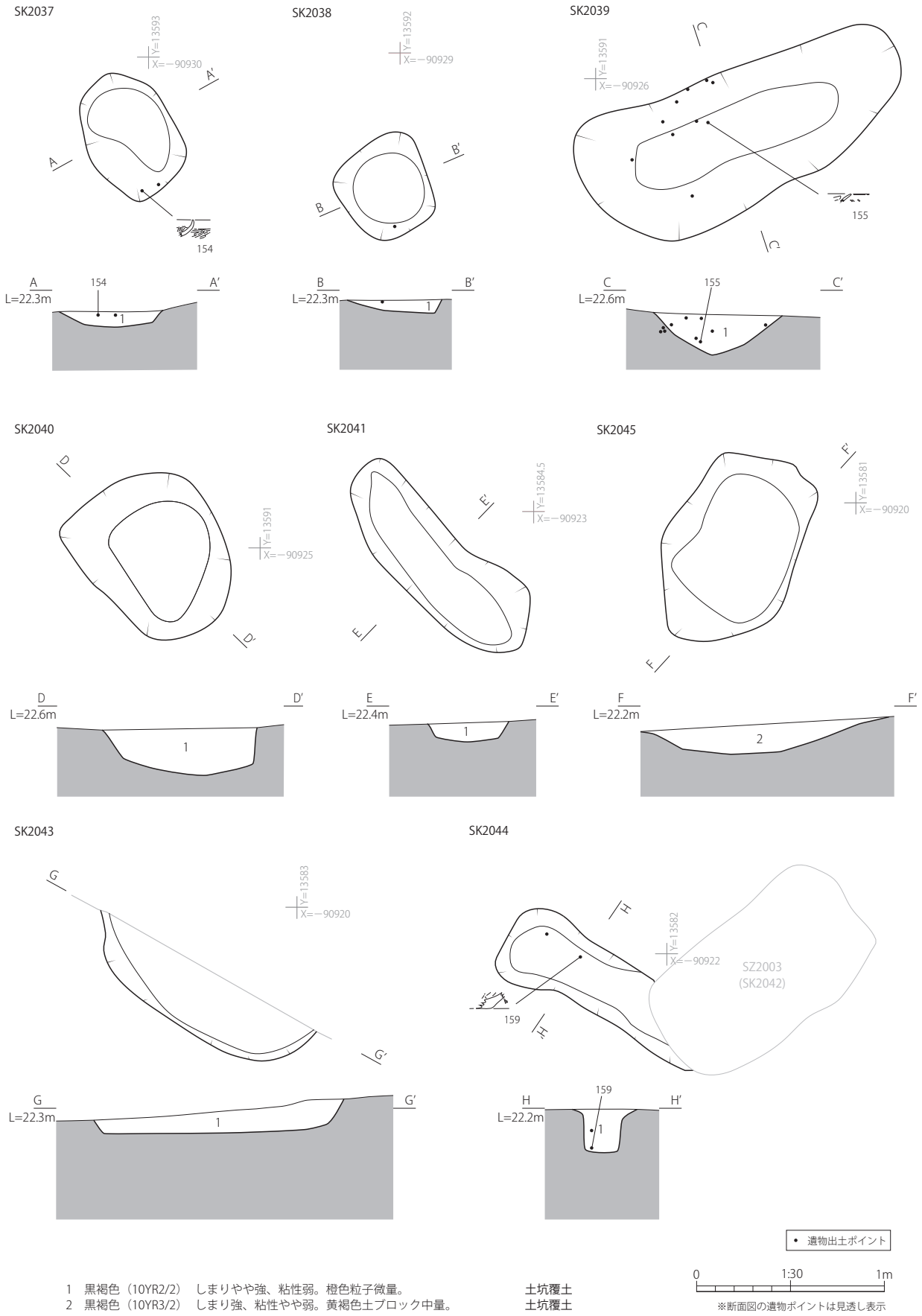
SX2009では土師器のS字甕の口縁部片(164・165)、台部片(166)、器台の受部片(167)、高坏の坏部片(168)、脚部片(169・170)が出土した。167の器台は復原口径9.2cm、内面見込部には放射状のヘラミガキを施す。



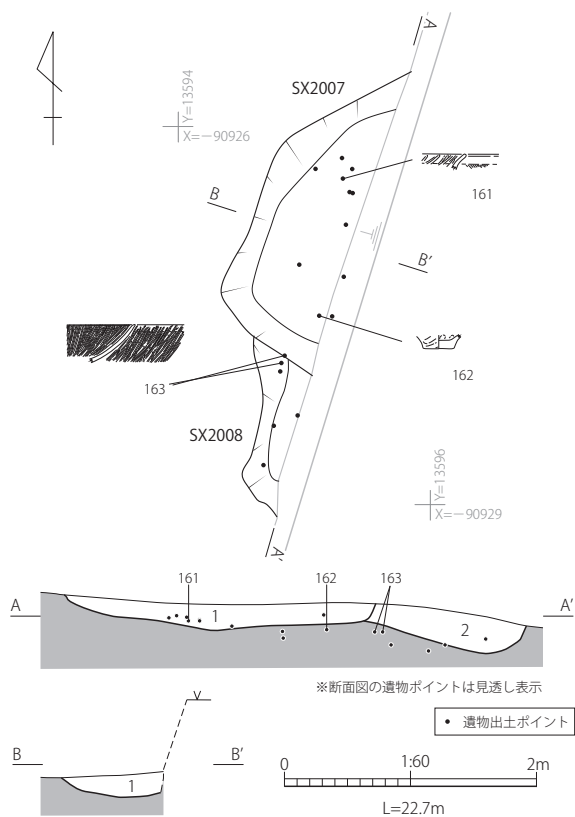
第54図 SD2045・SD2046



第55図 SD2048・SD2049

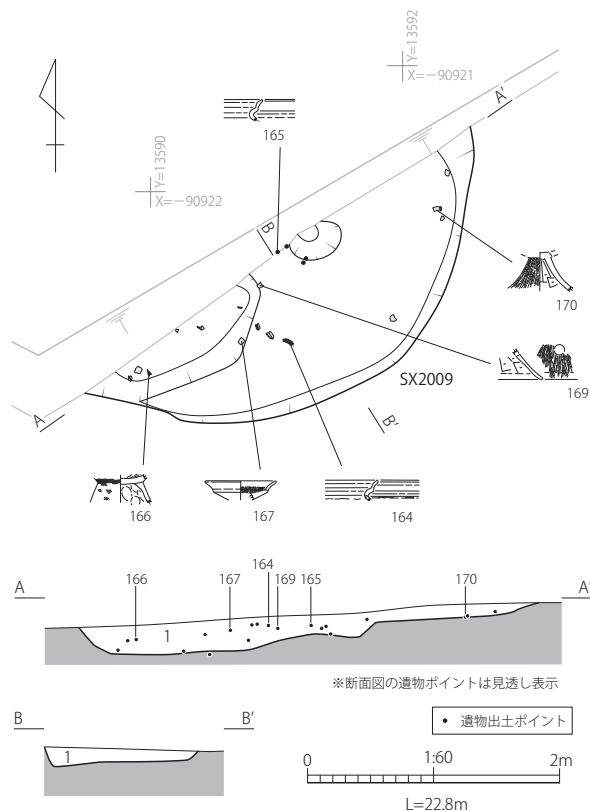


第56図 3区土坑



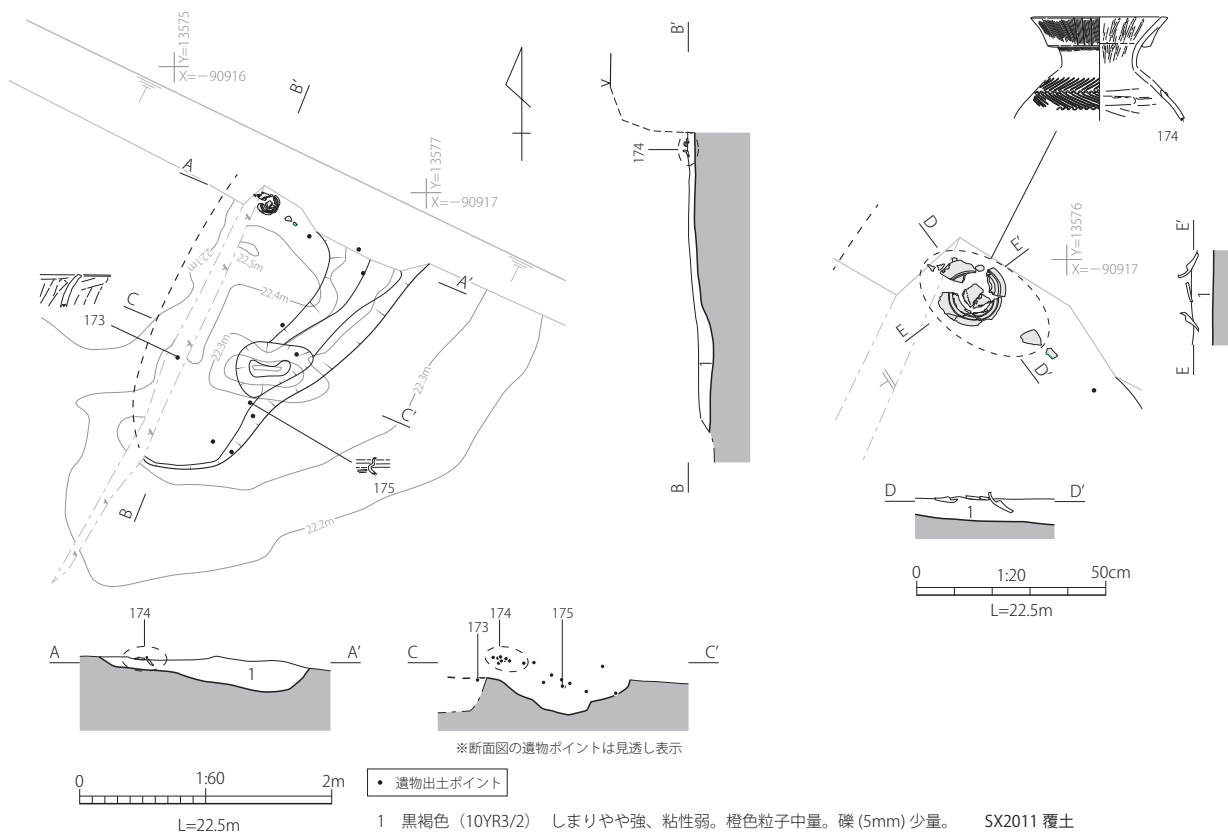
- 1 黒褐色 (10YR3/2) しまりやや強、粘性やや強。橙色粒子微量。SX2007 覆土 礫 (10mm) 少量。
 2 黒褐色 (10YR3/2) しまり強、粘性やや弱。橙色粒子微量。SX2008 覆土 礫 (10mm) 中量。

第 57 図 SX2007・SX2008



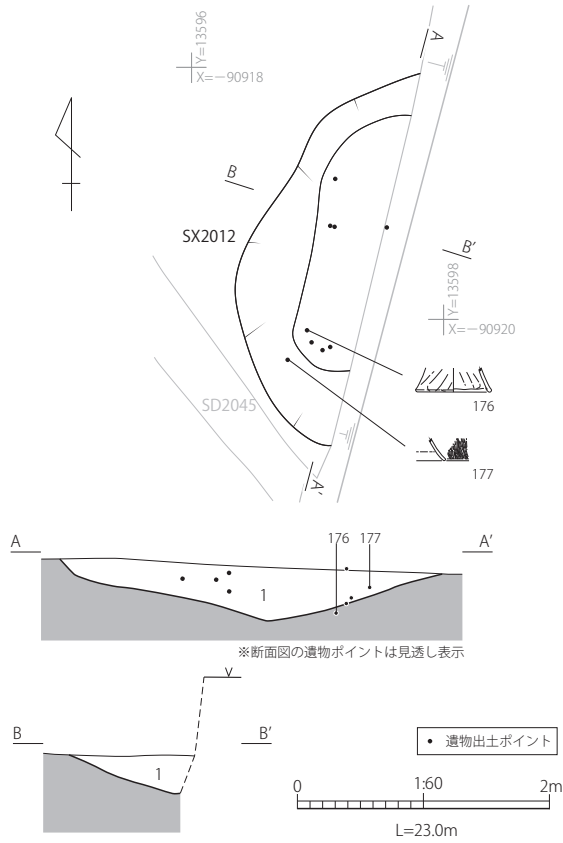
- 1 黒褐色 (10YR2/2) しまりやや強、粘性弱。橙色粒子微量。SX2009 覆土

第 58 図 SX2009

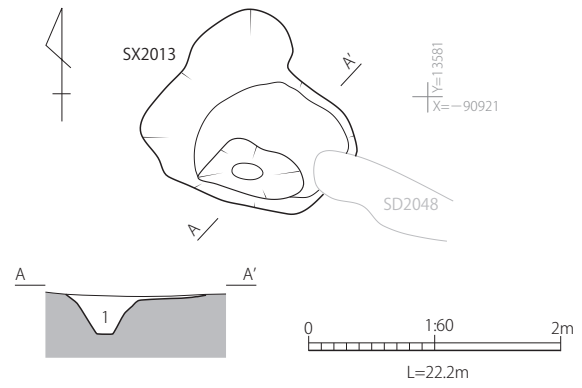


- 1 黒褐色 (10YR3/2) しまりやや強、粘性弱。橙色粒子中量。礫 (5mm) 少量。SX2011 覆土

第 59 図 SX2011



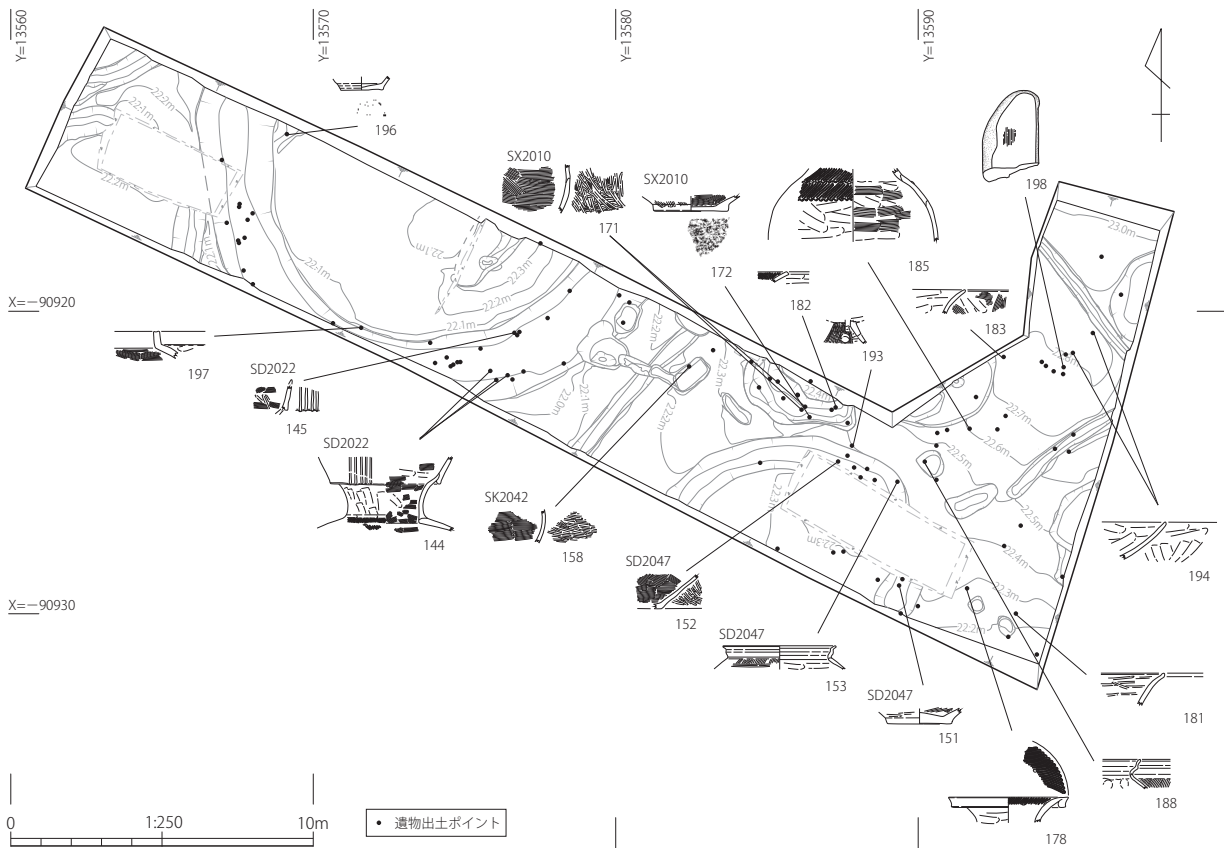
1 黒褐色 (10YR2/2) しまりやや強、粘性やや強。橙色粒子微量。礫 (10mm) 少量。 SX2012 覆土



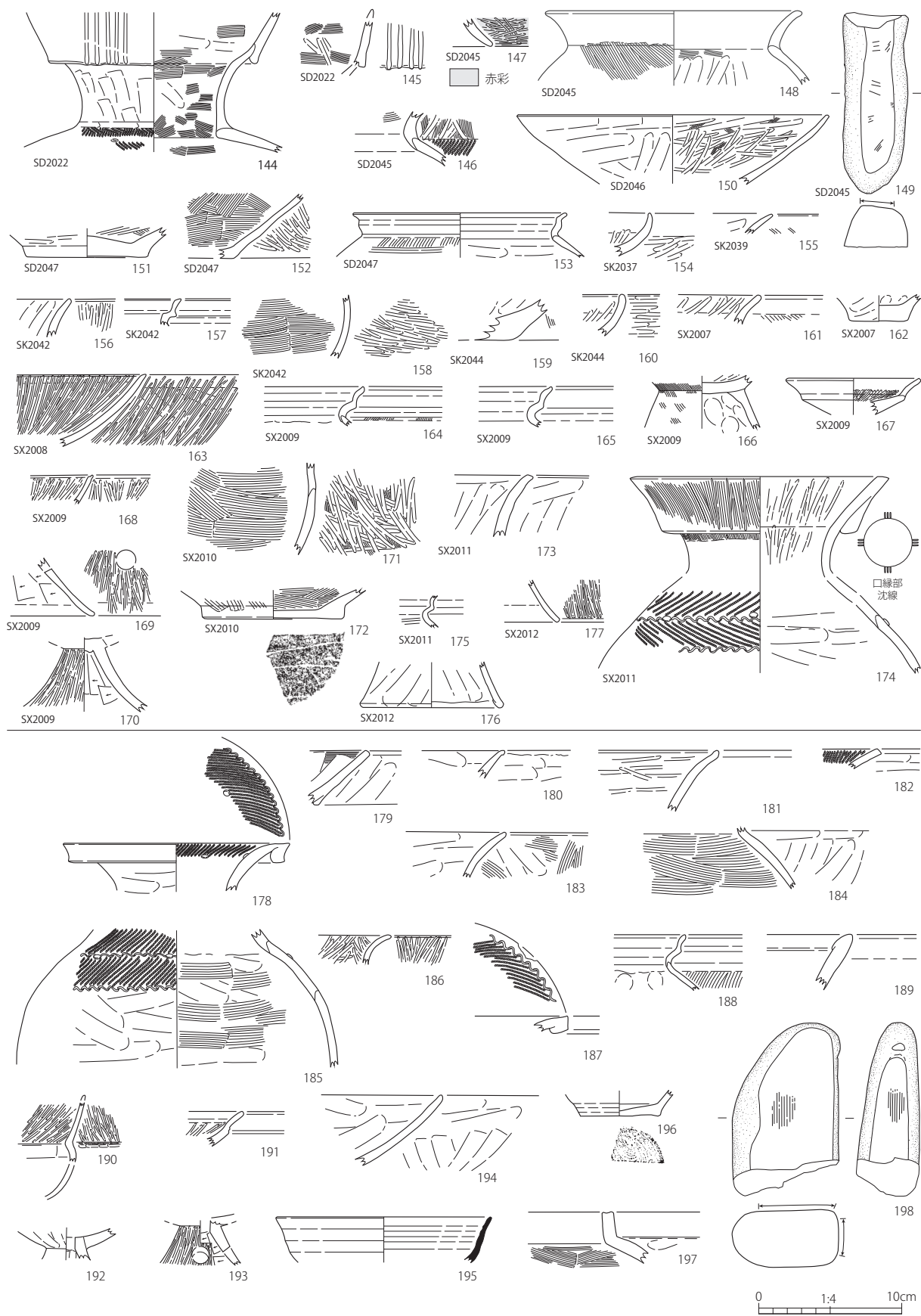
1 黒褐色 (10YR2/2) しまりやや強、粘性弱。橙色粒子微量。 SX2013 覆土

第60図 SX2012

第61図 SX2013



第62図 3区遺構外遺物出土状況図



第63図 3区出土遺物（その他の遺構/遺構外）

SX2010では流れ込みの遺物として、弥生土器の壺の体部片(171)、底部片(172)が出土した。172は底部に木葉痕が明瞭に残る。SX2011では弥生土器の壺の口縁部片(173)、土師器の広口壺の口縁部～肩部片(174)、S字甕の口縁部片(175)が出土した。174は複合口縁の広口壺で、厚く肥厚させた口縁部には3条の沈線による装飾を四方に施している。肩部には、矢羽根状に施した結節縄文の中軸上に円形浮文を配して、文様帯を構成している。

SX2012では土師器のS字甕の台部片(176)、高坏の脚部片(177)が出土した。

帰属時期の傾向として、弥生土器の壺が弥生時代後期(雌鹿塚式)、土師器の壺やS字甕、高坏、器台は弥生時代終末期～古墳時代前期(大廓式)に帰属する。なかでもSX2009・SX2011出土の土師器は、大廓IV式に比定できる。

遺構外出土遺物

弥生土器 179・180、182～186は弥生土器である。179・180、182～185が壺であり、179は複合口縁広口壺の口縁部片である。185は肩部に二段の結節縄文を施し、その中軸上に円形浮文を配する。186は甕の口縁部片である。いずれも弥生時代後期(雌鹿塚式)に帰属するとみられる。

註

- 1 池谷初恵氏の御教示による。
- 2 篠原和大、小泉祐紀両氏の御教示による。
- 3 以下、石材についてはすべて前嶋秀張氏の御教示による。

土師器 178・181・187～194・196は土師器である。178・181・187は壺の口縁部片で、178・187は口縁部上面に装飾を施した折り返し口縁壺である。178は結節縄文の内側に円形浮文を張り付け、装飾を成している。188・189は甕である。188はS字甕、189は球胴甕の口縁部片である。190は埴で、口縁部は内外面ともに丁寧なヘラミガキを施す。191～193は器台であり、191は内面見込部にヘラミガキを施す。194は高坏の坏部片であり、内外面ともにナデ調整を施す。196は底部糸切未調整の坏である。

帰属時期は189が奈良時代(富士I、8世紀前葉頃)、196が平安時代(富士VII、10世紀前半以降)、ほかは古墳時代前期(大廓式)に帰属するとみられる。

須恵器 195は須恵器の坏身であり、奈良時代の高台坏とみられる。

その他 197は帰属不明の土器である。図示した位置での口縁部は短く直立させており、回転ヨコナデによって平滑に整形する。肩部内面はヨコハケを施す。中近世の素焼きの土器の可能性が考えられる。

石器 198は砥石と考えられる石器であり、石材は砂岩である。下半分が欠損している。正面と側面に磨面が発達しており、側面の使用が特に顕著である。両面ともに縦方向の線条痕が確認できる。

(藤村 翔・古瀬 岳洋)

- 4 131・132ともに、池谷初恵氏の御教示による。
- 5 鈴木敏則、渥美賢吾両氏の御教示による。

第4章 総括

1 弥生時代後期から古墳時代前期の集落と生産域

耕作関連遺構 調査地北半部の1・2区周辺では、沢東A遺跡では希薄とみられていた弥生時代後期から古墳時代前期に帰属する遺物が、畝間溝や区画溝の可能性のある溝などに伴い多数出土した。周辺に同時期の集落が広がるとすれば、今回の調査区一帯はその生産域（耕作地）であった可能性が高い。

これまでも沢東A遺跡では第3次調査地点（小野ほか1995）や第5次調査地点（藤村編2012）におい

て古墳時代前期（大廓式後半期）の土器が出土しているほか、東側に隣接する川窪遺跡でも同時期の方形周溝墓の可能性のある溝を検出している（若林2008）。今回の調査区においても、3区SX2011などで見られるように、大廓式後半期の土器の出土は全体的に顕著であり、潤井川下流域における当該期の集落や生産域、墓域の広がりには今後も注意する必要がある。

2 沢東A遺跡の古式群集墳と古墳時代後期前半の地域社会

古式群集墳の発見 調査地南側の3区周辺では、沢東A遺跡では初となる、7基以上の小規模な円墳や土坑墓からなる古墳群が発見された。周溝のあるものはいずれも円墳で互いに近接して立地し、墳径は最小で2.8m（SZ2002）、最大で11.0m（SZ2004）と全体的に小規模ながらも大小の古墳で構成される点に特色がある。各古墳の周溝出土遺物の年代観から、古墳時代後期前半（TK47～MT15型式併行期）を中心に築かれた円墳群とみられる。いずれの円墳も埋葬施設は残っていなかったが、小規模な竪穴系の埋葬施設であったと考えられる。

以上の調査知見から、本古墳群は古式群集墳の新例として認識できる。古式群集墳とは、この時期に倭王権によって新たに掌握された有力集団の古墳群であり、新来の技術を携えた渡来人や武人の集団とも考えられている（和田1992など）。同じ潤井川の上流域に立地する富士宮市域の滝戸遺跡SZ02・03（原2021）と古墳の時期・規模ともに近似しており、潤井川流域の集団が共通した目的や背景のもとで、古式群集墳の採用へと至ったことが窺える。

沢東A遺跡の先進性 吉原津（現田子の浦港）に潤井川を通じて直結する拠点集落として、古墳時代中期後半（TK208型式併行期）に再び台頭した沢東A遺跡は、周辺遺跡と比べて大型の竪穴建物が集中するほか、当時最先端の地域祭祀に用いられた須恵器や子持勾玉・石製模造品の出土も顕著であり、地域内

でも極めて先進的な集団が居住した集落であったと考えられる（第64図）。特に潤井川と凡夫川の合流地点に近い第3次調査地点（小野ほか1995）は、大型竪穴建物や祭祀遺構が集中しており、5・6世紀代における沢東A遺跡の中核域とみてよい。

潤井川上流の大宮城跡、下流の中桁・中ノ坪遺跡、東平遺跡に同時期の集落が展開する状況から、沢東A遺跡の先進的集団が、潤井川流域の開発や水上交通の管理等に従事していた可能性も窺える。沢東A遺跡から2.5kmほど下流に6世紀前半頃に築かれた伊勢塚古墳（藤村編2012、円墳・径54m）を、潤井川流域の集団を統率した首長の墳墓とみれば、集落に近接する沢東A遺跡や滝戸遺跡の古式群集墳は、地域開発や食糧生産、交通管理等を担う実務部隊をまとめ上げ、首長を補佐した集団の墓域と考えられる。

新興の首長墳と古式群集墳 駿河・伊豆地域では、富士山の火山噴出物が南麓に降灰した5世紀末以降、それまで停滞していた古墳の築造が再び活発化し、40～50m級の前方後円墳や円墳等からなる中小規模の首長墳が、各河川流域・小地域単位で一斉に並立するようになる（滝沢2015）。特に東海では、6世紀中頃にミヤケ制にかかわる地域秩序の転換が始まったとされ（早野2005）、その前史として、各地における小型前方後円墳の隆盛にみられる新興首長層と倭王権との人格的結合に注意が払われてきたところである（鈴木2018）。

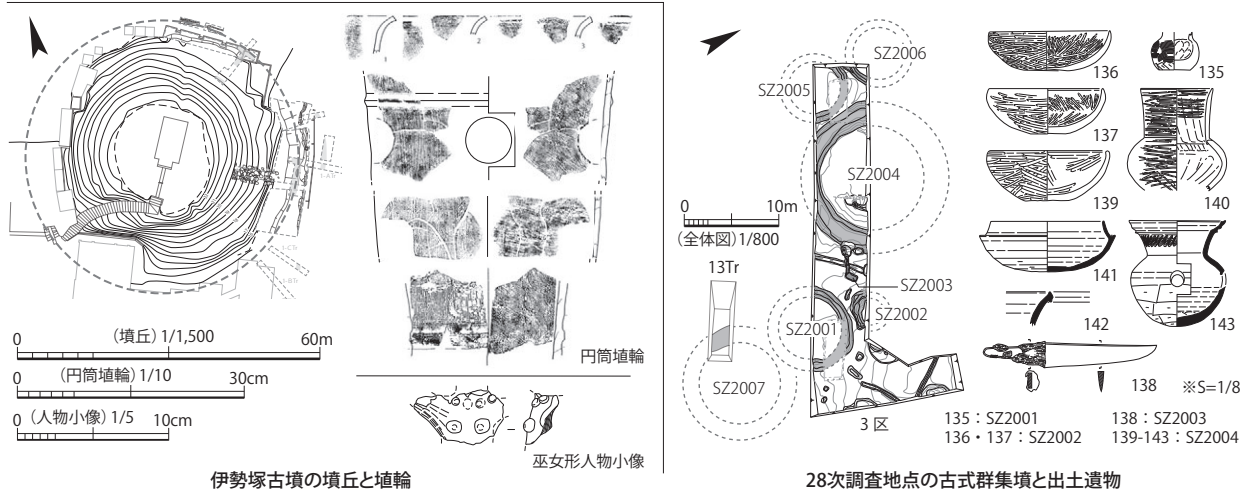
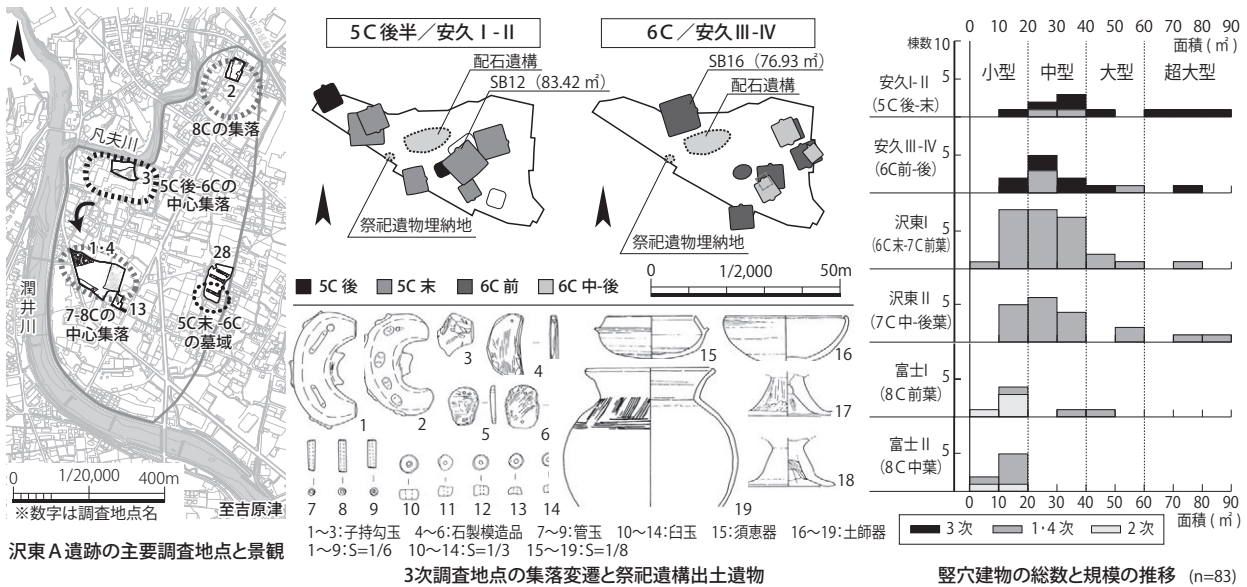
駿河・伊豆地域の古式（初期）群集墳については、若王子古墳群のように古墳時代前期後半から小型墳による群形成がみられる中で、倭王権との関係性や新興的な性格をどの段階から認めるかについては定説をみないものの（村田 2002 など）、中期末～後期前半の例では墳形や規模等による階層性について理解が進んでいる（鈴木 2000、菊池・田村 2021 など）。

富士山南麓の潤井川流域から愛鷹山南西麓にかけての地域では、明確な古式群集墳の事例について認識が進んでいなかったが、近年に原悠翔が滝戸遺跡の円墳群に注目し（原 2021）、今回の沢東A遺跡の調査によって時期的にも明確な例が確認できたことを受け、見直しを図る必要性が生じている。これまでに横穴式石室を有さない円墳群が見つかったにもかかわらず、出土遺物が少なく評価が難しかった

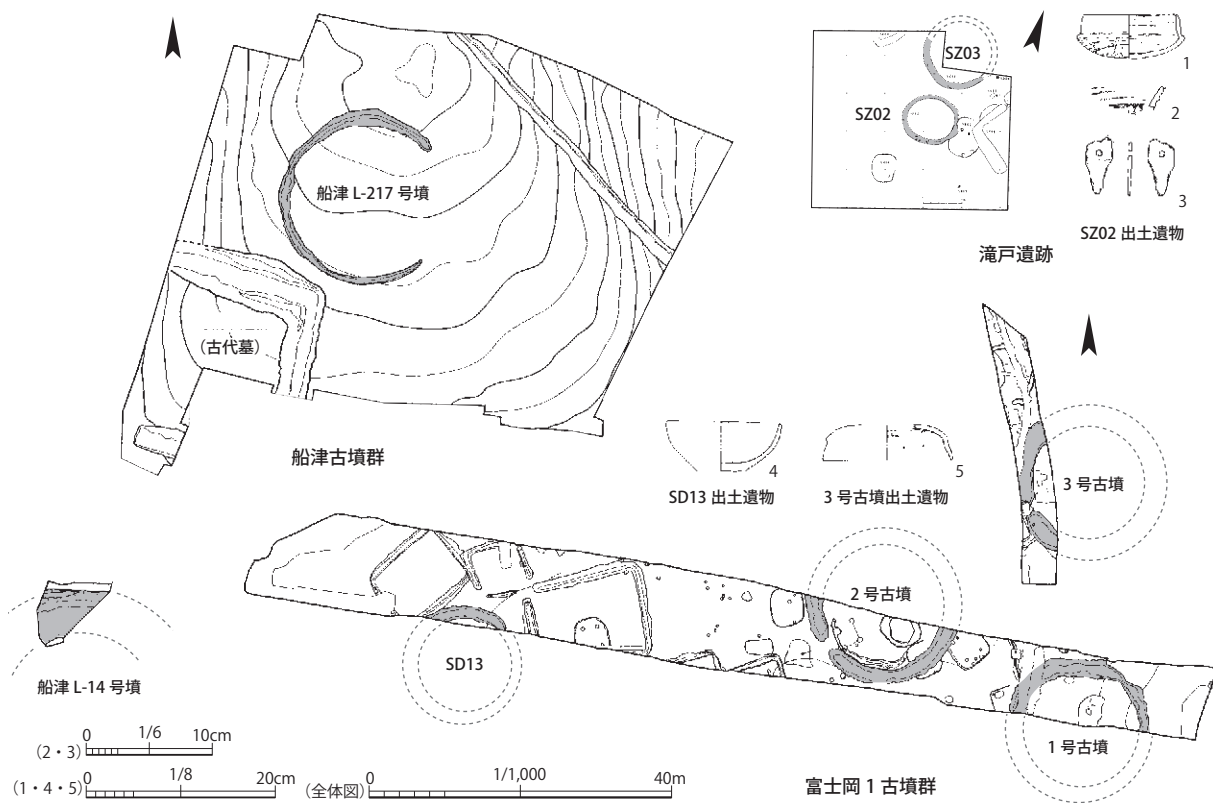
富士岡 1 古墳群（岩崎・西田ほか 2013）や船津古墳群（柴田・杉山ほか 2009）についても、古式群集墳として積極的に評価できる余地があるだろう（第 65 図）。

後期前半における地域秩序の形成 駿河東部・伊豆地域の古式群集墳とその可能性が高い古墳群の分布をみると、中小規模の首長墳と対応するようにして、小地域内に展開した状況が窺える（第 66 図）。伊豆地域の向山古墳群や多田大塚古墳群では同一群内において達成された墳形や規模による階層秩序が、潤井川流域や浮島沼沿岸においては単独立地の首長墳と古式群集墳の組み合わせにより、小地域単位で表現されていたことが想定されよう。

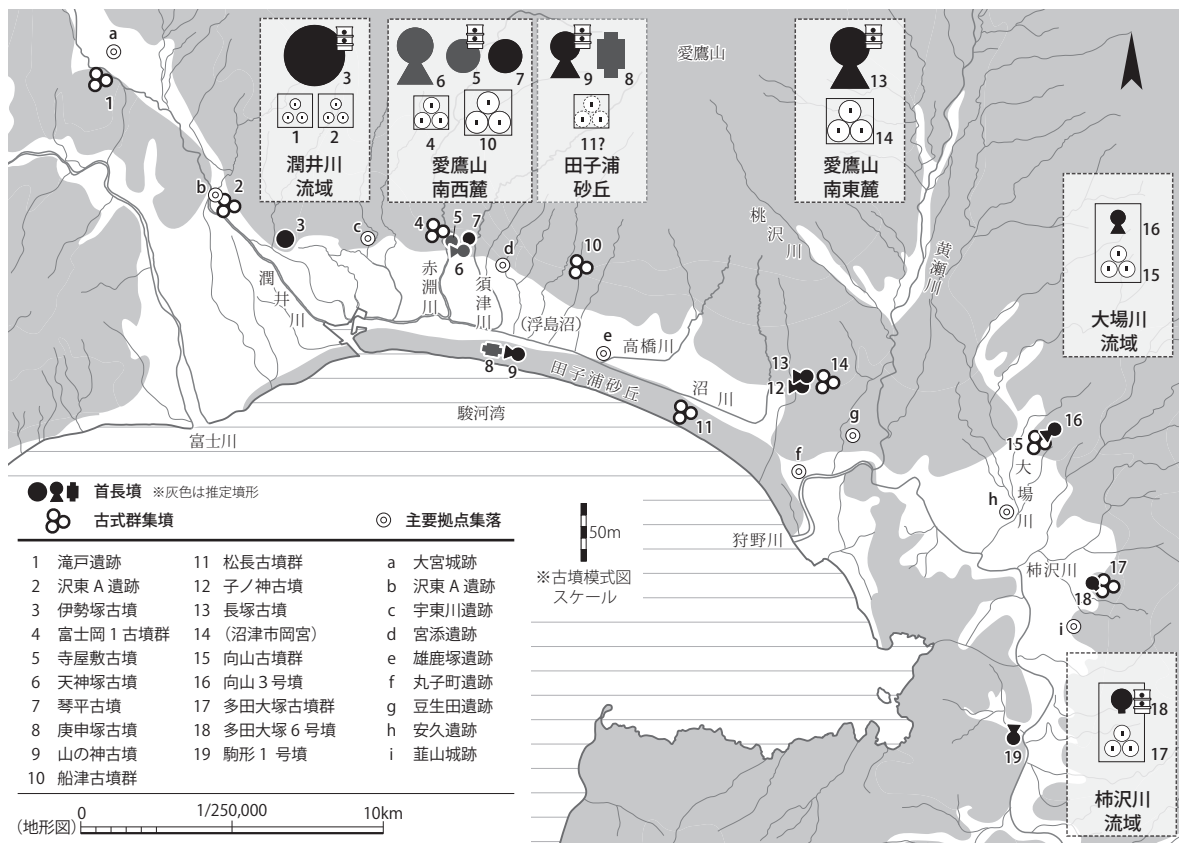
中期後半から後期初頭（TK208～TK47 型式併行期）は当地域における集落再編期にあたっており、併行して進められた低地開発や河川改修の成果が新興の



第 64 図 古墳時代後期前半における沢東 A 遺跡の景観と特徴



第65図 潤井川流域～愛鷹山南西麓における古式群集墳の類例



第66図 駿河東部・伊豆地域における中小首長墳と古式群集墳の秩序 (5世紀末～6世紀中葉頃)

中小首長層の並立的台頭を促したとみられる(藤村2017)。後期前半段階(TK47～TK10型式併行期)には、各地の新興首長層を中心とする地域社会において、古式群集墳の被葬者集団が軍事面や地域経営の実務面で首長を補佐する体制が形成されていたと考えてよい。富士山噴火の傷が癒えない駿河東部地域周辺では、地域開発の需要と倭王権の勢力進展の意向が

3 古代末から中世の遺物と沢東A遺跡

古代末から中世の遺物 今回の調査地では、8・9世紀の痕跡が薄弱であったものの、平安時代後期から中世の遺物や当該期の可能性のある遺構の存在を確認することができた。

まず、10世紀以降に帰属する底部糸切未調整の土師器坏やかかわらけは、確認調査12Tr(第14図14)や2区SX2003(第39図99)、2区遺構外(同129)、3区遺構外(第63図196)から出土している。中世陶器としては、常滑産の甕(第39図131、14～15世紀頃)や片口鉢(同132、13世紀前半)が確認できたほか、

参考・引用文献

- 岩崎しのぶ・西田真由子ほか 2013『富士岡1古墳群他』静岡県埋蔵文化財センター
- 小野眞一・秋本眞澄ほか 1995『沢東A遺跡』富士市教育委員会
- 菊池吉修・田村隆太郎 2021「東海地域の群集墳—遠江・駿河・伊豆を中心に—」古代学研究会編『群集墳研究の新視角—群集墳からみた古墳時代の社会と集団』六一書房
- 佐藤祐樹・若林美希 2014「沢東A遺跡の成立と展開」若林編『沢東A遺跡 第1次』富士市教育委員会
- 柴田亮平・杉山和徳ほか 2009『矢川上C遺跡富士市—1』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 鈴木一有 2000「三方原古墳群にみる群集墳の構造」『プレフォーラムII 東海地方における群集墳の築造モデル』三河古墳研究会
- 鈴木一有 2018「東海地方における古墳時代後期の地域社会」『境界の考古学』日本考古学協会2018年度静岡大会発表資料集(鈴木一有・田村隆太郎編『賤機山古墳と東国首長』季刊考古学・別冊30 雄山閣、2019年所収)
- 鈴木一有・田村隆太郎編 2019「討論：古墳時代後期後半の東国地域首長の諸相」『賤機山古墳と東国首長』季刊考古学・別冊30 雄山閣
- 滝沢 誠 2015「古墳時代政治構造の地域的把握—駿河における大型古墳の変遷—」『古墳時代の軍事組織と政治構造』同成社

合致した結果(鈴木・田村編2019)、上述した集団組織の編成が推進されたと評価したい。

今回の発掘調査により、当地域で初めて、まとまった土器群を伴って検出された古式群集墳は、5世紀末から6世紀初頭という古墳時代随一の変革期における、富士山南麓の地域社会の動向を知る手がかりとして第一級の考古資料であるといえる。

貿易陶磁器として、確認調査8Trにおいて龍泉窯系青磁碗(第14図15、13世紀後半)が出土している。

中世の沢東A遺跡 当遺跡では第2次調査地点において12世紀後半や15世紀の常滑産大甕を伴う土坑墓群が検出されている(前嶋・前田1995)。今後は沢東A遺跡における過去の調査知見を、現代的な観点で再整理し、西岸の破魔射場遺跡・沢上遺跡等と比較することで、当時の交通の要衝でもある富士川河口部両岸に展開した中世の集落や墓域の実態に迫る資料として評価していく必要がある。(藤村 翔)

- 原 悠翔 2021「富士宮市 滝戸遺跡SZ02・SZ03の検討」『静岡県考古学研究会』No.52 静岡県考古学会
- 早野浩二 2005「ミヤケの地域的展開と渡来人—東海地方における朝鮮半島系土器の考察から—」『考古学フォーラム』17 考古学フォーラム
- 藤村 翔編 2012『富士市内遺跡発掘調査報告書—平成11・12年度—』富士市教育委員会
- 藤村 翔 2017「駿河・伊豆地域における手工業技術の受容と集落動態—古墳時代後期から飛鳥時代を中心に—」『東海における古墳時代の手工業生産の展開を考える』第28回考古学研究会東海例会(『東海における古墳時代の手工業生産の展開を考える』考古学研究会シンポジウム記録12 考古学研究会、2021年所収)
- 前嶋秀張・前田勝己 1995『沢東A遺跡第2次調査』富士市教育委員会
- 村田 淳 2002「古式群集墳の成立とその性格—遠江・駿河の事例分析を通じて—」『静岡県考古学研究会』No.34 静岡県考古学会
- 若林美希 2008『平成17・18年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』富士市教育委員会
- 和田晴吾 1992「群集墳と終末期古墳」『新版 古代の日本』第5巻 近畿I 角川書店

付 表

遺構一覽表

出土遺物觀察表

・遺構一覧表

古墳

遺構名	掲載頁	図版	調査区	構成する遺構	墳形	主軸	断面形	墳径(m)	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	周溝			重複関係(古→新)	出土遺物
												断面形	幅(m)	深さ(m)		
SZ2001	37頁	PL.11～14	3区	SD2047	円形	-	-	6.50	-	-	-	平～丸底	1.20	0.37		第53図134～135
SZ2002	37頁	PL.11～14	3区	SX2010	円形	-	-	2.80	-	-	-	丸底	1.50	0.35		第53図136～137
SZ2003	37頁	PL.14	3区	SK2042(墓坑)	-	N-49°-E	平底	-	1.27	0.71	0.39	-	-	-	SD2049→SD2048→SK2044→SZ2003(SK2042)	第53図138
SZ2004	43頁	PL.15～18	3区	SD2022	円形	-	平底	11.00	-	-	-	平～丸底	2.60	0.60	SX2011→SZ2004(SD2022)→SK2045(SZ2005(SD2052)→SZ2004(SD2022)→SX2013→SD2048	第53図139～143
SZ2005	43頁	PL.19	3区	SD2051 SD2052	円形	-	-	5.50	-	-	-	平～丸底	1.00	0.29	SZ2005(SD2052)→SZ2004(SD2022)	
SZ2006	45頁	PL.19	3区	SD2050	円形	-	-	5.50	-	-	-	丸底	0.80	0.25		
SZ2007	45頁	-	13Tr	SD1002	円形	-	-	8.60	-	-	-	丸底	2.00	0.20以上		

溝状遺構

遺構名	掲載頁	図版	調査区	平面形	断面形	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	主軸	重複関係(古→新)	出土遺物	備考
SD2001	16頁	-	1区	直線	浅い平底	2.10	0.32	0.09	N-26°-W	SD2007→SD2002→SD2001	第25図16	
SD2002	16頁	-	1区	直線	平底	(3.02)	0.54	0.08	N-63°-E	SD2007→SK2007→SK2006		
SD2003	16頁	-	1区	直線	丸底	1.95	0.37	0.19	N-68°-E	SD2003→Pit2005		
SD2004	16頁	-	1区	直線	浅い平底	(10.02)	0.48	0.03～0.14	N-36°-W		第25図17～18	
SD2005	16頁	-	1区	直線	浅い平底	(2.23)	0.38	0.12	N-50°-E		第25図19	
SD2006	16頁	-	1区	直線	浅い平底	2.62	0.38	0.13	N-50°-E		第25図20	
SD2007	16頁	-	1区	直線	浅い平底	(0.92)	(0.42)	0.04	N-76°-E	SD2007→SD2002→SD2001		
SD2008	16頁	-	1区	直線	浅い平底	2.70	0.36	0.08	N-50°-E	SD2008→SK2007→SK2006 SK2014→SD2008→SK2008		
SD2009	16頁	-	1区	直線	浅い平底	(4.11)	0.27	0.11	N-46°-E	SK2014→SD2009		
SD2010	16頁	-	1区	直線	浅い平底	(5.88)	0.51	0.14	N-48°-E	SK2014→SD2010	第25図21～24	
SD2011	16頁	-	1区	直線	平底	(2.70)	0.22	0.09	N-50°-E	SD2011→SK2006	第25図25	
SD2012	16頁	-	1区	直線	浅い丸底	(2.76)	0.32	0.08	N-54°-E	SD2012→SK2009,Pit2010,Pit2015,Pit2016		
SD2013	16頁	-	1区	直線	浅い丸底	(1.87)	0.21	0.07	N-46°-E			
SD2014	16頁	-	1区	直線	浅い丸底	(6.25)	0.29	0.08	N-48°-E	SD2014→Pit2011,Pit2017,Pit2018	第25図26～29	
SD2015	16頁	-	1区	直線	浅い丸底	3.41	0.24	0.04	N-42°-E			
SD2016	16頁	-	1区	直線	浅い丸底	(2.33)	0.26	0.09	N-40°-E			
SD2017	16頁	-	1区	直線	浅い丸底	(6.23)	0.30	0.08	N-49°-E	SD2017→SD2018,SK2012,Pit2019	第25図30	
SD2018	16頁	-	1区	直線	浅い丸底	(3.22)	0.23	0.02	N-85°-E	SD2017→SD2018	第25図31～33	
SD2019	16頁	-	1区	直線	浅い丸底	(2.82)	0.24	0.07	N-43°-E		第25図34	
SD2020	16頁	-	1区	直線	浅い丸底	(3.88)	0.58～1.00	0.13	N-48°-E		第25図35～40	
SD2021	16頁	-	1区	直線	浅い平底	(3.75)	0.29	0.10	N-48°-E		第25図41	
SD2022	SZ2004に変更											
SD2023	16頁	-	1区	直線	浅い丸底	3.69	0.28	0.08	N-6°-E			
SD2024	25頁	-	2区	やや曲線	浅い丸底	(3.04)	0.39	0.08	N-17°-W	SD2024→SK2022	第39図85	
SD2025	25頁	-	2区	直線	平底	2.12	0.21	0.09	N-45°-W			
SD2026	25頁	PL.6	2区	直線	平底	(2.70)	0.63	0.25	N-55°-E	SD2027→SD2026	第39図86～89	
SD2027	25頁	-	2区	直線	浅い平底	(1.15)	0.21	0.07	N-45°-W	SD2027→SD2026		
SD2028	25頁	-	2区	やや曲線	浅い丸底	(3.90)	0.42	0.12	N-88°-E	SD2029→SD2028	第39図90～91	
SD2029	25頁	PL.7	2区	直線	浅い平底	(2.08)	0.29	0.08	N-50°-W	SD2029→SD2028		
SD2030	25頁	PL.6	2区	直線	浅い平底	(3.62)	0.54	0.15	N-71°-E	SD2030→Pit2032	第39図92	
SD2031	25頁	-	2区	直線	浅い丸底	(5.50)	0.34	0.14	N-50°-E	SD2031→SX2004		
SD2032	25頁	-	2区	直線	浅い丸底	(5.93)	0.32	0.09	N-51°-E	SD2032→SX2004		
SD2033	25頁	-	2区	直線	浅い平底	(2.05)	0.51	0.13	N-29°-E	SD2033→SX2005		
SD2034	25頁	PL.6	2区	直線	浅い平底	(5.86)	0.29	0.15	N-49°-E	SD2034→SD2035,SK2029,SK2033, SX2005	第39図93	
SD2035	25頁	-	2区	直線	浅い丸底	(1.73)	0.20	0.08	N-22°-E	SD2034→SD2035		
SD2036	25頁	-	2区	直線	浅い平底	(5.35)	0.55	0.15	N-49°-E	SK2031→SD2036→SK2030, SX2006		
SD2037	25頁	-	2区	やや曲線	浅い丸底	(4.87)	0.30	0.11	N-52°-E	SK2031→SD2037→SX2006	第39図94	
SD2038	25頁	-	2区	直線	浅い丸底	(6.44)	0.27	0.09	N-49°-E		第39図95	
SD2039	25頁	PL.7	2区	直線	丸底	(2.41)	0.20	0.08	N-50°-E		第39図96～97	
SD2040	25頁	-	2区	直線	浅い平底	(2.69)	0.20	0.03	N-48°-E			
SD2041	25頁	-	2区	直線	浅い丸底	(2.45)	0.25	0.08	N-48°-E			
SD2042	25頁	PL.7	2区	直線	浅い丸底	(2.41)	0.24	0.08	N-48°-E		第39図98	
SD2043	25頁	PL.7	2区	やや曲線	浅い平底	(1.32)	0.70	0.14	N-35°-E	SD2043→SD2044		
SD2044	25頁	PL.7	2区	やや曲線	浅い平底	(3.72)	0.68	0.12	N-89°-E	SD2043→SD2044		
SD2045	46頁	PL.19	3区	直線	丸底	(4.92)	0.36	0.24	N-37°-W		第63図146～149	
SD2046	46頁	-	3区	直線	丸底	(4.53)	0.50	0.26	N-50°-E		第63図150	
SD2047	SZ2001に変更											
SD2048	46頁	PL.19	3区	直線	丸底	(5.53)	0.38	0.25	N-67°-W	SD2049→SD2048→SK2044→SK2042 SD2022→SX2013→SD2048		
SD2049	46頁	PL.19	3区	直線	浅い平底	(1.21)	0.45	0.16	N-43°-E	SD2049→SD2048→SK2044→SK2042 SD2049→SK2043		
SD2050	SZ2006に変更											
SD2051	SZ2005に変更											
SD2052	SZ2005に変更											

炉・土坑・ピット

遺構名	種別	掲載頁	図版	調査区	平面形	断面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	重複関係 (古→新)	出土遺物	備考
FP2001	炉	20頁	PL.4	1区	楕円形	浅い丸底	0.70	0.67	0.12			
SK2001	土坑	20頁	-	1区	正円形	浅い平底	0.68	0.62	0.14			
SK2002	土坑	20頁	-	1区	正円形	浅い平底	1.04	1.02	0.15			
SK2003	土坑	20頁	-	1区	正円形	浅い丸底	0.73	0.70	0.08			
Pit2004	ピット	20頁	-	1区	正円形	平底	0.28	0.26	0.28			
Pit2005	ピット	20頁	-	1区	正円形	浅い平底	0.33	0.32	0.08			
SK2006	土坑	20頁	-	1区	隅丸方形	浅い丸底	0.68	0.68	0.15	SK2007 → SK2006		
SK2007	土坑	20頁	-	1区	楕円形	浅い丸底	(0.82)	0.70	0.09	SD2008 → SK2007 → SK2006		
SK2008	土坑	20頁	-	1区	正円形	浅い丸底	0.60	0.60	0.07	SK2014 → SD2008 → SK2008		
SK2009	土坑	20頁	-	1区	不整形	浅い丸底	0.68	0.68	0.10	SD2012 → SK2009	第25図42	
Pit2010	ピット	20頁	-	1区	不整形	浅い丸底	0.28	0.17	0.03	SD2012 → Pit2010		
Pit2011	ピット	20頁	-	1区	正円形	浅い平底	0.12	0.11	0.04	SD2014 → Pit2011		
SK2012	土坑	20頁	-	1区	楕円形	浅い平底	0.73	0.48	0.07	SK2013 → SK2012 SD2017 → SK2012	第25図43	
SK2013	土坑	20頁	-	1区	楕円形	浅い丸底	(0.59)	0.36	0.04	SK2013 → SK2012		
SK2014	土坑	20頁	-	1区	楕円形	浅い丸底	(1.83)	1.14	0.20	SK2014 → SD2008 → SK2008 SK2014 → SD2009,SD2010	第25図44	
Pit2015	ピット	20頁	-	1区	不整形	浅い平底	0.61	0.45	0.05	SD2012 → Pit2015		
Pit2016	ピット	20頁	-	1区	正円形	浅い丸底	0.50	0.46	0.08	SD2012 → Pit2016		
Pit2017	ピット	20頁	-	1区	楕円形	浅い丸底	0.43	0.29	0.07	SD2014 → Pit2017		
Pit2018	ピット	20頁	-	1区	正円形	浅い平底	0.33	0.33	0.04	SD2014 → Pit2018		
Pit2019	ピット	20頁	-	1区	楕円形	浅い平底	0.46	0.29	0.06	SD2017 → Pit2019		
Pit2020	ピット	20頁	-	1区	楕円形	浅い丸底	0.58	0.37	0.06			
Pit2021	ピット	29頁	-	2区	楕円形	丸底	0.47	0.24	0.16			
SK2022	ピット	29頁	-	2区	楕円形	浅い丸底	0.80	0.45	0.15	SD2024 → SK2022		
SK2025	土坑	29頁	-	2区	楕円形	浅い平底	(0.78)	0.73	0.06			
SK2026	土坑	29頁	-	2区	不整形	平底	0.55	(0.25)	0.37			
SK2027	土坑	29頁	-	2区	楕円形	浅い平底	0.91	0.76	0.09			
SK2028	土坑	29頁	-	2区	楕円形	浅い丸底	0.78	(0.38)	0.17			
SK2029	土坑	29頁	-	2区	楕円形	浅い平底	(1.10)	0.55	0.04	SD2034 → SK2029		
SK2030	土坑	29頁	-	2区	不整形	浅い丸底	1.13	0.74	0.10	SK2031 → SD2036 → SK2030		
SK2031	土坑	29頁	-	2区	楕円形	浅い丸底	(1.00)	0.40	0.10	SK2031 → SD2036 → SK2030 SK2031 → SD2037		
Pit2032	ピット	29頁	-	2区	正円形	丸底	0.49	0.44	0.36	SD2030 → Pit2032		
SK2033	土坑	29頁	-	2区	不整形	浅い平底	0.74	(0.36)	0.08			
SK2034	土坑	29頁	-	2区	楕円形	浅い丸底	0.73	0.50	0.10			
SK2035	土坑	29頁	-	2区	楕円形	平底	1.20	(0.62)	0.34	SD2034 → SK2035		
Pit2036	ピット	29頁	-	2区	正円形	丸底	0.27	0.27	0.29			
SK2037	土坑	46頁	-	3区	楕円形	丸底	0.68	0.52	0.12		第63図154	
SK2038	土坑	46頁	-	3区	正円形	浅い丸底	0.52	0.50	0.08			
SK2039	土坑	46頁	-	3区	楕円形	浅い丸底	1.80	0.72	0.23		第63図155	
SK2040	土坑	46頁	-	3区	楕円形	浅い丸底	0.95	0.76	0.22			
SK2041	土坑	46頁	-	3区	楕円形	浅い平底	1.30	0.43	0.12			
SK2042	土坑	SZ2003に変更										
SK2043	土坑	46頁	-	3区	楕円形	浅い平底	(1.34)	(0.40)	0.12	SD2049 → SK2043		
SK2044	土坑	46頁	-	3区	楕円形	平底	(1.20)	0.33	0.22	SD2049 → SD2048 → SK2044 → SK2042	第63図159～160	
SK2045	土坑	46頁	-	3区	楕円形	浅い丸底	1.00	0.06	0.22	SD2022 → SK2045		

付表
遺構一覧表

不明遺構

遺構名	掲載頁	図版	調査区	平面形	断面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	重複関係 (古→新)	出土遺物	備考
SX2001	32頁	-	2区	不整形	浅い丸底	0.75	(0.42)	0.38			
SX2002	32頁	-	2区	不整形	浅い丸底	(1.57)	(0.28)	0.27			
SX2003	32頁	-	2区	不整形	浅い丸底	(2.82)	(0.50)	0.15		第39図99	
SX2004	32頁	-	2区	楕円形	浅い丸底	4.95	(1.40)	0.31	SX2004 → SX2005 SD2031,SD2032 → SX2004	第39図100	
SX2005	32頁	-	2区	楕円形	浅い平底	2.50	(0.53)	0.21	SX2004 → SX2005 SD2033,SD2034 → SX2005	第39図101	
SX2006	32頁	-	2区	隅丸方形	平底	1.50	(1.00)	0.23	SK2031 → SD2036,SD2037 → SX2006		
SX2007	46頁	-	3区	楕円形	浅い丸底	2.40	(0.92)	0.21	SX2008 → SX2007	第63図161～162	
SX2008	46頁	-	3区	隅丸方形	浅い平底	(1.14)	(0.42)	0.26	SX2008 → SX2007	第63図163	
SX2009	46頁	PL.20	3区	正円形	浅い丸底	3.46	(1.30)	0.17		第63図164～170	
SX2010	SZ2002に変更										
SX2011	46頁	PL.20	3区	楕円形	浅い平底	(2.30)	(1.74)	0.13	SX2011 → SD2022	第63図173～175	
SX2012	46頁	PL.19	3区	正円形	浅い丸底	3.00	(1.12)	0.41		第63図176～177	
SX2013	46頁	-	3区	楕円形	丸底	1.30	1.13	0.35	SD2022 → SX2013 → SD2048		

・出土遺物観察表

確認調査

報告 番号	挿図番号 図版番号	トレンチ	R 番号	取上 方法	種別	分類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	内面色調 外面色調	焼成	残存率 (%)	備考
1	第14図 PL.23	10Tr	R0019	PC点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(7.2)	10YR7/3 (にぶい黄橙) 7.5YR7/4 (にぶい橙)	良好	-	
2	第14図 -	10Tr	R0021	一括	弥生土器?	壺	弥生?	-	[9.2]	(1.9)	10YR3/1 (黒褐) 10YR5/3 (にぶい黄褐)	良好	45	
3	第14図 -	1Tr	R0025	一括	弥生土器	甗	弥生	-	-	(2.3)	7.5YR6/6 (橙) 7.5YR6/6 (橙)	良好	-	
4	第14図 -	2Tr	R0026	PC点	弥生土器	甗	弥生	-	-	(2.8)	2.5YR6/6 (橙) 10YR6/4 (にぶい黄橙)	良好	-	
5	第14図 -	3Tr	R0012	一括	土師器	小型壺	古墳	-	-	(2.4)	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	良好	-	
6	第14図 -	10Tr	R0018	PC点	土師器	壺	古墳	-	-	(11.8)	10YR8/4 (浅黄橙) 10YR7/3 (にぶい黄橙)	良好	-	
7	第14図 -	3Tr	R0008	PC点	土師器	S字甗	古墳	-	-	(3.4)	2.5YR6/8 (橙) 2.5YR6/6 (橙)	良好	60	
8	第14図 -	7Tr	R0015+R0016	PC点	土師器	S字甗	古墳	-	-	(4.2)	10YR6/3 (にぶい黄橙) 7.5YR8/6 (浅黄橙)	良好	50	
9	第14図 -	10Tr	R0021	一括	土師器	S字甗	古墳	-	-	(4.8)	7.5YR7/4 (にぶい橙) 7.5YR7/4 (にぶい橙)	良好	50	
10	第14図 -	10Tr	R0021	一括	土師器	高坏	古墳	-	-	(3.4)	5YR7/8 (橙) 5YR7/8 (橙)	良好	-	
11	第14図 -	10Tr	R0021	一括	土師器	高坏	古墳	-	-	(2.0)	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	-	
12	第14図 PL.23	9Tr	R0020	一括	土師器	坏	古墳	[12.2]	-	(4.3)	5YR7/8 (橙) 5YR7/8 (橙)	良好	25	
13	第14図 -	9Tr	R0020	一括	土師器	坏	古墳	-	-	(3.4)	2.5YR6/6 (橙) 2.5YR6/6 (橙)	良好	-	
14	第14図 -	12Tr	R0022	一括	土師器	坏	平安	-	[5.5]	(2.5)	10YR7/4 (にぶい黄橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	25	
15	第14図 PL.23	8Tr	R0017	一括	青磁	碗	中世	-	-	(3.45)	5Y5/2 (灰オリーブ) 5Y5/2 (灰オリーブ)	良好	-	龍泉窯系 13世紀後半

付表 出土遺物観察表

1区 (遺構出土)

報告 番号	挿図番号 図版番号	遺構名	R 番号	取上 方法	種別	分類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm)	内面色調 外面色調	焼成	残存率 (%)	備考
16	第25図 -	SD2001	R0173	PC点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(3.0)	-	7.5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	良好	-	
17	第25図 PL.23	SD2004	R0286	一括	弥生土器	壺	弥生	-	-	(1.2)	-	7.5YR5/4 (にぶい褐) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	良好	-	
18	第25図 -	SD2004	R0247	PC点	土師器	S字甗	古墳	-	-	(2.2)	-	7.5YR6/4 (にぶい橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	良好	-	
19	第25図 -	SD2005	R0246	PC点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(3.8)	-	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	40	
20	第25図 -	SD2006	R0185	一括	土師器	S字甗	古墳	-	-	(1.7)	-	10YR6/4 (にぶい黄橙) 10YR6/4 (にぶい黄橙)	良好	-	
21	第25図 -	SD2010	R0273	PC点	弥生土器	甗	弥生	-	-	(2.4)	-	10YR6/4 (にぶい黄橙) 10YR6/4 (にぶい黄橙)	良好	-	
22	第25図 -	SD2010	R0283	PC点	土師器	鉢	古墳	-	-	(3.3)	-	5YR5/6 (明赤褐) 5YR5/6 (明赤褐)	良好	-	
23	第25図 -	SD2010	R0212	PC点	土師器	高坏	古墳	-	-	(1.5)	-	5YR7/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	-	
24	第25図 -	SD2010	R0294	PC点	須恵器	坏蓋	古墳	-	-	(1.4)	-	N6/ (灰) N6/ (灰)	良好	-	
25	第25図 -	SD2011	R0202	PC点	土師器	小型壺	古墳	-	-	(2.4)	-	10R5/6 (赤) 10R5/6 (赤)	良好	-	
26	第25図 PL.23	SD2014	R0276	PC点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(2.8)	-	10YR7/2 (にぶい黄橙) 10YR7/3 (にぶい黄橙)	良好	-	
27	第25図 -	SD2014	R0256	PC点	土師器	台付甗	古墳	-	-	(2.7)	-	2.5Y6/6 (橙) 5YR7/4 (にぶい橙)	良好	25	
28	第25図 -	SD2014	R0281	PC点	土師器	高坏	古墳	-	-	(3.1)	-	5YR7/6 (橙) 7.5YR5/4 (にぶい褐)	良好	-	
29	第25図 -	SD2014	R0289	一括	土師器	高坏	古墳	-	-	(1.1)	-	10YR5/2 (灰黄褐) 2.5YR5/2 (暗灰黄)	良好	-	
30	第25図 -	SD2017	R0278	PC点	土師器	高坏	古墳	-	-	(4.7)	孔径 (1.2)	7.5YR7/6 (橙) 10YR7/4 (にぶい黄橙)	良好	70	
31	第25図 -	SD2018	R0298	PC点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(3.4)	-	10YR6/4 (にぶい黄橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	良好	-	
32	第25図 -	SD2018	R0299	PC点	土師器	S字甗	古墳	-	-	(2.1)	-	10YR6/4 (にぶい黄橙) 10YR6/4 (にぶい黄橙)	良好	-	
33	第25図 -	SD2018	R0313	一括	土師器	鉢	古墳	-	-	(2.6)	-	5YR5/6 (明赤褐) 5YR5/6 (明赤褐)	良好	-	

報告 番号	挿図番号 図版番号	遺構名	R 番号	取上 方法	種別	分類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm)	内面色調 外面色調	焼成	残存率 (%)	備考
34	第25図	SD2019	R0314	一括	土師器	坏	古墳	-	-	(2.1)	-	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	-	
35	第25図	SD2020	R0236+R0150 +R0148	PC点 一括	土師器	壺	古墳	-	-	(4.2)	-	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	-	
36	第25図	SD2020	R0150+R0236 +R0290	一括	土師器	壺	古墳	-	-	(6.0)	-	5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	良好	-	
37	第25図	SD2020	R0315	一括	土師器	小型壺	古墳	-	-	(2.1)	-	2.5YR6/6 (橙) 2.5YR6/6 (橙)	良好	-	
38	第25図	SD2020	R0236+R0290	一括	土師器	坏	古墳	-	-	(2.6)	-	10YR5/8 (赤) 10YR5/8 (赤)	良好	-	
39	第25図	SD2020	R0206	PC点	土師器	坏	古墳	-	-	(3.1)	-	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	-	
41	第25図	SD2021	R0269	一括	土師器	坏	古墳	-	-	(2.5)	-	7.5YR7/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	-	
42	第25図	SK2009	R0242	PC点	土師器	甕	古墳	-	-	(3.8)	-	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	-	
43	第25図	SK2012	R0208	PC点	土師器	壺	古墳	-	-	(3.8)	-	2.5YR6/6 (橙) 2.5YR6/6 (橙)	良好	-	
44	第25図	SK2014	R0250	PC点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(3.5)	-	10YR6/3 (にぶい黄橙) 10YR7/4 (にぶい黄橙)	良好	-	

報告 番号	挿図番号 図版番号	遺構名	R 番号	取上 方法	種別	分類	時代	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
40	第25図 PL.23	SD2020	R0217	PC点	鉄製品	不明	不明	(4.4)	(2.15)	0.3	5.20	X線写真あり

1区 (遺構外出土)

報告 番号	挿図番号 図版番号	遺構名	R 番号	取上 方法	種別	分類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	内面色調 外面色調	焼成	残存率 (%)	備考
45	第26図	遺構外	R0204	一括	弥生土器	壺	弥生	-	-	(1.9)	10YR7/3 (にぶい黄橙) 10YR7/3 (にぶい黄橙)	良好	-	
46	第26図	遺構外	R0033	PC点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(2.6)	10YR6/3 (にぶい黄橙) 5YR7/8 (橙)	良好	-	
47	第26図	遺構外	R0114	PC点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(3.6)	2.5YR5/1 (黄灰) 7.5YR7/4 (にぶい橙)	良好	25	
48	第26図	遺構外	R0100	PC点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(4.4)	2.5YR5/1 (灰白) 7.5YR8/6 (浅黄橙)	良好	-	
49	第26図	遺構外	R0141	PC点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(5.4)	7.5YR7/4 (にぶい橙) 7.5YR7/4 (にぶい橙)	良好	-	
50	第26図	遺構外	R0067	PC点	弥生土器	壺	弥生	-	8.0	(2.2)	7.5YR7/6 (橙) 10YR7/4 (にぶい黄橙)	良好	40	
51	第26図	遺構外	R0031	PC点	弥生土器	甕	弥生	-	-	(2.8)	5YR6/6 (橙) 7.5YR5/4 (にぶい褐)	良好	-	
52	第26図	遺構外	R0115	PC点	弥生土器	甕	弥生	-	-	(6.2)	10YR6/4 (にぶい黄橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	良好	-	
53	第26図	遺構外	R0108	PC点	弥生土器	甕	弥生	-	-	(6.5)	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	-	
54	第26図	遺構外	R0053	PC点	土師器	壺	古墳	-	[9.0]	(5.0)	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	20	
55	第26図	遺構外	R0048	一括	土師器	壺	古墳	-	-	(2.4)	7.5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	良好	-	
56	第26図	遺構外	R0147	PC点	土師器	壺	古墳	-	-	(4.9)	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	-	
57	第26図	遺構外	R0040	PC点	土師器	壺	古墳	-	-	(5.2)	2.5YR5/2 (暗灰黄) 7.5YR7/6 (橙)	良好	-	
58	第26図	遺構外	R0066	PC点	土師器	壺	古墳	-	-	(11.0)	7.5YR6/4 (にぶい橙) 5YR7/6 (橙)	良好	-	
59	第26図	遺構外	R0048	一括	土師器	小型壺	古墳	-	-	(3.4)	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	-	外面赤彩
60	第26図	遺構外	R0061	一括	土師器	小型壺	古墳	-	-	(3.2)	7.5YR3/1 (黒褐) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	良好	-	
61	第26図	遺構外	R0058	PC点	土師器	S字甕	古墳	[19.6]	-	(3.5)	5YR6/6 (橙) 5YR6/3 (にぶい橙)	良好	20	
62	第26図	遺構外	R0047	PC点	土師器	S字甕	古墳	-	-	(2.2)	10YR7/4 (にぶい黄橙) 10YR7/4 (にぶい黄橙)	良好	-	
63	第26図	遺構外	R0150	一括	土師器	S字甕	古墳	-	-	(2.9)	10YR5/3 (にぶい黄橙) 10YR5/3 (にぶい黄橙)	良好	-	
64	第26図	遺構外	R0043	PC点	土師器	S字甕	古墳	-	-	(1.9)	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	-	
65	第26図	遺構外	R0138	PC点	土師器	甕	古墳	[10.6]	-	(5.8)	5YR6/6 (橙) 10YR7/4 (にぶい黄橙)	良好	20	
66	第26図	遺構外	R0076	PC点	土師器	甕	古墳	-	-	(2.9)	7.5YR4/2 (灰褐) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	良好	-	
67	第26図	遺構外	R0091	PC点	土師器	甕	古墳	-	-	(2.1)	7.5YR5/3 (にぶい褐) 7.5YR5/3 (にぶい褐)	良好	-	

報告番号	挿図番号 図版番号	遺構名	R 番号	取上方法	種別	分類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	内面色調 外面色調	焼成	残存率 (%)	備考
68	第26図	遺構外	R0054	PC点	土師器	台付甕	古墳	-	-	(2.8)	10YR5/4 (にぶい黄橙) 10YR5/4 (にぶい黄橙)	良好	-	
69	第26図	遺構外	R0057	PC点	土師器	台付甕	古墳	-	-	(3.8)	5YR7/6 (橙) 2.5Y7/4 (浅黄)	良好	30	
70	第26図	遺構外	R0085	PC点	土師器	台付甕	古墳	-	-	(1.3)	7.5YR5/4 (にぶい褐) 5YR5/3 (にぶい赤褐)	良好	20	
71	第26図	遺構外	R0131	PC点	土師器	台付甕	古墳	-	-	(2.8)	5YR7/6 (橙) 7.5YR7/4 (にぶい橙)	良好	65	
72	第26図	遺構外	R0104	PC点	土師器	高坏	古墳	-	-	(3.7)	2.5YR6/8 (橙) 2.5YR6/8 (橙)	良好	-	
73	第26図	遺構外	R0083	PC点	土師器	高坏	古墳	-	-	(3.5)	5YR7/6 (橙) 10YR8/3 (萌黄橙)	良好	-	
74	第26図	遺構外	R0036	PC点	土師器	高坏	古墳	-	-	(5.2)	2.5YR6/8 (橙) 2.5YR6/8 (橙)	良好	-	
75	第26図	遺構外	R0139	PC点	土師器	高坏	古墳	-	-	(3.7)	5YR4/6 (赤褐) 5YR4/6 (赤褐)	良好	-	
76	第26図	遺構外	R0086	PC点	土師器	高坏	古墳	-	-	(2.1)	5YR7/8 (橙) 5YR7/8 (橙)	良好	20	
77	第26図	遺構外	R0236	一括	土師器	坏	古墳	-	-	(2.5)	7.5YR6/4 (にぶい橙) 5YR6/4 (にぶい橙)	良好	-	
78	第26図	遺構外	R0064	PC点	須恵器	甕	古墳?	-	-	(3.6)	N6/ (灰) 5Y6/1 (灰)	良好	-	
79	第26図	遺構外	R0048	一括	須恵器	甕	古墳	-	-	(4.2)	5Y5/1 (灰) 7.5Y7/1 (灰白)	良好	-	
80	第26図	遺構外	R0150	一括	須恵器	甕	古墳	-	-	(3.7)	N5/ (灰) N5/ (灰)	良好	-	
81	第26図	遺構外	R0174	一括	須恵器	坏蓋	古墳	-	-	(0.8)	5Y5/1 (灰) 5Y5/1 (灰)	良好	-	

報告番号	挿図番号 図版番号	遺構名	R 番号	取上方法	種別	分類	時代	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
82	第26図 PL.23	遺構外	R0150	一括	石製品	提砥	古墳	5.6	1.8	1.6	23.8	凝灰岩製
83	第26図 PL.23	遺構外	R0641	一括	石器	砥石	古墳?	14.0	6.2	2.9	360	緑色岩製
84	第26図 PL.23	遺構外	R0130	PC点	石器	敲石	弥生?	18.4	5.7	7.4	174.05	砂岩製

2区 (遺構出土)

報告番号	挿図番号 図版番号	遺構名	R 番号	取上方法	種別	分類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	内面色調 外面色調	焼成	残存率 (%)	備考
85	第39図	SD2024	R0369	PC点	土師器	高坏	古墳	-	-	(3.6)	5YR4/6 (赤褐) 5YR4/6 (赤褐)	良好	-	
86	第39図	SD2026	R0383	PC点	土師器	壺	古墳	-	-	(2.5)	7.5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	良好	-	
87	第39図	SD2026	R0388	PC点	土師器	壺	古墳	-	-	(3.9)	5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	-	
88	第39図	SD2026	R0389	PC点	土師器	小型壺	古墳	-	-	(2.6)	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	-	
89	第39図	SD2026	R0428	PC点	土師器	甕	古墳	-	-	(4.5)	5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	良好	-	
90	第39図	SD2028	R0357+R0337	PC点	土師器	S字甕	古墳	-	-	(4.6)	7.5YR6/4 (にぶい橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	-	
91	第39図	SD2028	R0395	PC点	土師器	坏?	古墳	-	-	(2.3)	2.5YR7/8 (橙) 2.5YR7/8 (橙)	良好	-	
92	第39図	SD2030	R0358	PC点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(5.3)	7.5YR8/6 (浅黄橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	-	
93	第39図	SD2034	R0462	PC点	土師器	S字甕	古墳	[3.6]	-	(3.7)	7.5YR4/2 (灰褐) 7.5YR4/1 (褐灰)	良好	20	
94	第39図	SD2037	R0442	一括	弥生土器	壺	弥生	-	-	(2.75)	7.5YR7/4 (にぶい橙) 7.5YR7/4 (にぶい橙)	良好	-	
95	第39図	SD2038	R0443	一括	土師器	鉢	古墳	-	-	(2.3)	5YR6/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	-	
96	第39図	SD2039	R0419+R0420	PC点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(7.0)	7.5YR6/4 (にぶい橙) 7.5YR8/6 (浅黄橙)	良好	-	
97	第39図	SD2039	R0421	PC点	弥生土器	甕	弥生	-	-	(3.65)	5YR5/6 (明赤褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	良好	-	
98	第39図	SD2042	R0393	PC点	弥生土器 or 土師器	台付甕	弥生 or 古墳	-	-	(4.9)	7.5YR5/6 (明褐) 10YR7/6 (浅黄褐)	良好	75	
99	第39図	SX2003	R0364	PC点	土師器	坏	平安	-	5.7	(2.45)	10YR6/2 (灰黄褐) 10YR7/3 (にぶい黄橙)	良好	50	
100	第39図	SX2004	R0623	PC点	土師器	S字甕	古墳	-	-	(3.45)	5YR7/6 (橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	良好	90	
101	第39図	SX2005	R0360	PC点	土師器	台付甕	古墳	-	-	(3.0)	5YR5/4 (にぶい赤褐) 7.5YR5/4 (にぶい褐)	良好	-	

2区(遺構外出土)

報告 番号	挿図 番号	遺構名	R 番号	取上 方法	種別	分類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	内面色調 外面色調	焼成	残存率 (%)	備考
102	第39図 -	遺構外	R0175	一括	弥生土器	壺	弥生	-	-	(2.95)	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	-	
103	第39図 -	遺構外	R0175	一括	弥生土器	壺	弥生	-	-	(3.6)	7.5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	良好	-	
104	第39図 -	遺構外	R0205	一括	弥生土器	壺	弥生	-	-	(2.8)	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	-	
105	第39図 PL.24	遺構外	R0167+R0175 +R0166+R0169 +R0350	PC点 一括	弥生土器	壺	弥生	-	5.0	(6.5)	10YR7/3 (にぶい黄橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	40	
106	第39図 -	遺構外	R0238	一括	弥生土器	小型壺	弥生	-	-	(3.9)	5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	良好	-	
107	第39図 -	遺構外	R0175	一括	弥生土器	甕	弥生	-	-	(2.6)	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR5/6 (明赤褐)	良好	-	
108	第39図 -	遺構外	R0158	PC点	弥生土器	甕	弥生	-	-	(4.0)	5YR6/6 (橙) 2.5YR6/8 (橙)	良好	-	
109	第39図 -	遺構外	R0176	PC点	弥生	台付甕	弥生	-	-	(5.2)	5YR5/1 (褐灰) 5YR7/6 (橙)	良好	85	
110	第39図 -	遺構外	R0238	一括	土師器	壺	古墳	-	-	(4.6)	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	-	
111	第39図 -	遺構外	R0163	PC点	土師器	壺?	古墳	-	-	(1.9)	7.5YR6/6 (橙) 7.5YR5/4 (にぶい褐)	良好	-	
112	第39図 -	遺構外	R0175	一括	土師器	小型壺	古墳	-	-	(2.95)	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	良好	-	
113	第39図 PL.24	遺構外	R0177	PC点	土師器	二重口縁壺	古墳	-	[15.65]	(6.95)	7.5YR7/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	20	
114	第39図 -	遺構外	R0181	PC点	土師器	S字甕	古墳	-	-	(3.9)	7.5YR5/3 (にぶい褐) 5YR6/6 (橙)	良好	-	
115	第39図 -	遺構外	R0180	PC点	土師器	S字甕	古墳	-	-	(2.25)	7.5YR6/4 (にぶい橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	良好	-	
116	第39図 -	遺構外	R0170	PC点	土師器	S字甕	古墳	-	-	(2.9)	5YR7/6 (橙) 7.5YR4/2 (灰褐)	良好	90	
117	第39図 -	遺構外	R0162	PC点	土師器	S字甕	古墳	-	[8.8]	(4.5)	7.5YR6/4 (にぶい橙) 7.5YR6/6 (橙)	良好	20	
118	第39図 -	遺構外	R0161	PC点	土師器	甕	古墳	-	-	(4.2)	5YR6/4 (にぶい橙) 5YR7/6 (橙)	良好	-	
119	第39図 -	遺構外	R0188	PC点	土師器	台付甕	古墳	-	-	(3.3)	5YR6/8 (橙) 5YR7/6 (橙)	良好	95	
120	第39図 -	遺構外	R0210	PC点	土師器	台付甕	古墳	-	-	(3.55)	7.5YR6/4 (にぶい橙) 2.5YR6/6 (橙)	良好	-	
121	第39図 -	遺構外	R0196	PC点	土師器	台付甕	古墳	-	-	(2.1)	7.5YR6/4 (にぶい橙) 2.5Y7/1 (灰白)	良好	-	
122	第39図 PL.24	遺構外	R0197	PC点	土師器	高坏	古墳	[12.9]	-	(5.0)	5YR7/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	30	
123	第39図 -	遺構外	R0643	PC点	土師器	高坏	古墳	-	-	(4.8)	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	良好	-	
124	第39図 -	遺構外	R0154	PC点	土師器	高坏	古墳	-	-	(4.3)	5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	85	
125	第39図 -	遺構外	R0644	PC点	土師器	高坏	古墳	-	-	(2.75)	7.5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	良好	95	
126	第39図 -	遺構外	R0338	PC点	土師器	高坏	古墳	-	-	(2.95)	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	-	
127	第39図 -	遺構外	R0155	PC点	土師器	高坏	古墳	-	-	(1.6)	5YR6/6 (橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	良好	-	
128	第39図 -	遺構外	R0157	PC点	土師器	鉢	古墳	-	-	(3.4)	5YR6/8 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	-	
129	第39図 -	遺構外	R0163+R0178 +R0457	PC点 一括	土師器	坏 (かわらけ)	平安末 ~中世	9.0	5.05	1.9	7.5YR6/6 (橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	良好	70	
130	第39図 -	遺構外	R0339	PC点	須恵器	壺 or 瓶類	古墳	-	-	(4.9)	10YR6/2 (灰黄褐) 5Y5/3 (灰オリーブ)	良好	-	
131	第39図 PL.24	遺構外	R0168	PC点	陶器	甕	中世	-	-	(6.4)	7.5YR5/3 (にぶい褐) 5YR5/3 (にぶい赤褐)	良好	-	常滑 14~15世紀
132	第39図 PL.24	遺構外	R0175	一括	陶器	片口鉢	中世	-	-	(4.0)	2.5Y6/2 (灰黄) 2.5Y6/2 (灰黄)	良好	-	常滑 13世紀前半
報告 番号	挿図 番号	遺構名	R 番号	取上 方法	種別	分類	時代	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考		
133	第39図 PL.24	遺構外	R0645	PC点	石器	石杵	弥生?	14.0	6.9	4.2	486.13	砂岩製		

3区 (古墳出土)

報告番号	挿図番号 図版番号	遺構名	R 番号	取上方法	種別	分類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	内面色調 外面色調	焼成	残存率 (%)	備考
134	第 53 図 -	SZ2001 (SD2047)	R0480	PC 点	土師器	甕	古墳	-	-	(2.4)	5YR7/6 (橙) 2.5YR7/8 (橙)	良好	-	
135	第 53 図 PL.25	SZ2001 (SD2047)	R0658	PC 点	土師器	小型壺	古墳	-	3.3	(4.0)	7.5Y7/6 (橙) 7.5Y7/6 (橙)	良好	95	
136	第 53 図 PL.25	SZ2002 (SX2010)	R0291+R0319 +R0513+R0691 +R0692+R0694 +R0688+R0583 +R0628+R0728	PC 点 一括	土師器	坏	古墳	12.75	4.8	4.1	2.5YR6/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	良好	80	
137	第 53 図 PL.25	SZ2002 (SX2010)	R0291+R0319 +R0468+R0551 +R0692+R0728 +R0549+R0691 +R0583+R0586 +R0728+R0690	PC 点 一括	土師器	坏	古墳	[12.0]	3.8	4.7	5YR6/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	良好	55	同一? (R0694,R0628 ,R0583,R0728)
139	第 53 図 PL.25	SZ2004 (SD2022)	R0711+R0712 +R0713+R0714 +R0715+R0716 +R0717+R0718 +R0719+R0720 +R0721+R0604 +R0523	PC 点 一括	土師器	坏	古墳	12.5	4.6	5.25	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	95	
140	第 53 図 PL.25	SZ2004 (SD2022)	R0698+R0699 +R0700	PC 点	土師器	壺	古墳	7.7	-	(10.8)	2.5YR5/8 (明赤褐) 2.5YR5/8 (明赤褐)	良好	35	同一? (R0243,R0468 ,R0488,R0523)
141	第 53 図 PL.25	SZ2004 (SD2022)	R0701+R0702 +R0703+R0704 +R0705+R0706 +R0707+R0708 +R0709+R0710	PC 点	須恵器	坏身	古墳	12.0	-	5.3	2.5Y5/2 (黄灰) 5Y6/1 (灰)	良好	70	
142	第 53 図 -	SZ2004 (SD2022)	R0512	PC 点	須恵器	壺・瓶類	古墳	-	-	(3.4)	7.5Y4/1 (灰) 7.5Y4/1 (灰)	良好	-	
143	第 53 図 PL.25	SZ2004 (SD2022)	R0722	PC 点	須恵器	甗	古墳	10.2	-	11.05	2.5Y4/1 (黄灰) 2.5Y2/1 (黒)	良好	100	

付表
出土遺物観察表

報告番号	挿図番号 図版番号	遺構名	R 番号	取上方法	種別	分類	時代	全長 (cm)	全長 (cm)	刃部 幅 (cm)	厚さ (cm)	全長 (cm)	茎部 幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
138	第 53 図 PL.25・26	SZ2003 (SK2042)	R0508	PC 点	鉄製品	刀子	古墳	18.4	12.0	2.05	0.6	6.4	1.5	0.4	44.58	X 線写真あり

3区 (その他の遺構出土)

報告番号	挿図番号 図版番号	遺構名	R 番号	取上方法	種別	分類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	内面色調 外面色調	焼成	残存率 (%)	備考
144	第 63 図 PL.24	SD2022 SK2044	R0503+R0510 +R0511+R0617 +R0626	PC 点 一括	弥生土器	壺	弥生	-	-	(9.8)	7.5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	良好	25	同一? (R0271,R0291 ,R0468,R0522)
145	第 63 図 -	SD2022	R0500	PC 点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(3.2)	7.5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	良好	-	
146	第 63 図 -	SD2045	R0594	PC 点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(3.8)	10YR7/4 (にぶい黄橙) 10YR7/4 (にぶい黄橙)	良好	-	
147	第 63 図 -	SD2045	R0578	一括	土師器	高坏	古墳	-	-	(2.0)	10YR8/4 (浅黄橙) 10YR4/6 (赤)	良好	-	外面赤彩
148	第 63 図 PL.24	SD2045	R0600	PC 点	土師器	甕	古墳	[17.4]	-	(5.2)	10YR6/4 (にぶい黄橙) 10YR6/4 (にぶい黄橙)	良好	20	
150	第 63 図 -	SD2046	R0653+R0654 +R0655	PC 点	土師器	高坏	古墳	[21.6]	-	(4.8)	10YR7/6 (明黄褐) 10YR7/4 (にぶい黄橙)	良好	25	
151	第 63 図 -	SD2047	R0659	PC 点	弥生土器	壺	弥生	-	8.5	(2.1)	2.5YR4/1 (黄灰) 7.5YR7/6 (橙)	良好	50	
152	第 63 図 -	SD2047	R0542	PC 点	弥生土器?	壺	弥生?	-	-	(4.5)	5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	良好	-	
153	第 63 図 PL.24	SD2047	R0479+R0575	PC 点 一括	土師器	S 字甕	古墳	[14.8]	-	(3.1)	10YR7/4 (にぶい黄橙) 10YR7/4 (にぶい黄橙)	良好	25	SK2040 と接合
154	第 63 図 -	SK2037	R0476	PC 点	土師器	坏	古墳	-	-	(3.0)	5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	-	
155	第 63 図 -	SK2039	R0682	PC 点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(1.3)	5YR7/8 (橙) 5YR7/8 (橙)	良好	-	
156	第 63 図 -	SK2042	R0514	一括	弥生土器	壺	弥生	-	-	(2.7)	7.5YR6/6 (橙) 7.5YR6/6 (橙)	良好	-	
157	第 63 図 -	SK2042	R0514	一括	土師器	S 字甕	古墳	-	-	(1.9)	5YR5/8 (明赤褐) 5YR5/8 (明赤褐)	良好	-	
158	第 63 図 -	SK2042	R0507	PC 点	土師器	壺	古墳	-	-	(4.3)	7.5YR7/6 (橙) 10YR6/4 (にぶい黄橙)	良好	-	

報告 番号	挿図番号 図版番号	遺構名	R 番号	取上 方法	種別	分類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	内面色調 外面色調	焼成	残存率 (%)	備考
159	第 63 図 -	SK2044	R0504	PC 点	土師器	甕 or 壺	古墳	-	-	(2.8)	7.5YR8/6 (浅黄橙) 5YR6/6 (橙)	良好	-	
160	第 63 図 -	SK2044	R0520	一括	土師器	坏	古墳	-	-	(2.9)	7.5YR7/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	-	
161	第 63 図 -	SX2007	R0536	PC 点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(2.1)	2.5YR6/6 (橙) 2.5YR6/8 (橙)	良好	-	
162	第 63 図 -	SX2007	R0554	PC 点	土師器	壺	古墳	-	4.0	(1.8)	7.5YR6/6 (橙) 7.5YR6/6 (橙)	良好	60	
163	第 63 図 -	SX2008	R0651+R0652	PC 点	土師器	高坏	古墳	-	-	(5.0)	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	-	
164	第 63 図 -	SX2009	R0670	PC 点	土師器	S 字甕	古墳	-	-	(2.8)	5YR7/6 (橙) 5YR5/3 (にぶい赤褐)	良好	-	
165	第 63 図 -	SX2009	R0676+R0582	PC 点 一括	土師器	S 字甕	古墳	-	-	(2.8)	7.5YR6/6 (橙) 7.5YR6/6 (橙)	良好	-	
166	第 63 図 -	SX2009	R0662	PC 点	土師器	S 字甕	古墳	-	-	(3.7)	7.5YR6/6 (橙) 10YR6/6 (明黄褐)	良好	25	
167	第 63 図 -	SX2009	R0665	PC 点	土師器	器台	古墳	[9.2]	-	(2.5)	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	20	
168	第 63 図 -	SX2009	R0582	一括	土師器	高坏?	古墳	-	-	(2.0)	7.5YR6/4 (にぶい橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	良好	-	
169	第 63 図 -	SX2009	R0666	PC 点	土師器	高坏	古墳	-	-	(4.1)	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	-	
170	第 63 図 -	SX2009	R0673	PC 点	土師器	高坏	古墳	-	-	(5.2)	7.5YR6/6 (橙) 7.5YR6/6 (橙)	良好	30	
171	第 63 図 -	SX2010	R0695+R0577	PC 点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(6.3)	7.5YR4/1 (褐灰) 7.5YR7/6 (橙)	良好	-	
172	第 63 図 -	SX2010	R0696	PC 点	弥生土器	壺	弥生	-	[9.5]	(2.0)	5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	20	
173	第 63 図 -	SX2011	R0483	PC 点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(4.2)	10YR7/4 (にぶい黄橙) 5YR7/6 (橙)	良好	-	
174	第 63 図 PL.26	SX2011	R0525+R0526+ R0527+R0528+ R0529+R0530+ R0531+R0532+ R0533+R0584	PC 点 一括	土師器	壺	古墳	18.0	-	(6.9)	10YR8/4 (浅黄橙) 10YR8/4 (浅黄橙)	良好	85	
175	第 63 図 -	SX2011	R0561	PC 点	土師器	S 字壺	古墳	-	-	(2.2)	10YR6/4 (にぶい黄橙) 10YR6/4 (にぶい黄橙)	良好	-	
176	第 63 図 -	SX2012	R0590	PC 点	土師器	S 字甕	古墳	-	台径 (9.6)	(3.2)	5YR5/6 (明赤褐) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	良好	20	
177	第 63 図 -	SX2012	R0592	PC 点	土師器	高坏	古墳	-	-	(3.0)	5YR5/8 (明赤褐) 5YR5/8 (明赤褐)	良好	-	
報告 番号	挿図番号 図版番号	遺構名	R 番号	取上 方法	種別	分類	時代	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考		
149	第 63 図 PL.24	SD2045	R0601	PC 点	石器	砥石	古墳	(12.7)	4.5	(2.8)	281.82	砂岩製		

3区 (遺構外出土)

報告 番号	挿図番号 図版番号	遺構名	R 番号	取上 方法	種別	分類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm)	内面色調 外面色調	焼成	残存率 (%)	備考
178	第 63 図 PL.26	遺構外	R0327	PC 点	土師器	壺	弥生	[15.7]	-	(3.4)	-	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	20	
179	第 63 図 -	遺構外	R0291	一括	弥生土器	壺	弥生	-	-	(3.8)	-	7.5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	良好	-	
180	第 63 図 -	遺構外	R0319	一括	弥生土器	壺	弥生	-	-	(2.0)	-	7.5YR7/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	-	
181	第 63 図 -	遺構外	R0328	PC 点	土師器	壺	弥生	-	-	(4.2)	-	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR5/4 (にぶい褐)	良好	-	同一? (R0332)
182	第 63 図 -	遺構外	R0307	PC 点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(1.4)	-	5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	良好	-	
183	第 63 図 -	遺構外	R0346	PC 点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(3.1)	-	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	-	
184	第 63 図 -	遺構外	R0332	一括	弥生土器	壺	弥生	-	-	(4.2)	-	2.5YR7/1 (灰白) 7.5YR7/6 (橙)	良好	-	
185	第 63 図 PL.26	遺構外	R0321	PC 点	弥生土器	壺	弥生	-	-	(9.6)	-	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好	-	同一? (R0610)
186	第 63 図 -	遺構外	R0353	一括	弥生土器	甕	弥生	-	-	(2.0)	-	10YR7/4 (にぶい黄橙) 10YR7/4 (にぶい黄橙)	良好	-	
187	第 63 図 -	遺構外	R0730	一括	土師器	壺	古墳	-	-	(1.2)	-	7.5YR7/4 (にぶい橙) 7.5YR7/4 (にぶい橙)	良好	-	
188	第 63 図 -	遺構外	R0302	PC 点	土師器	S 字甕	古墳	-	-	(3.8)	-	2.5YR6/6 (橙) 10YR7/3 (にぶい黄橙)	良好	-	
189	第 63 図 -	遺構外	R0353	一括	土師器	甕	奈良	-	-	(3.9)	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	良好	-	
190	第 63 図 -	遺構外	R0332	一括	土師器	埴	古墳	-	-	(4.2)	-	5YR6/6 (橙) 5YR5/6 (明赤褐)	良好	-	
191	第 63 図 -	遺構外	R0630	一括	土師器	器台	古墳	-	-	(2.5)	-	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	-	
192	第 63 図 -	遺構外	R0353	一括	土師器	器台	古墳	-	-	(2.3)	孔径 1.2	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	20	
193	第 63 図 -	遺構外	R0301	PC 点	土師器	器台	古墳	-	-	(3.0)	孔径 [1.2]	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好	25	
194	第 63 図 -	遺構外	R0344+R0471 +R0353	PC 点 一括	土師器	高坏	古墳	-	-	(4.9)	-	2.5YR6/8 (橙) 2.5YR6/8 (橙)	良好	-	
195	第 63 図 -	遺構外	R0353	一括	須恵器	坏身	奈良	[14.8]	-	(3.2)	-	10YR7/1 (灰白) 10YR7/1 (灰白)	良好	20	
196	第 63 図 -	遺構外	R0241	PC 点	土師器	坏	平安	-	[5.5]	(1.7)	-	7.5YR7/4 (にぶい橙) 7.5YR7/3 (にぶい橙)	良好	25	
197	第 63 図 -	遺構外	R0244	PC 点	土器	不明	不明	-	-	(3.6)	-	10YR8/3 浅黄橙 10YR8/3 浅黄橙	良好	-	
報告 番号	挿図番号 図版番号	遺構名	R 番号	取上 方法	種別	分類	時代	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考			
198	第 63 図 PL.26	遺構外	R0345	PC 点	石器	砥石	古墳?	(12.0)	7.4	3.9	560	砂岩製			

写真図版

PLATE



1. 調査区完掘全景（北東から）



1. 調査区完掘遠景（南から）



2. 調査区完掘遠景（北から）



1. 調査区完掘全景（北東から）



2. 調査区完掘全景（北東から）



1. 1区完掘全景（北東から）



2. 調査前全景（南から）



3. 1区西側SD群検出（北西から）



4. FP2001 検出（北から）



5. FP2001 セクション（南西から）



1. 2区完掘全景（南東から）



2. 2区完掘西側（東から）



1. SD2026 完掘 (南西から)



2. SD2026FP01 (東から)



3. SD2026 遺物 (89) 出土状況 (東から)



4. SD2030 完掘 (北東から)



5. SD2034 完掘 (西から)



6. SD2034 遺物 (93) 出土状況 (南西から)



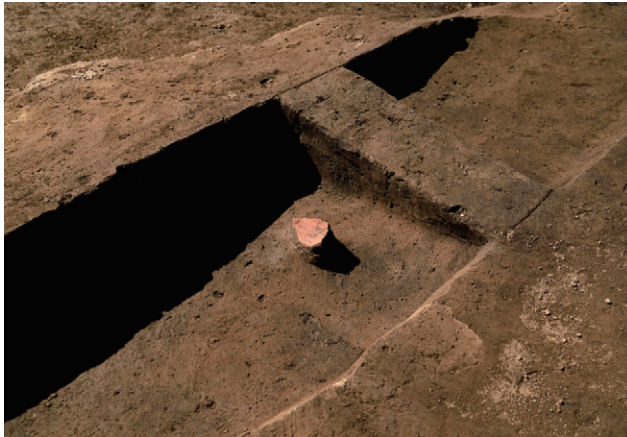
1. SD2039 遺物 (96・97) 出土状況 (北東から)



2. SD2042 遺物 (98) 出土状況 (南西から)



3. SD2043・SD2044 完掘 (西から)



4. SD2044 遺物出土状況 (北東から)



5. SK2029 遺物出土状況 (北東から)



6. 2区遺構外遺物 (109) 出土状況 (南から)



7. 2区遺構外遺物 (122) 出土状況 (南西から)



1. 3区完掘全景（北東から）



2. 3区完掘東側（北西から）



1. 3区完掘東側（北から）



2. 3区完掘西側（北東から）



1. 3区完掘西側（東から）



2. 3区完掘西側（南東から）



3. 3区遺構検出全景（北西から）



1. 3区遺構検出全景（北から）



2. SZ2001・SZ2002 検出（北から）



1. SZ2001・SZ2002 (北から)



2. SZ2001・SZ2002 (南東から)



1. SZ2001 完掘 (北東から)



2. SZ2001・SZ2002 完掘 (北東から)



1. SZ2001 セクション (北東から)



2. SZ2001 遺物 (奥が 135) 出土状況 (西から)



3. SZ2002 完掘 (北西から)



4. SZ2003 完掘 (北から)



5. SZ2003 遺物 (138) 出土状況 (北西から)



1. SZ2004 完掘 (東から)



1. SZ2004 完掘 (北東から)



2. SZ2004 (北西から)



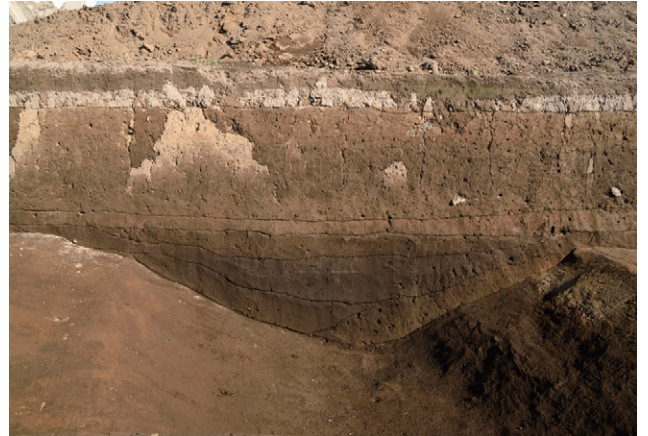
1. SZ2004 セクション (東から)



2. SZ2004 セクション (南西から)



3. SZ2004 セクション (南西から)



4. SZ2004 セクション (南西から)



5. SZ2004 遺物 (139・143) 出土状況 (北から)



6. SZ2004 遺物出土状況 (南東から)



7. SZ2004 調査風景 (西から)



1. SZ2004 遺物 (139・140・141・143) 出土状況 (北から)



2. SZ2004 遺物 (140) 出土状況 (北から)



3. SZ2004 遺物 (141) 出土状況 (南東から)



4. SZ2004 遺物 (139・143) 出土状況 (北西から)



5. SZ2004 遺物 (143) 出土状況 (北から)



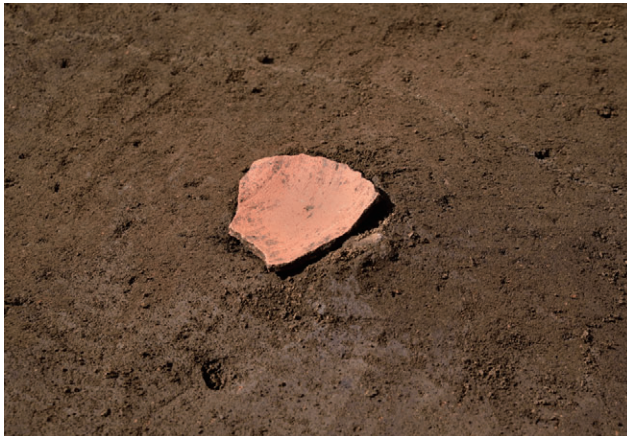
1. SZ2005・SZ2006 完掘 (北から)



2. SD2045・SX2012 完掘 (北西から)



3. SD2048・SD2049 完掘 (北東から)



4. 3区遺構外遺物 (185) 出土状況 (北から)



5. 3区遺構外遺物 (198) 出土状況 (北西から)



1. SX2009 セクション (東から)



2. SX2009 完掘 (東から)



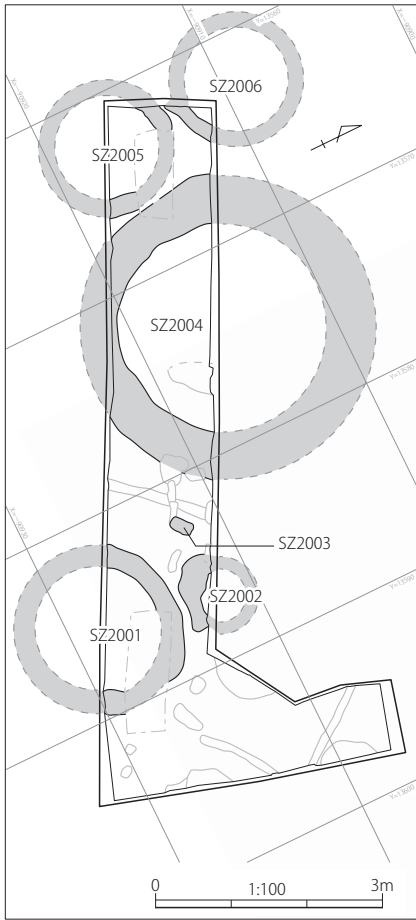
3. SX2011 検出 (南東から)



4. SX2011 セクション (南東から)



5. SX2011 遺物 (174) 出土状況 (南東から)



1. 3区 オルソ画像





1



12



15

確認調査出土遺物



17 (SD2004)



82



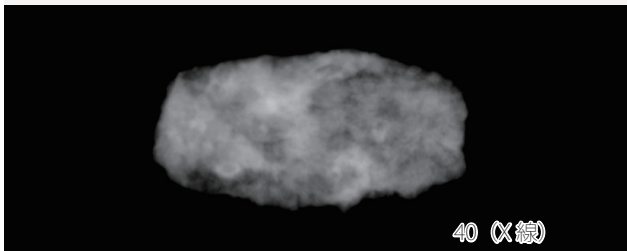
26 (SD2014)



83



40 (SD2020)



40 (X線)



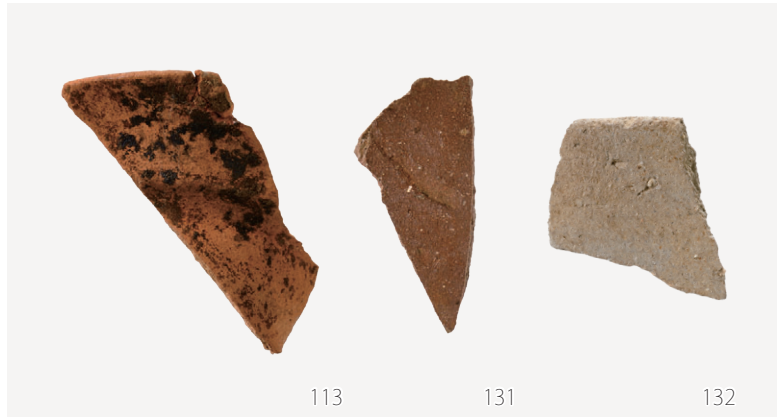
84

本調査1区 溝状遺構出土遺物

本調査1区 遺構外出土遺物



122



113

131

132



105



133

本調査 2 区 遺構外出土遺物



144 (SD2022)



148 (SD2045)



153 (SD2047)



149 (SD2045)

本調査 3 区 溝状遺構出土遺物



報告書抄録

ふりがな	さわひがしえーいせき だいにじゅうはちじ
書名	沢東 A 遺跡 第 28 次
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	富士市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第 77 集
編著者名	藤村 翔・若林 美希 (編著)・小島 利史 (編)・古瀬 岳洋 (著)
編集機関	富士市教育委員会 (担当課: 文化財課)
所在地	〒 417-0061 静岡県富士市伝法 66 番地の 2 TEL 0545-30-7850
発行年月日	令和 5 年 3 月 17 日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯 東経	地区名	調査期間	発掘面積 (m ²)	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
さわひがしえー いせき	しずおかけん ふじし くざわ	22210	33	35° 10' 50.27" 138° 38' 57.01"	第 28 次 調査地点	20210420 ～ 20210423	225.388	確認調査
沢東 A 遺跡	静岡県 富士市 久沢					20210927 ～ 20211126		
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項		
沢東 A 遺跡	集落跡	弥生時代 古墳時代 平安時代 中 世		古墳 7 溝状遺構 47 炉 1 土坑 28 ピット 14	弥生土器 土師器 須恵器 陶磁器 刀子	須恵器皿・坏身 龍泉窯系青磁碗		

要 約	<p>富士市久沢に所在する沢東 A 遺跡は、潤井川と凡夫川が合流する地点の東岸、大淵扇状地西側の緩やかな丘陵上の標高 20～40m に位置する集落遺跡である。これまでの調査では古墳時代中期後半から後期、飛鳥時代にかけて営まれた多数の堅穴建物や祭祀遺構が検出されており、旧富士川河口部（潤井川下流域）東岸における拠点的な集落であったと考えられている。</p> <p>第 28 次調査地点の調査では、古墳 7 基、溝状遺構 47 条、炉 1 基、土坑 28 基、ピット 14 基、不明遺構 12 基を検出し、主として弥生時代後期から古墳時代、平安時代から中世の遺物が出土した。弥生時代後期から古墳時代前期は、当遺跡では希薄とみられていた時期であるが、今回の調査では当該期に帰属する多数の土器片が、畝間溝や区画溝の可能性のある溝などに伴い出土した。今回の調査区一帯は、集落到に近接する生産域（耕作地）であった可能性が高い。古墳時代後期前半の遺構としては、当遺跡では初となる、7 基以上の小規模な円墳や土坑墓からなる古墳群が発見された。周溝のあるものはいずれも円墳で互いに近接して立地し、全体的に小規模ながらも大小の古墳で構成される点に特色がある。各古墳の周溝出土遺物の年代観から、古墳時代後期前半（TK47～MT15 型式併行期）を中心に築かれた円墳群とみられ、古式群集墳の新例として評価できる。平安時代末から中世も当遺跡では実態が不明瞭な時期であるが、今回の調査では底部糸切未調整の土師器坏やかかわらけ、常滑産陶器や龍泉窯系青磁碗といった遺物を検出することができた。これらの遺物は、交通の要衝でもある富士川河口部に展開した中世集落の実態に迫る資料として評価できる可能性がある。</p>
-----	--

富士市埋蔵文化財調査報告 第 77 集

沢東 A 遺跡 第 28 次

発行年月日 令和 5 年 3 月 17 日

編集・発行 富士市教育委員会
〒 417-0061 静岡県富士市伝法 66 番地の 2
TEL 0545-30-7850 FAX 0545-30-6210
E-mail:ky-bunkazai@div.city.fuji.shizuoka.jp

印刷・製本 ネクストデザイン株式会社
〒 417-0061 静岡県富士市伝法 2847-3

(富士市行政資料登録番号 R4-50)

